

赤穂市 子ども・子育て支援新制度における
ニーズ調査

【結果報告書】

平成 26 年 3 月

赤 穂 市

目 次

I. 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	2
2 調査概要.....	2
3 報告書の見方.....	2
II. 調査結果.....	3
お住まいの地域・ご家族の状況等について.....	4
子どもの育ちをめぐる環境について.....	8
保護者の就労状況について.....	28
平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について(就学前児童).....	37
地域の子育て支援事業の利用状況について(就学前児童).....	46
土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について(就学前児童).....	52
病気の際の対応について(平日の教育・保育を利用する方のみ).....	56
不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	62
小学校就学後の放課後の過ごし方について.....	69
育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について.....	77
赤穂市での子育てや子育て支援サービスについて.....	88
子どもの安全の確保について(小学生児童).....	101

I . 調査の概要

1 調査の目的

赤穂市では、子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）に基づく新たな子ども・子育て支援の制度の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、5年間を一期とする子ども・子育て支援事業計画を作成し、計画的に給付・事業を実施する予定です。

本調査は、この計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を市が算出するため、住民の皆さんの教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握する目的で実施しました。

2 調査概要

- 調査地域：赤穂市全域
- 調査対象者：市内在住の「就学前児童」をお持ちの世帯・保護者（就学前児童調査）
市内在住の「小学生」をお持ちの世帯・保護者（小学生児童調査）
- 抽出方法：就学前児童調査は、幼稚園、保育所に通う児童 976 人、未就園児 650 人
小学生児童調査は、小学校に通う（5年生まで）児童 1,563 人
- 調査期間：平成 26 年 1 月 17 日（金）～平成 26 年 1 月 31 日（金）
- 調査方法：就学前児童調査は幼稚園、保育所を通じて配布・回収
（未就園児については郵送配布・回収）
小学生児童調査は小学校を通じて配布・回収

調査票	調査対象者数（配布数）	有効回収数	有効回収率
就学前児童	1,626	1,199	73.7%
小学生児童	1,563	1,468	93.9%
合計	3,189	2,667	83.6%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

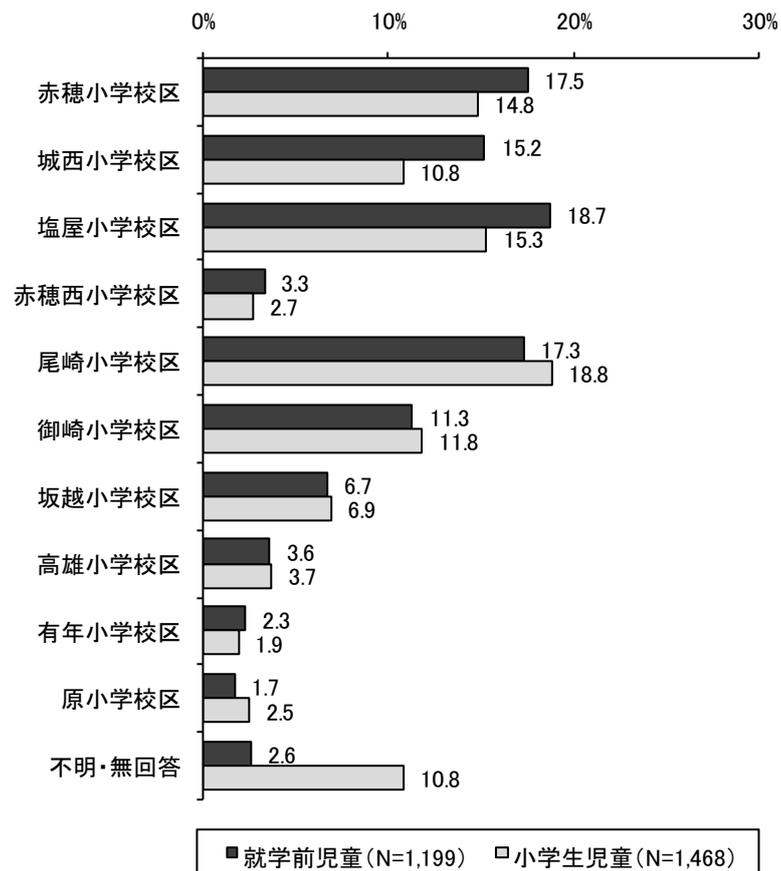
Ⅱ. 調査結果

<就学前児童調査・小学生児童調査>

お住まいの地域・ご家族の状況等について

(1) 小学校区〈単数回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問1〕

小学校区についてみると、就学前児童では「塩屋小学校区」が18.7%、小学生児童では「尾崎小学校区」が18.8%と、最も高くなっています。



(2) 対象の子どもの生年月〈数量回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問2〕

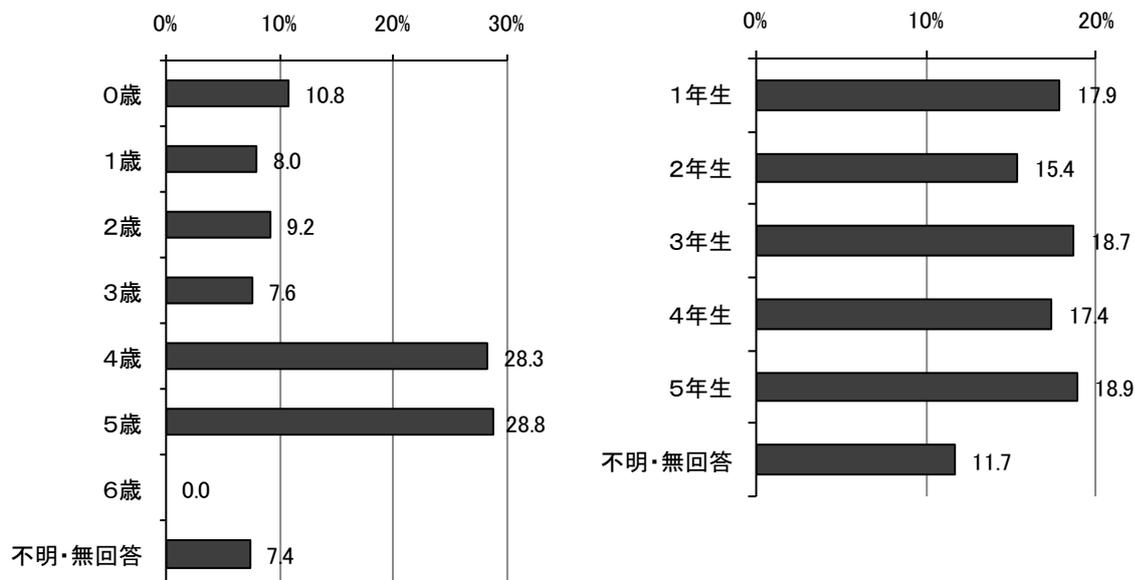
平成 25 年4月1日現在

年齢についてみると、就学前児童では「5歳」が28.8%、「4歳」が28.3%、「0歳」が10.8%となっています。

小学生児童では「5年生」が18.9%、「3年生」が18.7%、「1年生」が17.9%となっています。

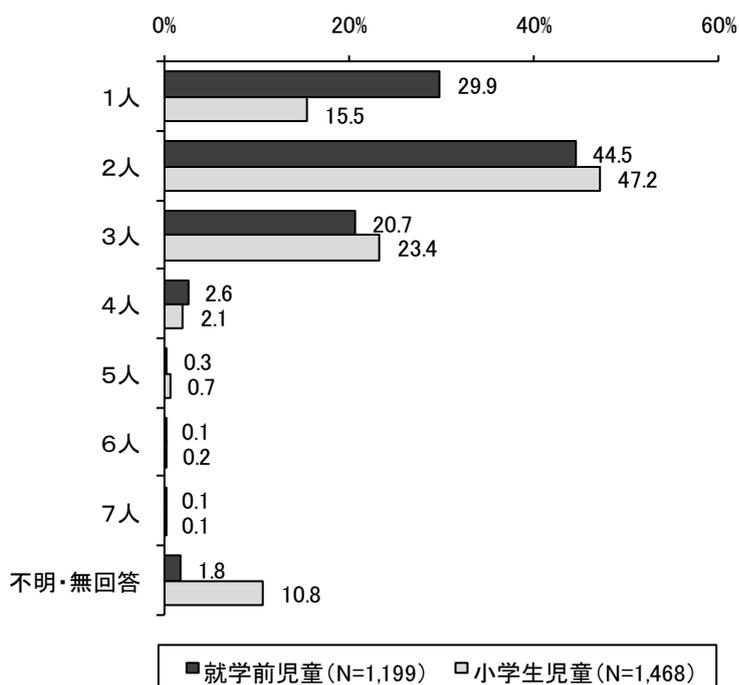
就学前児童(N=1,199)

小学生児童(N=1,468)



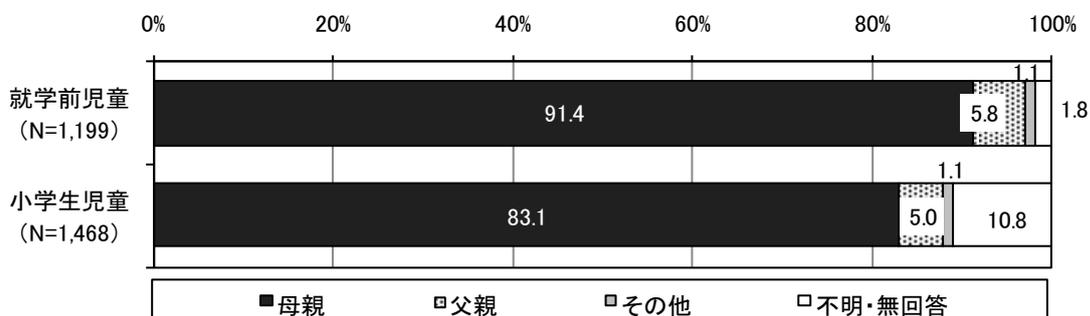
(3) 子どもの人数〈数量回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問3〕

子どもの人数についてみると、「2人」が就学前児童では44.5%、小学生児童では47.2%と最も高くなっています。次いで、就学前児童では「1人」が29.9%、小学生児童では「3人」が23.4%となっています。



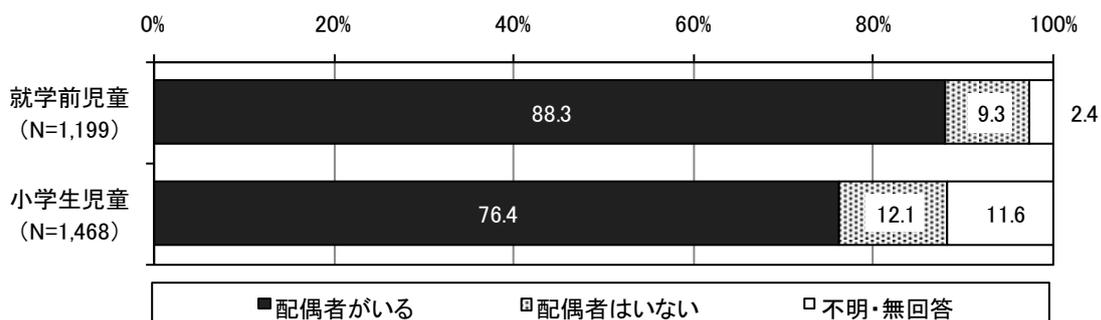
(4) 調査票の回答者〈単数回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問4〕

回答者についてみると、「母親」が就学前児童で91.4%、小学生児童で83.1%と最も高く、大部分を占めています。



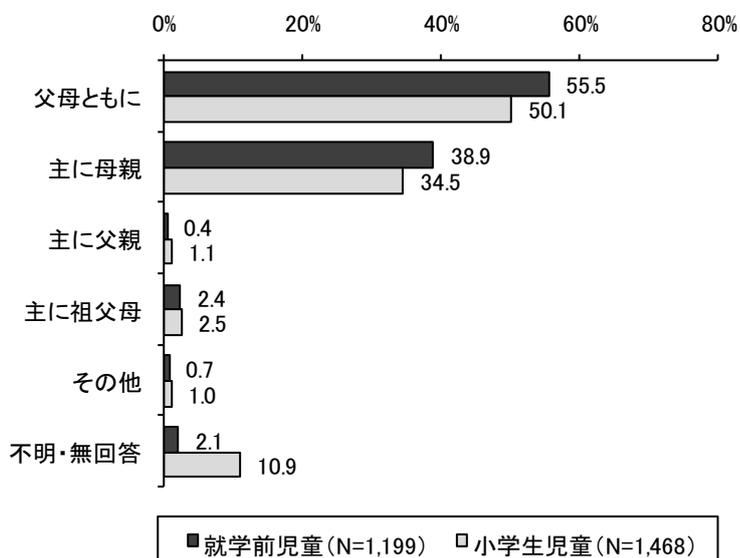
(5) 調査票の回答者の配偶関係の有無〈単数回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問5〕

回答者の配偶関係の有無についてみると、「配偶者がいる」が就学前児童で88.3%、小学生児童で76.4%となっています。



(6) 子育てを主に行っている方〈単数回答〉〔就学前児童調査、小学生児童調査…問6〕

子育てを主に行っている方についてみると、「父母ともに」が就学前児童で55.5%、小学生児童で50.1%と最も高く、次いで、「主に母親」が就学前児童で38.9%、小学生児童で34.5%となっています。



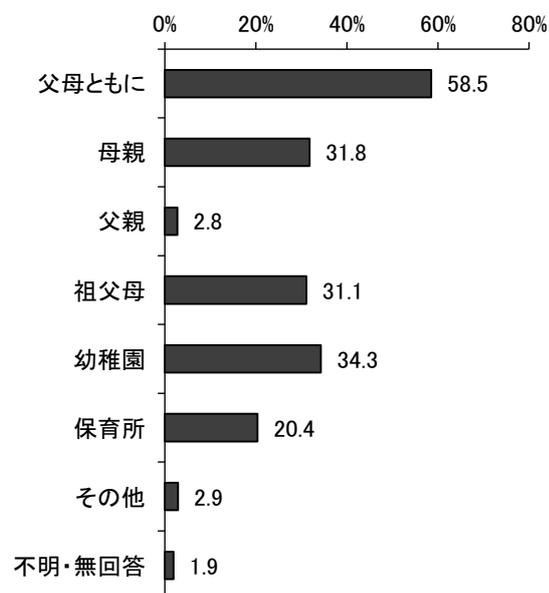
子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 子育てに日常的に関わっている方(施設)〈複数回答〉

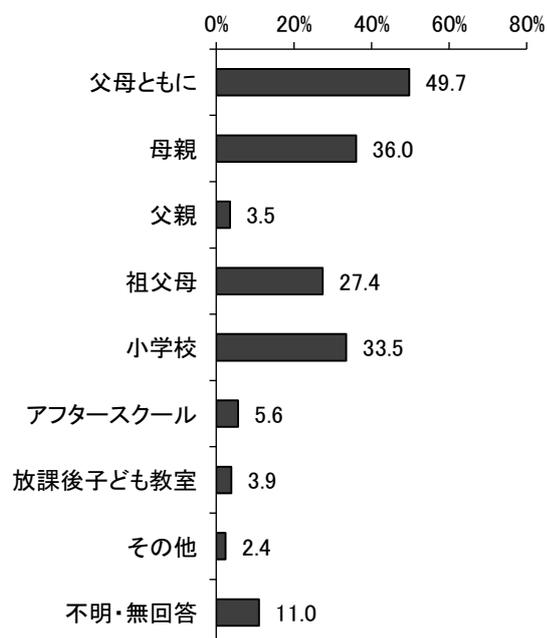
〔就学前児童調査、小学生児童調査…問7〕

子育てに日常的に関わっている方(施設)についてみると、「父母ともに」が就学前児童で58.5%、小学生児童で49.7%と最も高くなっています。次いで、就学前児童は「幼稚園」で34.3%、小学生児童は「母親」で36.0%となっています。

就学前児童(N=1,199)



小学生児童(N=1,468)



年齢別 × 子育てに日常的に関わっている方（施設）

就学前児童について年齢別にみると、〔3歳〕を除く年齢で「父母ともに」が、〔3歳〕では「保育所」が最も高くなっています。また、〔4歳〕〔5歳〕では「幼稚園」も高くなっています。

小学生児童について年齢別にみると、すべての学年で「父母ともに」が最も高くなっています。

【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳	
	N=129		N=96		N=110		N=91		N=339		N=345	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
父母ともに	82	63.6	55	57.3	62	56.4	48	52.7	204	60.2	201	58.3
母親	44	34.1	34	35.4	36	32.7	28	30.8	107	31.6	113	32.8
父親	5	3.9	7	7.3	3	2.7	4	4.4	6	1.8	8	2.3
祖父母	36	27.9	38	39.6	42	38.2	29	31.9	107	31.6	100	29.0
幼稚園	0	0.0	1	1.0	2	1.8	5	5.5	199	58.7	195	56.5
保育所	34	26.4	37	38.5	57	51.8	50	54.9	37	10.9	25	7.2
その他	4	3.1	2	2.1	3	2.7	3	3.3	6	1.8	14	4.1
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	3	0.9

【小学生児童】 年齢別	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生	
	N=263		N=226		N=275		N=255		N=277	
	件数	%								
父母ともに	144	54.8	121	53.5	160	58.2	141	55.3	152	54.9
母親	109	41.4	95	42.0	99	36.0	107	42.0	111	40.1
父親	13	4.9	16	7.1	7	2.5	7	2.7	7	2.5
祖父母	91	34.6	68	30.1	100	36.4	62	24.3	74	26.7
小学校	120	45.6	86	38.1	95	34.5	84	32.9	103	37.2
アフタースクール	35	13.3	29	12.8	17	6.2	1	0.4	0	0.0
放課後子ども教室	24	9.1	17	7.5	14	5.1	0	0.0	1	0.4
その他	8	3.0	6	2.7	6	2.2	7	2.7	7	2.5
不明・無回答	3	1.1	1	0.4	2	0.7	0	0.0	3	1.1

家庭類型別 × 子育てに日常的に関わっている方（施設）

家庭類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに「ひとり親家庭」を除くすべての家庭類型で「父母ともに」が、「ひとり親家庭」では「母親」が最も高くなっています。また、就学前児童では「ひとり親家庭」「フルタイム×フルタイム」「フルタイム×パートタイム（長時間）」では「保育所」が、「フルタイム×パートタイム（短時間）」「専業主婦（夫）」では「幼稚園」が比較的高くなっており、定期的な教育・保育事業の利用状況が結果に表れています。

【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭 N=103		フルタイム×フルタイム N=214		（パートタイム）×フルタイム N=107		（パートタイム）×フルタイム N=120		専業主婦（夫） N=437		（パートタイム）×パートタイム N=1		無業×無業 N=2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	父母ともに	14	13.6	148	69.2	77	72.0	72	60.0	280	64.1	1	100.0	2
母親	67	65.0	36	16.8	19	17.8	43	35.8	149	34.1	0	0.0	0	0.0
父親	6	5.8	6	2.8	1	0.9	2	1.7	10	2.3	0	0.0	0	0.0
祖父母	52	50.5	100	46.7	29	27.1	31	25.8	95	21.7	0	0.0	0	0.0
幼稚園	17	16.5	47	22.0	35	32.7	69	57.5	169	38.7	0	0.0	1	50.0
保育所	58	56.3	98	45.8	44	41.1	1	0.8	6	1.4	0	0.0	0	0.0
その他	7	6.8	8	3.7	3	2.8	2	1.7	8	1.8	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	2	1.9	0	0.0	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
0														

【小学生児童】 家庭類型別	ひとり親家庭 N=172		フルタイム×フルタイム N=220		（パートタイム）×フルタイム N=324		（パートタイム）×フルタイム N=74		専業主婦（夫） N=345		（パートタイム）×パートタイム N=1		無業×無業 N=3	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	父母ともに	16	9.3	157	71.4	215	66.4	45	60.8	207	60.0	1	100.0	2
母親	130	75.6	61	27.7	110	34.0	30	40.5	138	40.0	0	0.0	2	66.7
父親	15	8.7	9	4.1	7	2.2	1	1.4	5	1.4	0	0.0	1	33.3
祖父母	90	52.3	107	48.6	72	22.2	13	17.6	63	18.3	0	0.0	0	0.0
小学校	81	47.1	76	34.5	114	35.2	26	35.1	140	40.6	0	0.0	0	0.0
アフタースクール	28	16.3	39	17.7	11	3.4	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0
放課後子ども教室	10	5.8	9	4.1	12	3.7	1	1.4	15	4.3	0	0.0	0	0.0
その他	11	6.4	3	1.4	5	1.5	1	1.4	7	2.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	1	0.6	0	0.0	2	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

※就学前調査、小学生調査ともに「パートタイム×パートタイム（短時間）」の回答がありませんでした。（これ以降の家族類型別集計も同様です）

※分析について、就学前調査、小学生調査の「パートタイム×パートタイム（長時間）」「無業×無業」は回答件数が少ないため、分析では触れないこととします。（これ以降の家族類型別集計も同様です）

【家庭類型の種類】

ニーズ調査結果を活用し、対象となる子どもの父母の有無や就労状況から「家庭類型」を求めています。家庭類型の種類は、下記の8種類となっています。（※保育の必要性の下限時間は48時間～64時間の間で、市町村において設定可能）

※この調査結果の集計では保育の必要性の下限時間は64時間に設定しています。

家庭類型の種類

タイプ	父母の有無と就労状況
タイプA	ひとり親家庭
タイプB	フルタイム×フルタイム
タイプC	フルタイム×パートタイム(長時間※) (※就労時間:月120時間以上+64時間～120時間の一部)
タイプC'	フルタイム×パートタイム(短時間※) (※就労時間:月64時間未満+64時間～120時間の一部)
タイプD	専業主婦(夫)
タイプE	パートタイム×パートタイム(長時間※) (※就労時間:双方が月120時間以上+64時間～120時間の一部)
タイプE'	パートタイム×パートタイム(短時間※) (※就労時間:いずれかが月64時間未満+64時間～120時間の一部)
タイプF	無業×無業

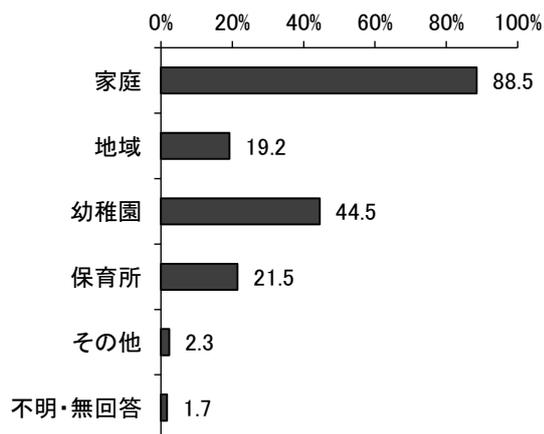
		母親		父親				
		1. フルタイム就労 2. 育休・介護休業中		3. パートタイム就労 4. 育休・介護休業中			5. 現在は就労していない 6. 就労したことがない	
				120時間以上	120時間未満 下限時間以上	下限時間未満		
1. フルタイム就労 2. 育休・介護休業中		タイプB		タイプC		タイプC'		
3. パートタイム就労 4. 育休・介護休業中	120時間以上	タイプC		タイプE				タイプD
	120時間未満 下限時間以上	タイプC'				タイプE'		
	下限時間未満							
5. 現在は就労していない 6. 就労したことがない				タイプD				タイプF

(2) 子育てや教育に影響すると思われる環境〈複数回答〉

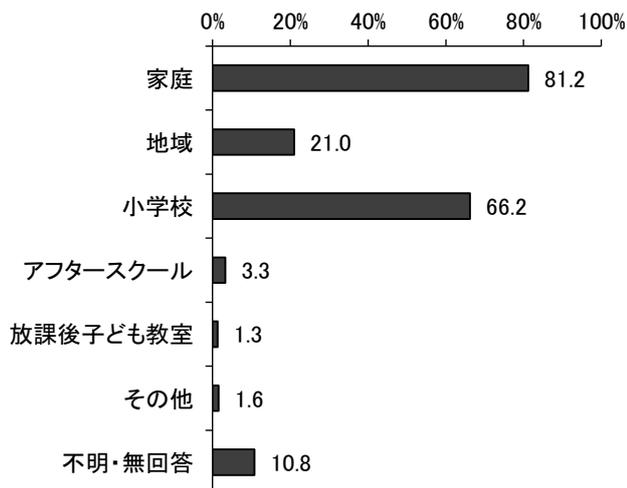
〔就学前児童調査、小学生児童調査…問8〕

子育てや教育に影響すると思われる環境についてみると、「家庭」が就学前児童で88.5%、小学生児童で81.2%と最も高くなっています。次いで、「幼稚園」が就学前児童で44.5%、「小学校」が小学生児童で66.2%となっています。

就学前児童(N=1,199)



小学生児童(N=1,468)

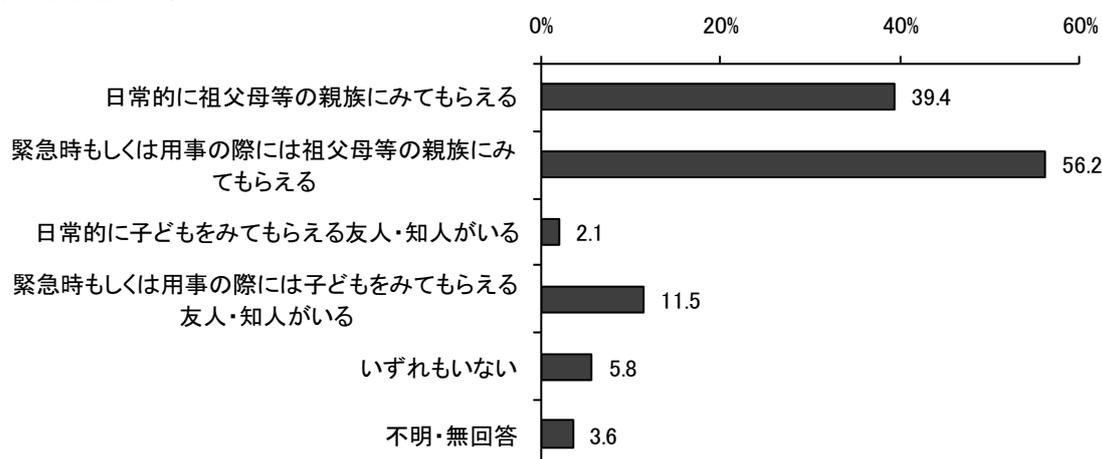


(3) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問9〕

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無についてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が56.2%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が39.4%となっています。

就学前児童(N=1,199)

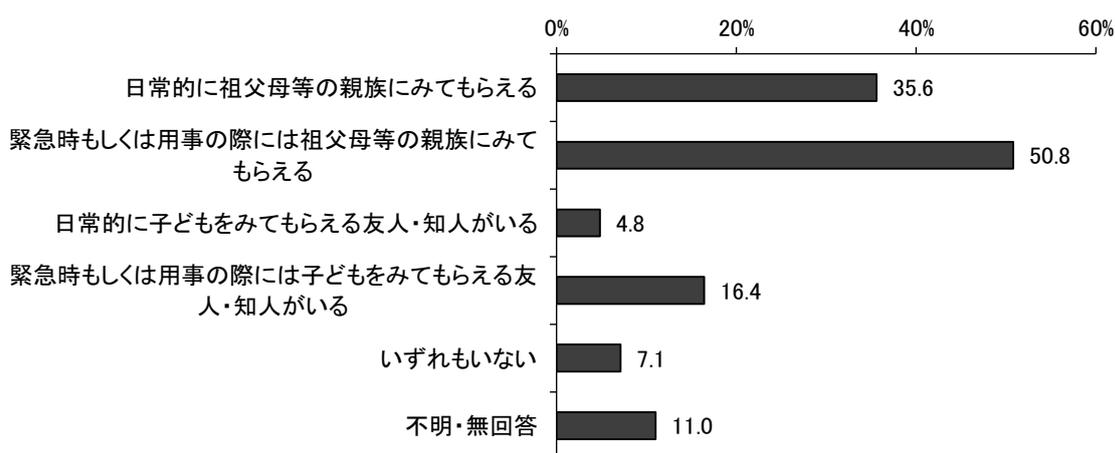


前回調査比較：日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

前回調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっていますが、「いずれもない」割合は、わずかに今回調査のほうが低くなっています。

【前回調査結果（平成21年）】

就学前児童(N=1,302)



家庭類型別 × 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無

家庭類型別にみると、[ひとり親家庭]以外のすべての家庭類型では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高く、全体と同様の傾向となっています。一方、[ひとり親家庭]では、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高く、親族に預ける機会が多いことがうかがえます。

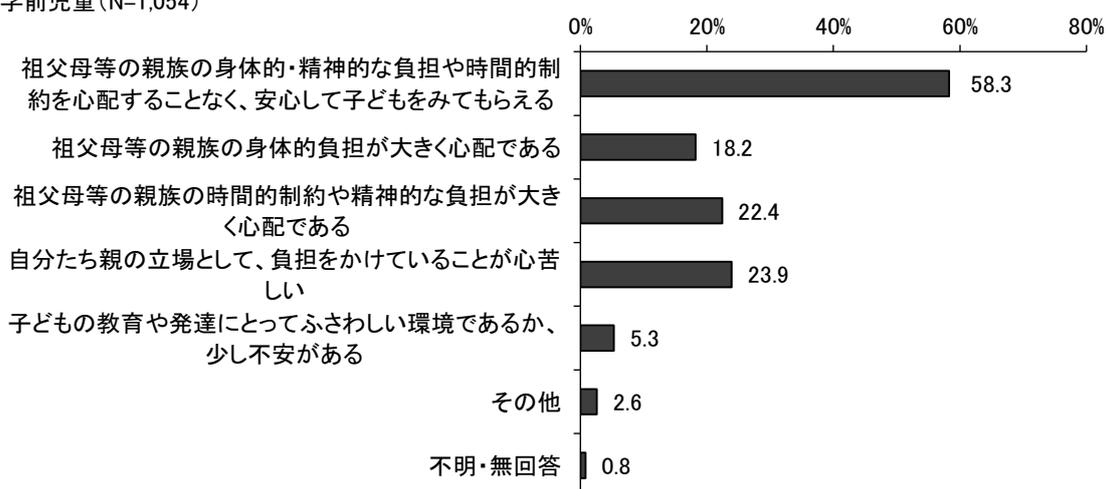
【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭		フルタイム×フ		（パートタイム）×		（パートタイム）×		専業主婦（夫）		（パートタイム）×		無業×無業	
	N=103		N=214		N=107		N=120		N=437		N=1		N=2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	55	53.4	104	48.6	35	32.7	50	41.7	138	31.6	0	0.0	0	0.0
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	41	39.8	111	51.9	69	64.5	71	59.2	268	61.3	0	0.0	2	100.0
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	1	1.0	2	0.9	0	0.0	5	4.2	8	1.8	0	0.0	0	0.0
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	8	7.8	16	7.5	12	11.2	24	20.0	58	13.3	0	0.0	1	50.0
いずれもない	7	6.8	10	4.7	7	6.5	2	1.7	30	6.9	1	100.0	0	0.0
不明・無回答	5	4.9	8	3.7	3	2.8	2	1.7	11	2.5	0	0.0	0	0.0

(3)で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」を選んだ方

(3) - 1 祖父母等の親族にみてもらっている状況〈複数回答〉〔就学前児童調査…問9-1〕

祖父母等の親族にみてもらっている状況についてみると、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が58.3%と最も高く、次いで、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が23.9%となっています。

就学前児童(N=1,054)



家庭類型別 × 祖父母等の親族にみてもらっている状況

家庭類型別にみると、すべての家庭類型で「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も高くなっています。また、[ひとり親家庭]では、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が、「フルタイム×フルタイム」では「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が他の家庭類型と比較して高くなっており、親族に日常的に預けながら、親族への負担に心苦しさを抱えています。

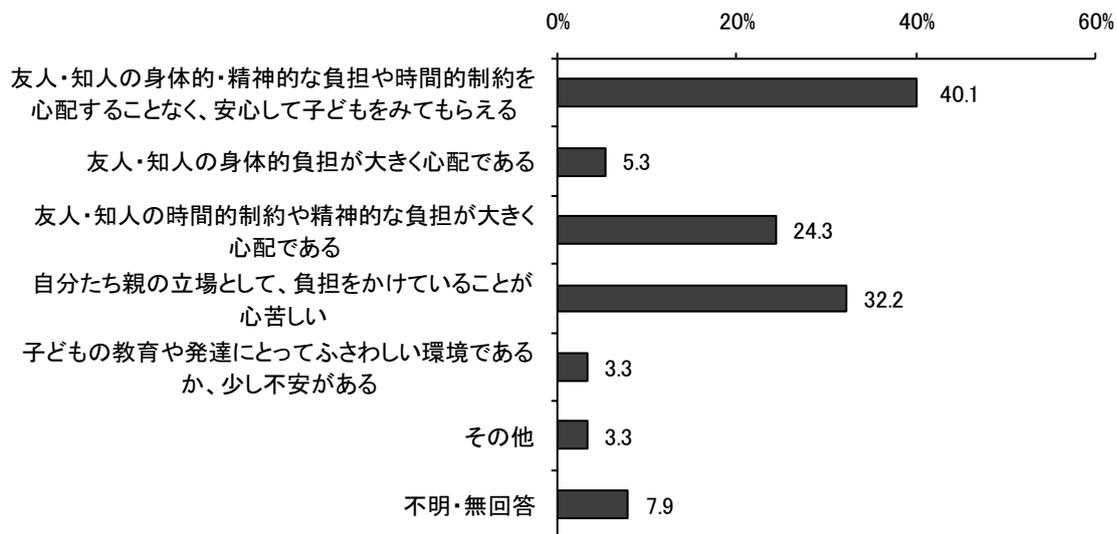
【就学前児童】 家庭類型別	ひとり親家庭		フルタイム×ファミリー		（パフ）長（短）時間（フル）タイム（パート）タイム		（パフ）短（短）時間（フル）タイム（パート）タイム		専業主婦（夫）		（パフ）長（短）時間（フル）タイム（パート）タイム		無業×無業	
	N=89		N=192		N=95		N=108		N=384		N=-		N=2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる	48	53.9	97	50.5	47	49.5	69	63.9	241	62.8	0	0.0	1	50.0
祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である	20	22.5	52	27.1	21	22.1	13	12.0	54	14.1	0	0.0	0	0.0
祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である	29	32.6	54	28.1	28	29.5	23	21.3	68	17.7	0	0.0	1	50.0
自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい	22	24.7	72	37.5	25	26.3	28	25.9	62	16.1	0	0.0	1	50.0
子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある	3	3.4	13	6.8	6	6.3	3	2.8	17	4.4	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	7	3.6	0	0.0	1	0.9	15	3.9	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	1	1.1	0	0.0	3	0.8	0	0.0	0	0.0

(3)で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」を選んだ方

(3)－2 友人・知人にみてもらっている状況〈複数回答〉〔就学前児童調査…問9－2〕

友人・知人にみてもらっている状況についてみると、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が40.1%と最も高く、次いで、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が32.2%となっています。

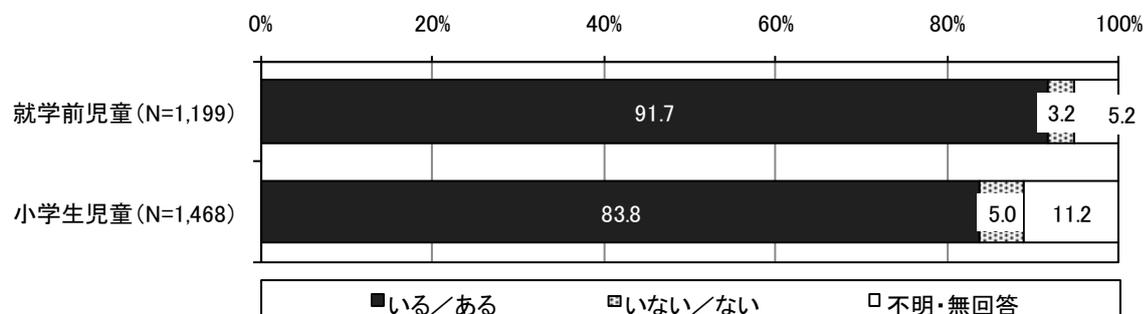
就学前児童(N=152)



(4) 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 10、小学生児童調査…問9〕

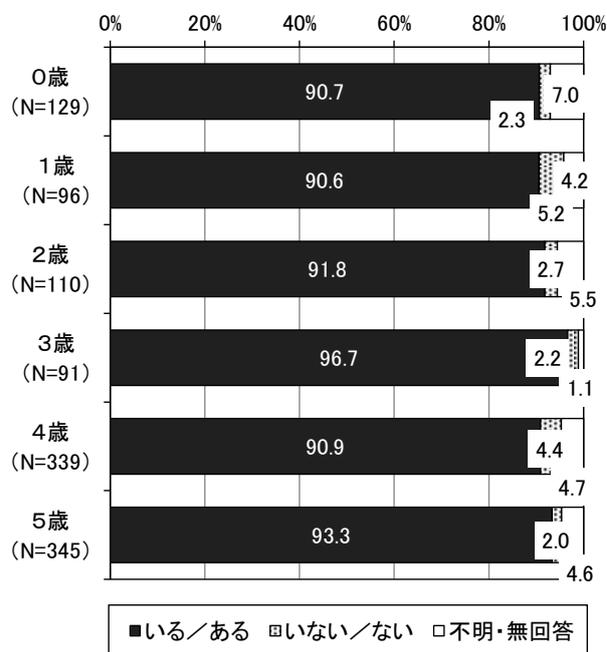
子育てをする上での相談相手(場所)の有無についてみると、「いる／ある」が就学前児童で91.7%、小学生児童で83.8%となっています。



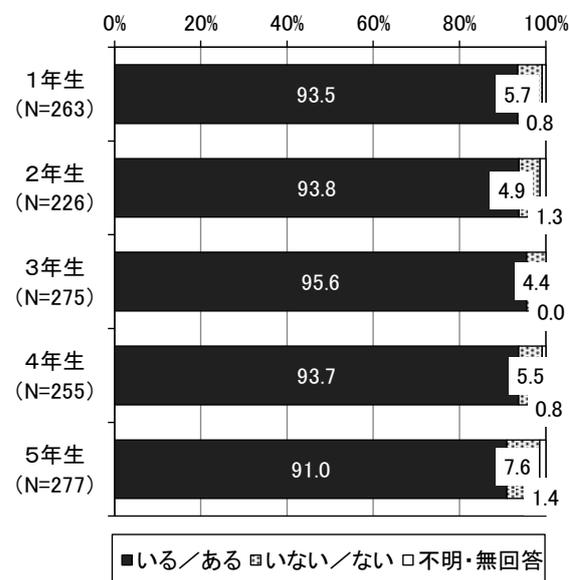
年齢別 × 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無

就学前児童について年齢別にみると、すべての年齢で「いる／ある」が9割以上となっています。小学生児童について年齢別にみると、すべての年齢で「いる／ある」が9割以上となっていますが、[5年生]では他の年齢よりやや割合が低くなっています。

就学前児童



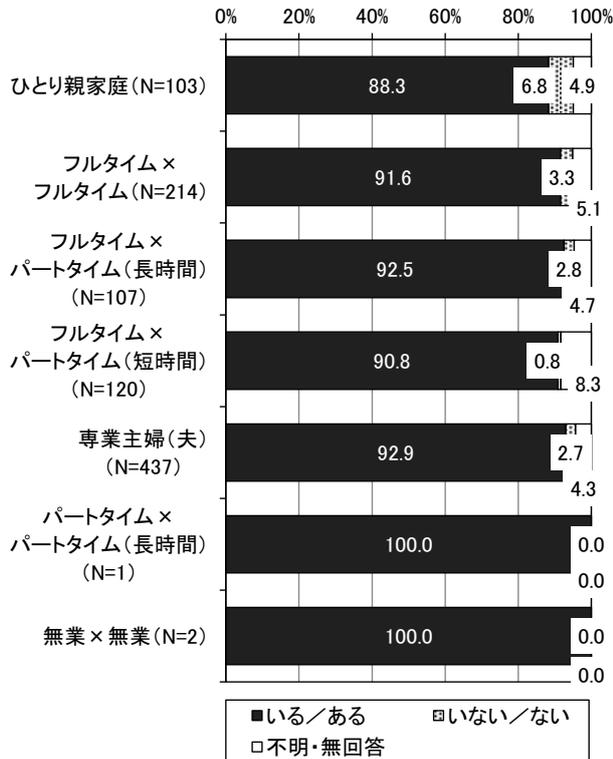
小学生児童



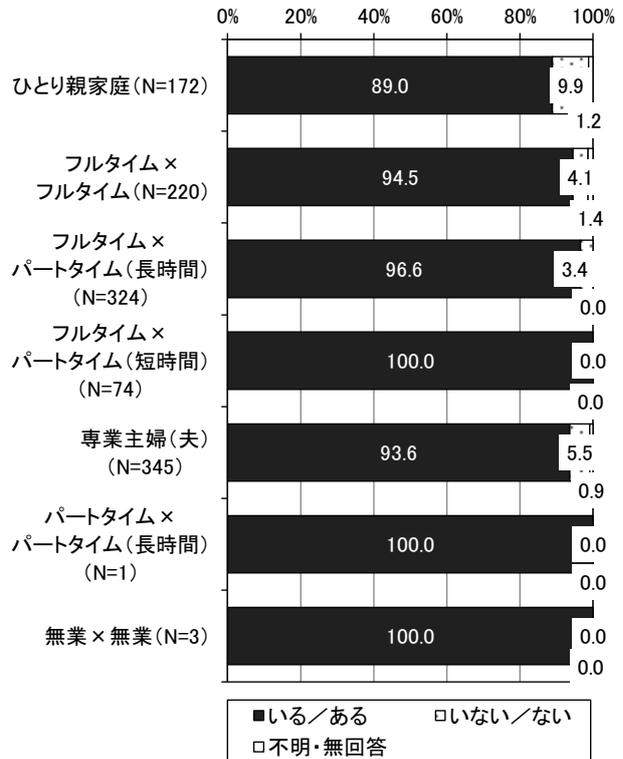
家庭類型別 × 子育てをする上での相談相手や相談できる場所の有無

家庭類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに「ひとり親家庭」以外のすべての家庭類型で「いる／ある」割合が9割以上となっています。一方、「ひとり親家庭」では、「いない／ない」が他の家庭類型に比べてやや高くなっています。

就学前児童



小学生児童

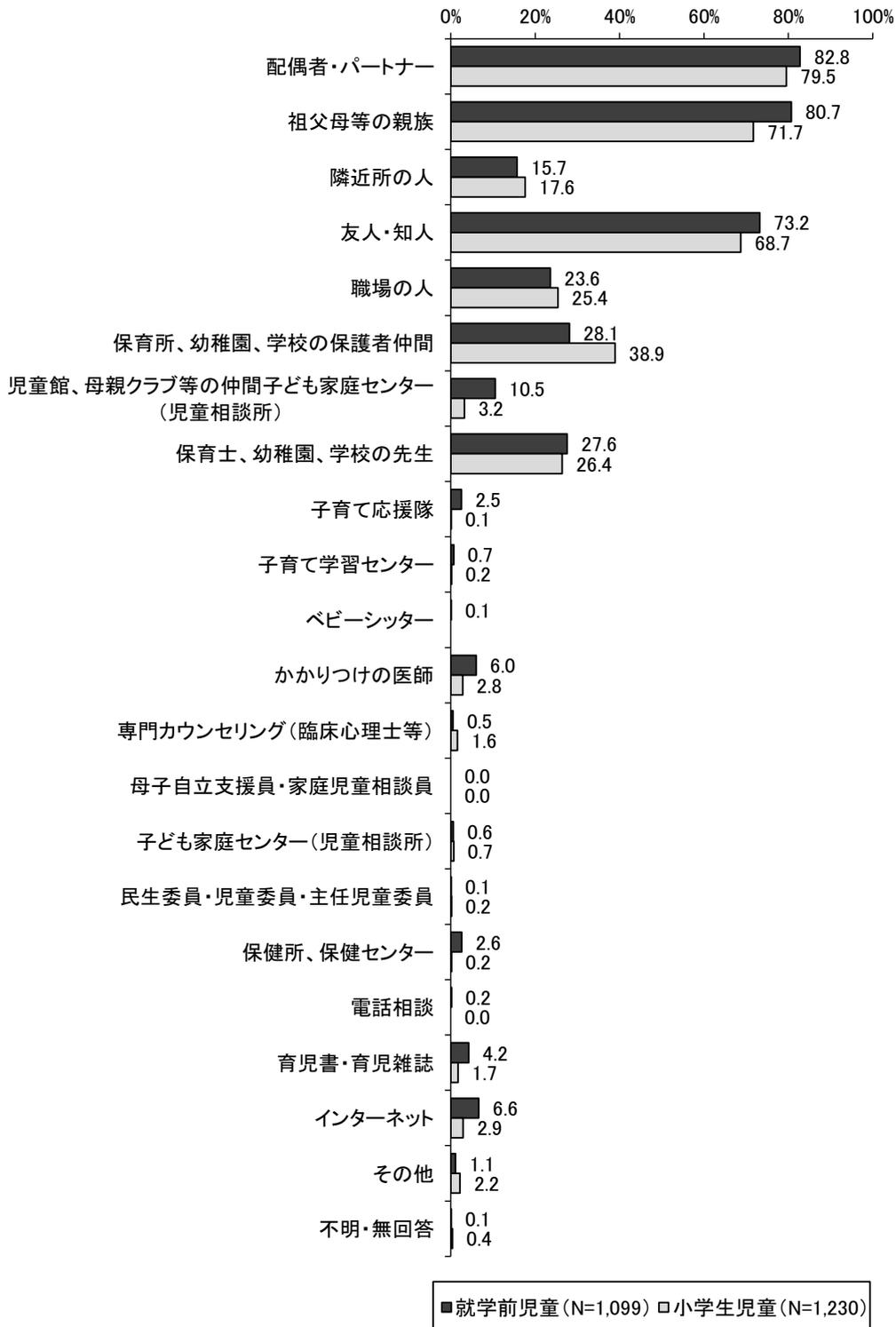


(4)で「ある」を選んだ方

(4) - 1 子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる人(場所)〈複数回答〉

[就学前児童調査…問10-1、小学生児童調査…問9-1]

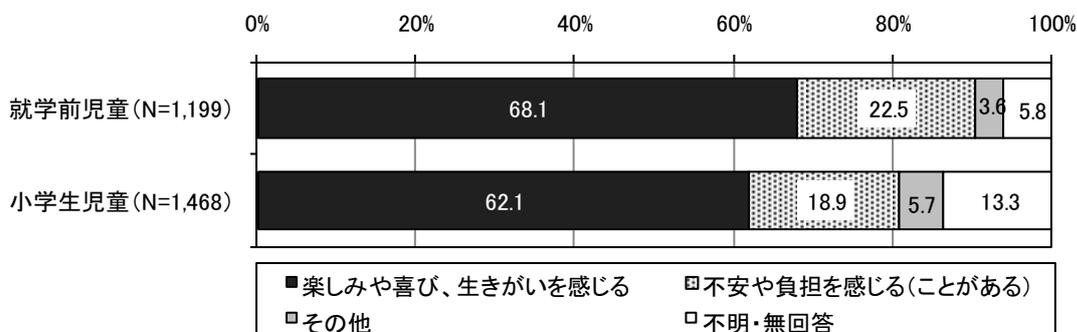
子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる人(場所)についてみると、「配偶者・パートナー」が就学前児童で82.8%、小学生児童で79.5%と最も高くなっています。次いで「祖父母等の親族」が就学前児童で80.7%、小学生児童で71.7%となっています。



(5) 子育てについて全体的にどのように感じるか〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 11、小学生児童調査…問 10〕

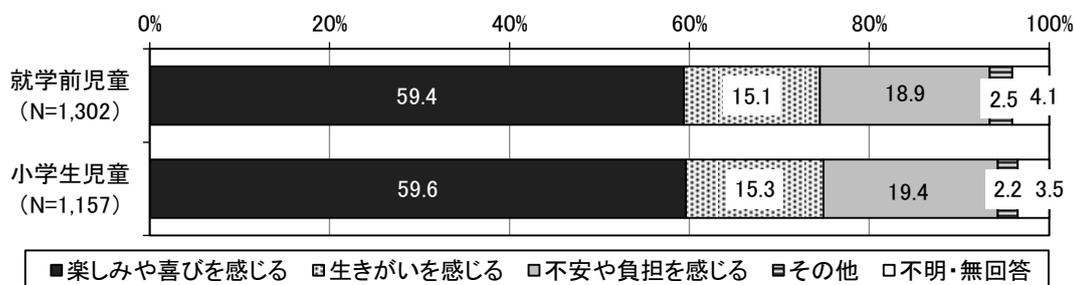
子育てについて全体的にどのように感じるかについてみると、「楽しみや喜び、生きがいを感じる」が就学前児童で 68.1%、小学生児童で 62.1%と最も高くなっています。次いで「不安や負担を感じる(ことがある)」が就学前児童で 22.5%、小学生児童で 18.9%となっています。



前回調査比較：子育てについて全体的にどのように感じるか

前回調査と比較すると、「楽しみや喜びを感じる」「生きがいを感じる」を合わせると、就学前児童は 74.5%、小学生児童は 74.9%と、ともに今回調査の方が低くなっています。また、「不安や負担を感じる」は就学前児童では今回調査の方が高く、小学生児童で低くなっています。

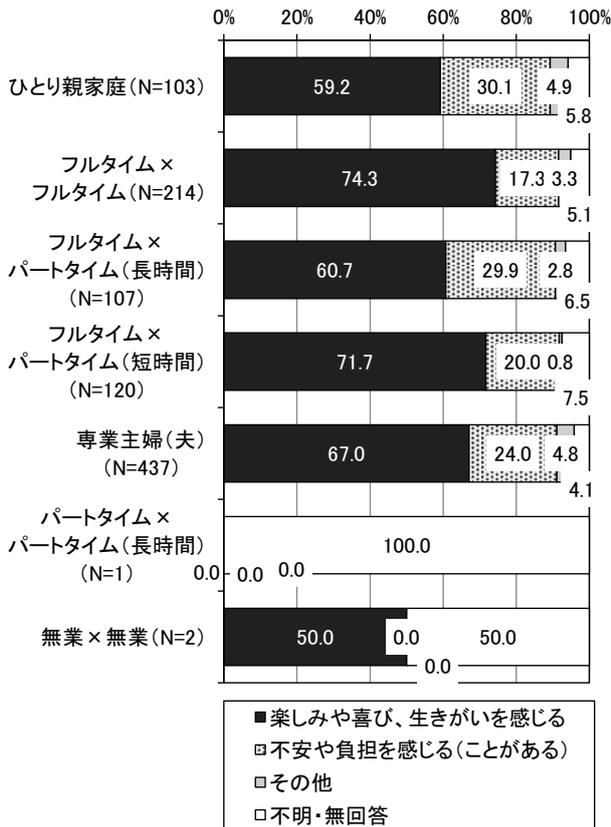
【前回調査結果（平成 21 年）】



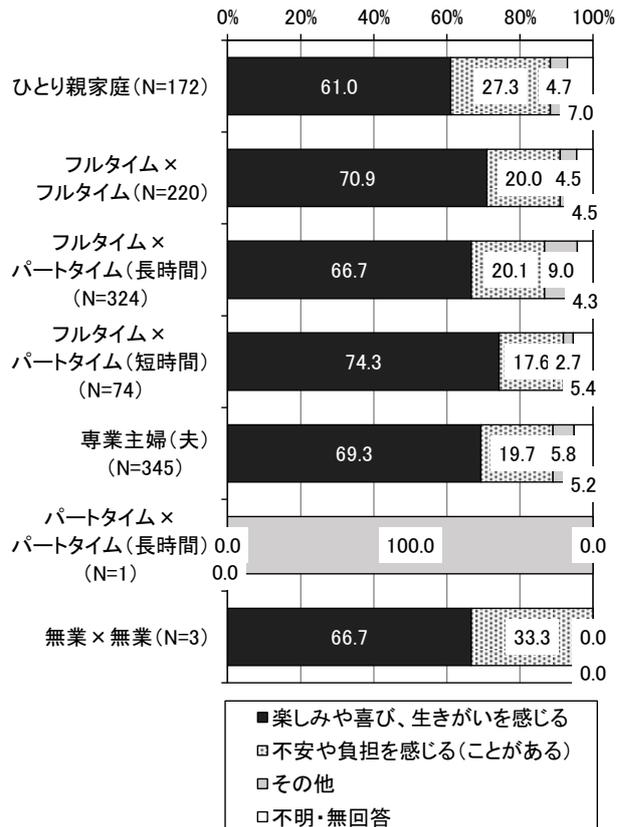
家庭類型別 × 子育てについて全体的にどのように感じるか

家庭類型別にみると、就学前児童、小学生児童ともに〔フルタイム×フルタイム〕〔フルタイム×パートタイム（短時間）〕では「楽しみや喜び、生きがいを感じる」が7割以上と高くなっています。また、就学前児童の〔ひとり親家庭〕〔フルタイム×パートタイム（長時間）〕、小学生児童の〔ひとり親家庭〕では「不安や負担を感じる（ことがある）」が約3割と、他の家庭類型に比べて高くなっています。

就学前児童



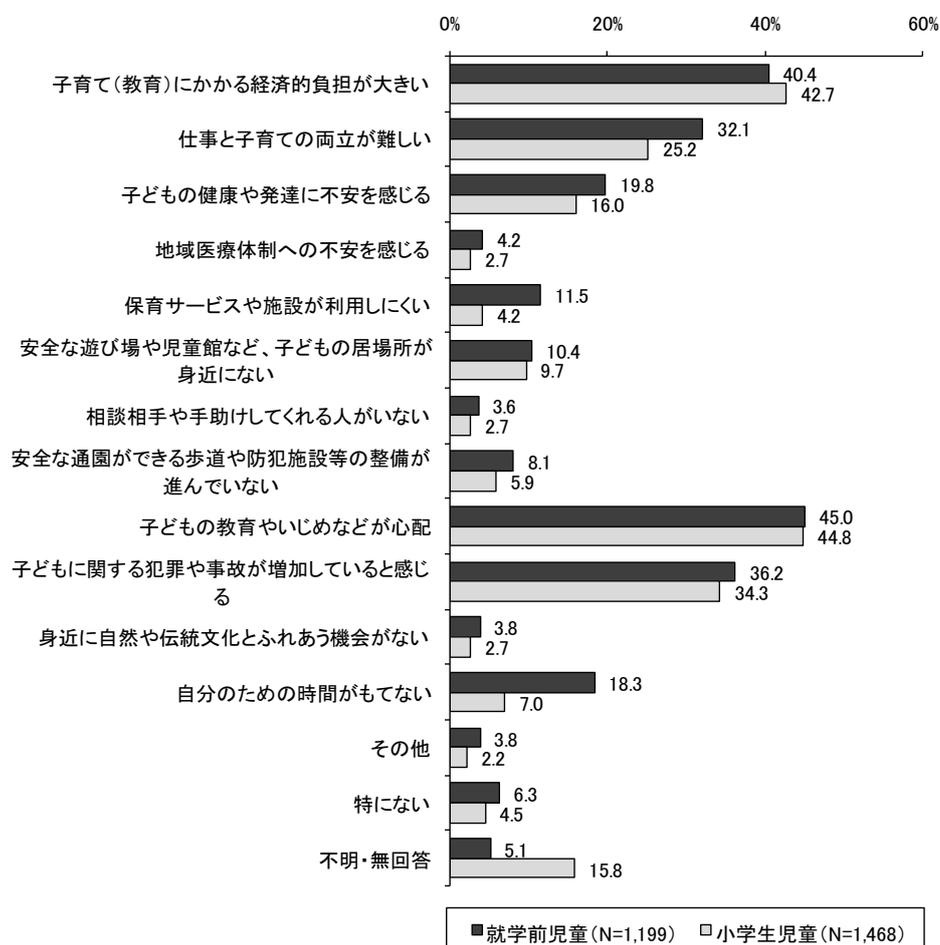
小学生児童



(6) 子育てについてどのような不安や負担を感じるか〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 11-1、小学生児童調査…問 10-1〕

子育てについてどのような不安や負担を感じるかについては、「子どもの教育やいじめなどが心配」が就学前児童で 45.0%、小学生児童で 44.8%となっています。



年齢別 × 子育てについてどのような不安や負担を感じるか

就学前児童について年齢別にみると、[0歳]では「仕事と子育ての両立が難しい」が、[1歳]では「子育て（教育）にかかる経済的負担が大きい」が[3歳]～[5歳]では「子どもの教育やいじめなどが心配」が最も高くなっています。

小学生児童について年齢別にみると、すべての学年で「子どもの教育やいじめなどが心配」「子どもの教育やいじめなどが心配」が上位1位、2位となっています。

就学前児童、小学生児童ともに子育てや教育に関する経済的負担や教育内容、いじめ等について不安を抱いていることがうかがえます。

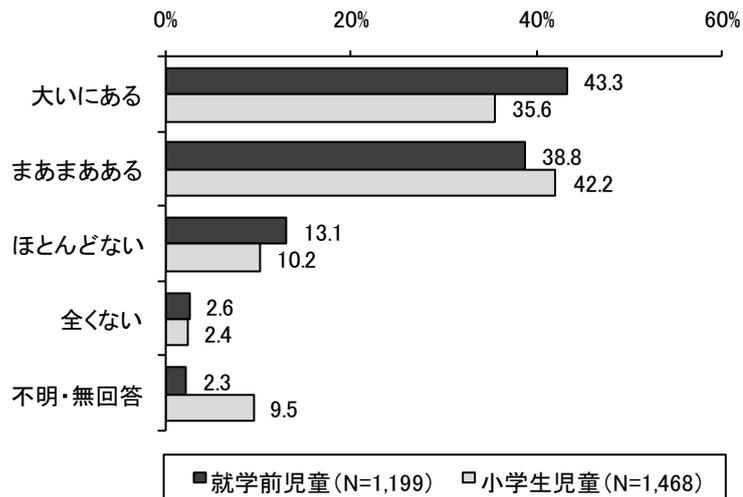
【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳	
	N=129		N=96		N=110		N=91		N=339		N=345	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
子育て(教育)にかかる経済的負担が大きい	40	31.0	40	41.7	42	38.2	35	38.5	141	41.6	158	45.8
仕事と子育ての両立が難しい	49	38.0	36	37.5	39	35.5	36	39.6	108	31.9	97	28.1
子どもの健康や発達に不安を感じる	28	21.7	18	18.8	16	14.5	21	23.1	78	23.0	59	17.1
地域医療体制への不安を感じる	5	3.9	5	5.2	7	6.4	4	4.4	11	3.2	14	4.1
保育サービスや施設が利用しにくい	30	23.3	16	16.7	11	10.0	11	12.1	28	8.3	31	9.0
安全な遊び場や児童館など、子どもの居場所が身近にない	12	9.3	10	10.4	7	6.4	9	9.9	37	10.9	44	12.8
相談相手や手助けしてくれる人がいない	8	6.2	6	6.3	3	2.7	5	5.5	12	3.5	7	2.0
安全な通園ができる歩道や防犯施設等の整備が進んでいない	7	5.4	8	8.3	5	4.5	4	4.4	40	11.8	26	7.5
子どもの教育やいじめなどが心配	38	29.5	37	38.5	48	43.6	42	46.2	177	52.2	159	46.1
子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じる	39	30.2	28	29.2	35	31.8	29	31.9	130	38.3	143	41.4
身近に自然や伝統文化とふれあう機会がない	9	7.0	4	4.2	5	4.5	2	2.2	12	3.5	13	3.8
自分のための時間がもてない	24	18.6	22	22.9	17	15.5	29	31.9	66	19.5	53	15.4
その他	6	4.7	7	7.3	3	2.7	4	4.4	16	4.7	7	2.0
特にない	8	6.2	9	9.4	10	9.1	5	5.5	19	5.6	19	5.5
不明・無回答	3	2.3	3	3.1	7	6.4	1	1.1	17	5.0	18	5.2

【小学生児童】 年齢別	1 年 生		2 年 生		3 年 生		4 年 生		5 年 生	
	N=263		N=226		N=275		N=255		N=277	
	件数	%								
子育て(教育)にかかる 経済的負担が大きい	115	43.7	96	42.5	139	50.5	128	50.2	130	46.9
仕事と子育ての両立が 難しい	73	27.8	57	25.2	93	33.8	63	24.7	67	24.2
子どもの健康や発達に 不安を感じる	46	17.5	38	16.8	49	17.8	52	20.4	43	15.5
地域医療体制への不安 を感じる	11	4.2	3	1.3	6	2.2	6	2.4	11	4.0
保育サービスや施設が 利用しにくい	22	8.4	8	3.5	12	4.4	12	4.7	5	1.8
安全な遊び場や児童館 など、子どもの居場所が 身近にない	38	14.4	23	10.2	31	11.3	18	7.1	25	9.0
相談相手や手助けしてく れる人がいない	10	3.8	8	3.5	9	3.3	7	2.7	5	1.8
安全な通園ができる歩 道や防犯施設等の整備 が進んでいない	19	7.2	12	5.3	17	6.2	19	7.5	14	5.1
子どもの教育やいじめ などが心配	125	47.5	116	51.3	145	52.7	123	48.2	126	45.5
子どもに関する犯罪や 事故が増加していると感 じる	100	38.0	89	39.4	112	40.7	94	36.9	94	33.9
身近に自然や伝統文化 とふれあう機会がない	14	5.3	5	2.2	8	2.9	8	3.1	3	1.1
自分のための時間がも てない	28	10.6	11	4.9	27	9.8	18	7.1	14	5.1
その他	11	4.2	4	1.8	6	2.2	1	0.4	9	3.2
特にない	9	3.4	12	5.3	11	4.0	15	5.9	17	6.1
不明・無回答	19	7.2	16	7.1	24	8.7	20	7.8	22	7.9

(7) 周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感はあるか〈単数回答〉

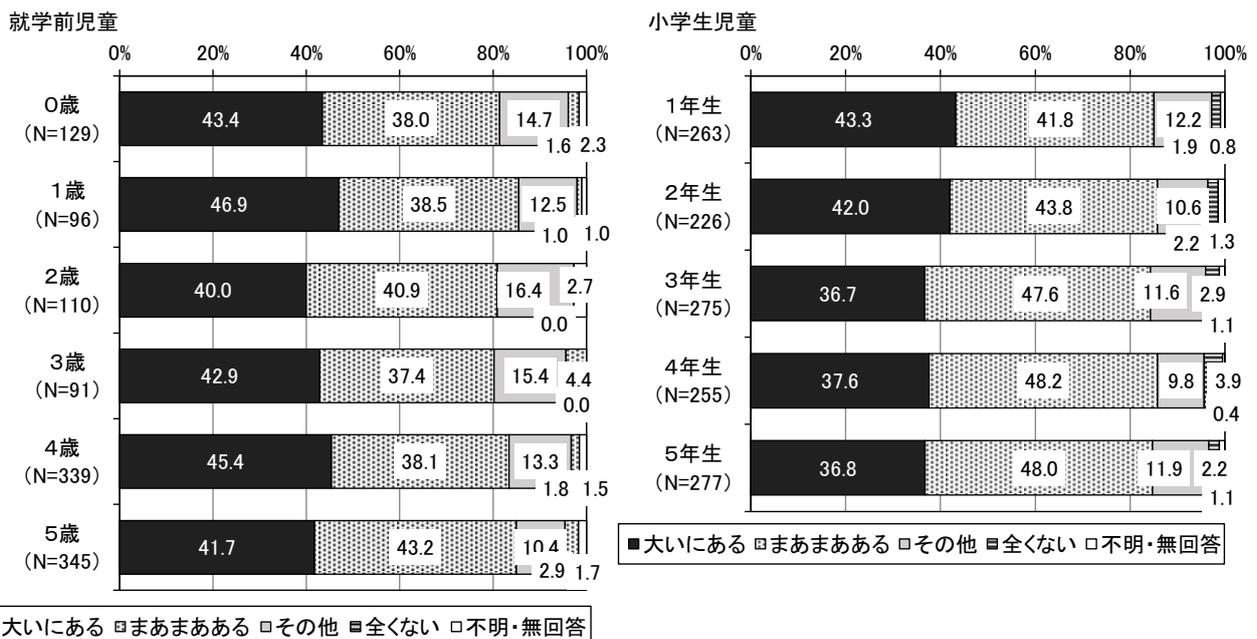
〔就学前児童調査…問 12、小学生児童調査…問 11〕

周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感はあるかについてみると、就学前児童では「大いにある」が43.3%、小学生児童では「まあまあある」が42.2%と最も高くなっています。次いで就学前児童では「まあまあある」が38.8%、小学生児童では「大いにある」が35.6%となっています。



年齢別 × 周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感の有無

年齢別にみると、就学前児童、小学生児童ともに「大いにある」「まあまあある」の合計が8割以上となっています。また、小学生児童の「大いにある」の割合は、学年が上がるほど、やや減少する傾向にあります。



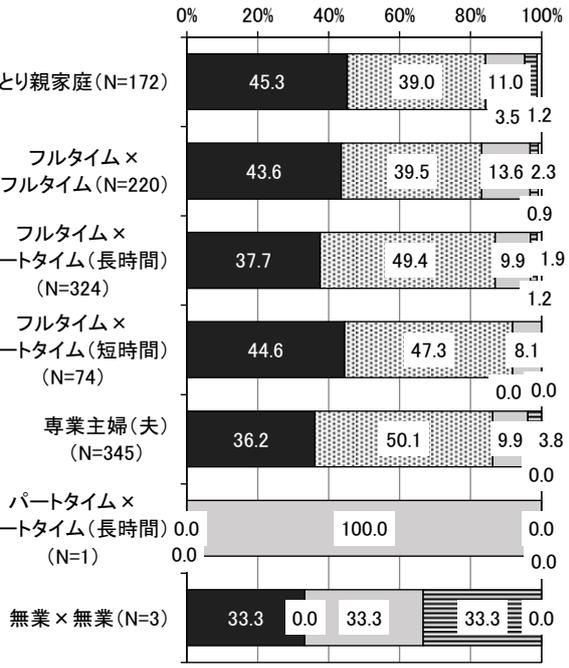
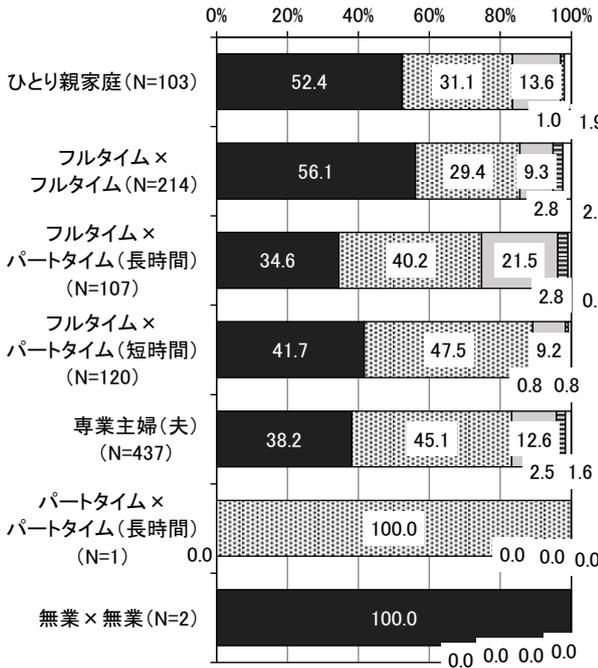
家庭類型別 × 周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感の有無

就学前児童について家庭類型別にみると、「大いにある」「まあまあある」の合計は〔ひとり親家庭〕〔フルタイム×フルタイム〕〔フルタイム×パートタイム（短時間）〕〔専業主婦（夫）〕では8割以上となっていますが、〔フルタイム×パートタイム（長時間）〕では74.8%とやや低くなっています。

小学生児童について家庭類型別にみると、すべての家庭類型で「大いにある」「まあまあある」の合計が8割以上と高くなっています。

就学前児童

小学生児童



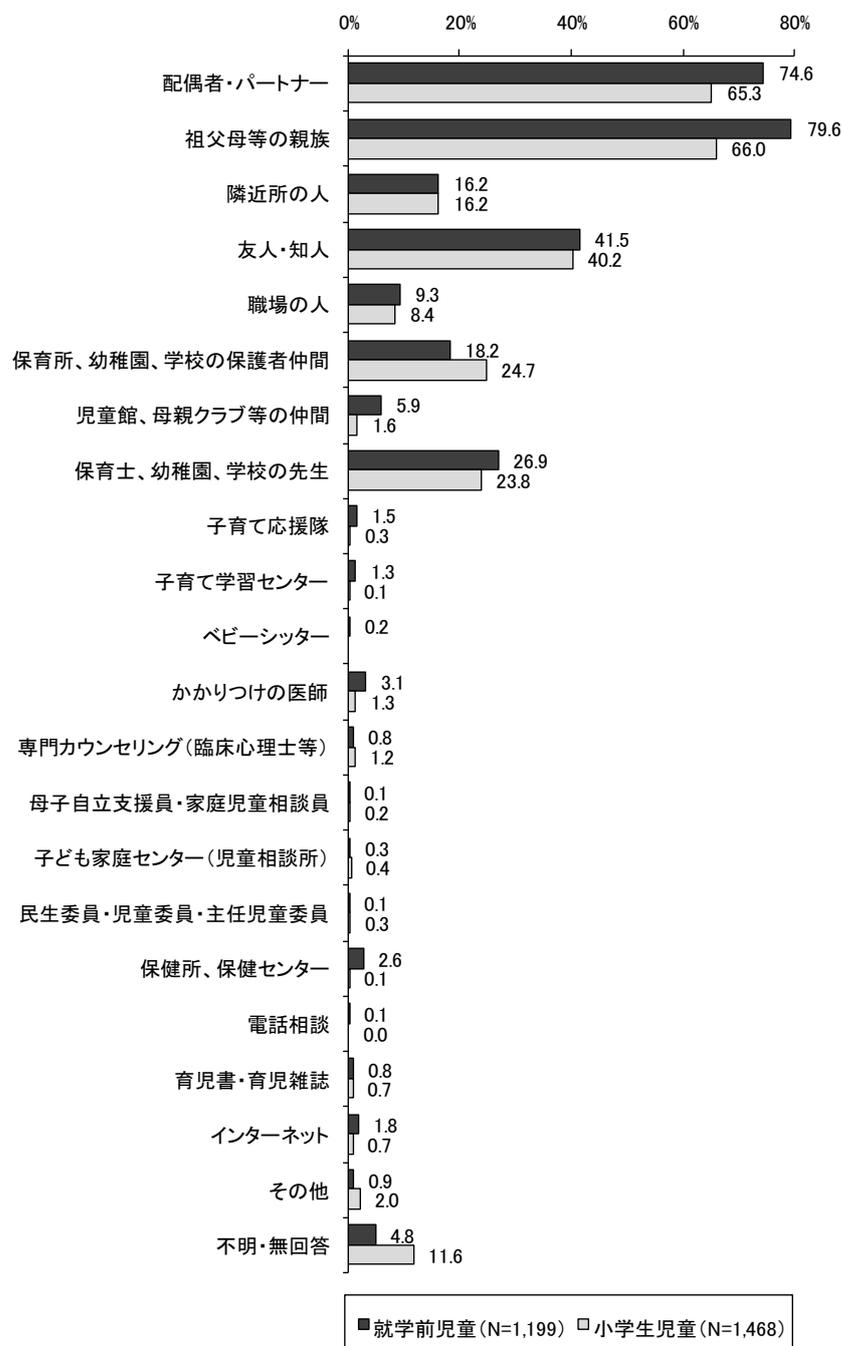
■大いにある □まあまあある □その他 □全くない □不明・無回答

■大いにある □まあまあある □その他 □全くない □不明・無回答

**(8) 支えてもらっていると感じる場合は、特に誰から支えられていると感じるか。
また感じない場合は、特に誰から支えてほしいと感じるか〈複数回答〉**

〔就学前児童調査…問 13、小学生児童調査…問 12〕

子育てを特に誰から支えられていると感じるかについてみると、「祖父母等の親族」が就学前児童で79.6%、小学生児童で66.0%と最も高く、次いで「配偶者・パートナー」が就学前児童で74.6%、小学生児童で65.3%となっています。

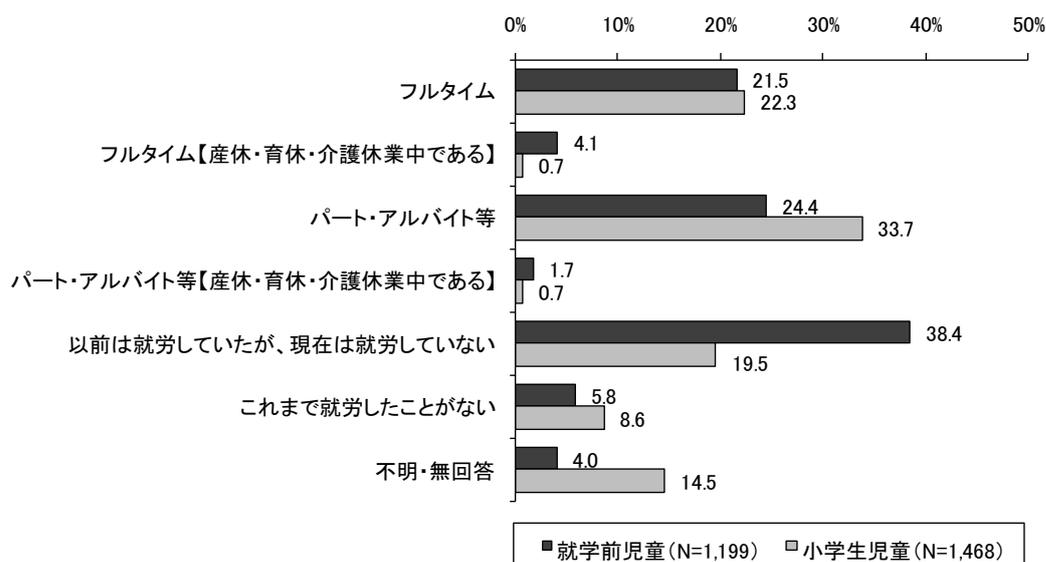


保護者の就労状況について

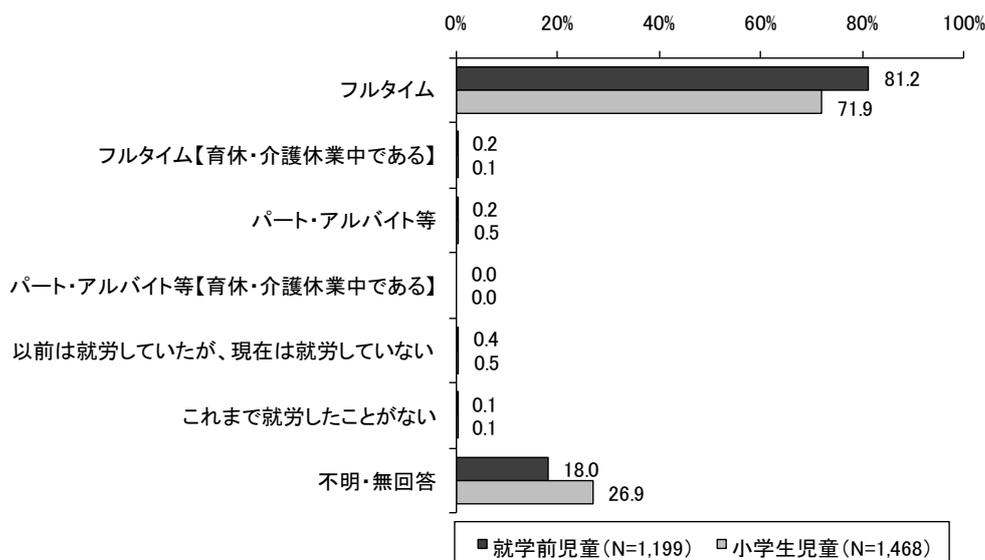
(1) 保護者の就労状況〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 15、小学生児童調査…問 18〕

保護者の就労状況について、母親についてみると、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 38.4%、小学生児童では「パート・アルバイト等」が 33.7%と最も高くなっています。父親についてみると、「フルタイム」が就学前児童で 81.2%、小学生児童で 71.9%と最も高くなっています。

【母親】



【父親】



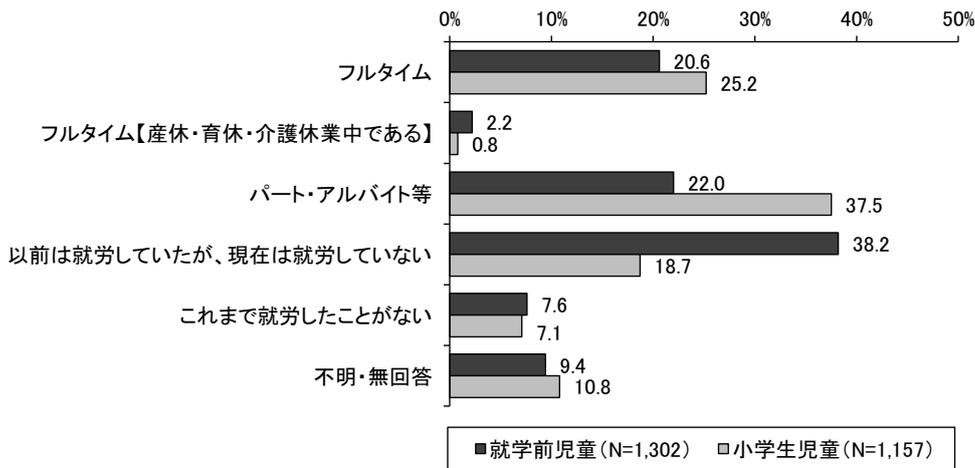
* 「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労
「パート・アルバイト等」：フルタイム以外の就労

前回調査比較：保護者の就労状況

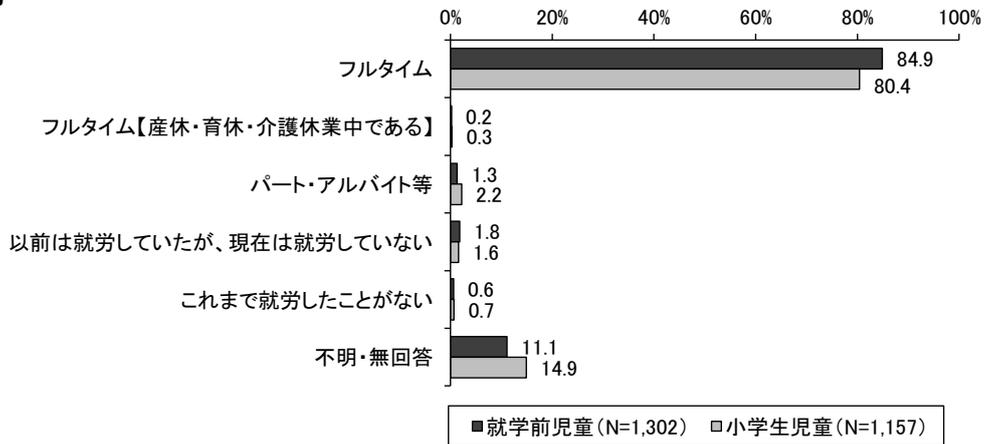
前回調査と比較すると、母親については『働いている』（「フルタイム」「フルタイム【産休・育休・介護休業中である】」「パート・アルバイト等」※今回調査では「パート・アルバイト等【産休・育休・介護休業中である】」も含む）割合が、就学前児童では今回調査で51.7%、前回調査で44.8%、小学生児童では今回調査で57.4%、前回調査で63.5%と、就学前児童では就労する母親が増加していますが、小学生児童では減少しています。

【前回調査結果（平成21年）】

◎母親



◎父親



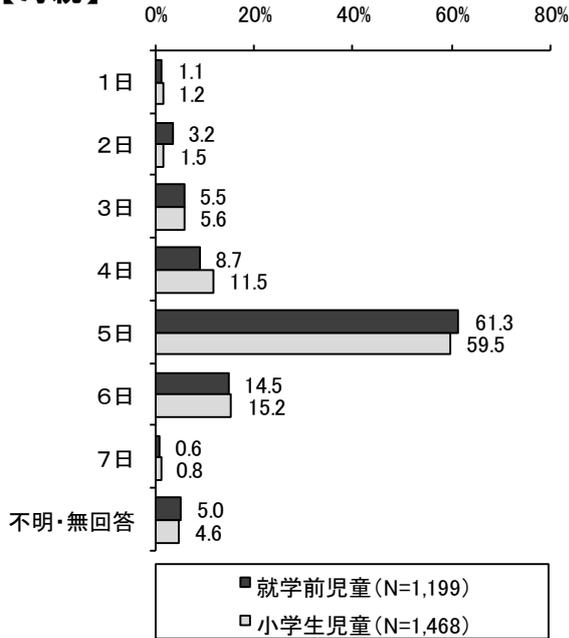
●就労している保護者の状況

就労している保護者の、1週当たりの就労日数についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「5日」が最も高く、それぞれ61.3%、59.5%となっています。父親でも就学前児童、小学生児童ともに「5日」が最も高く、それぞれ50.7%、49.1%となっています。

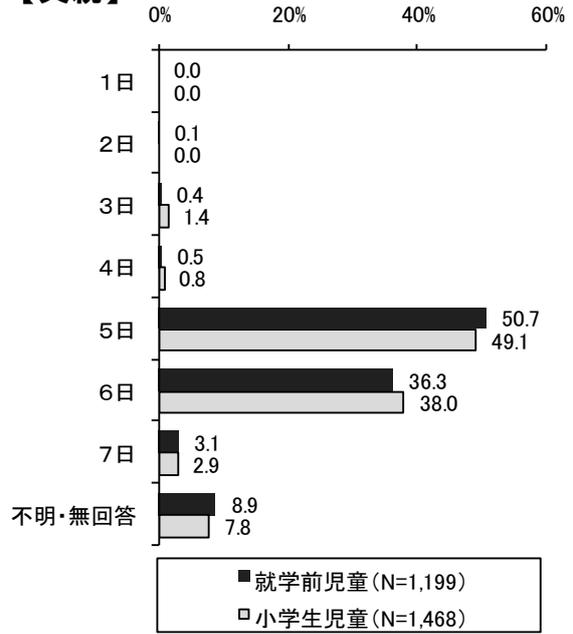
1日当たりの就労時間についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「8時間」が最も高く、それぞれ32.4%、26.0%となっています。父親では就学前児童、小学生児童ともに「9時間以上」が最も高く、それぞれ47.0%、48.4%となっています。

① 1週当たりの就労日数〈数量回答〉

【母親】

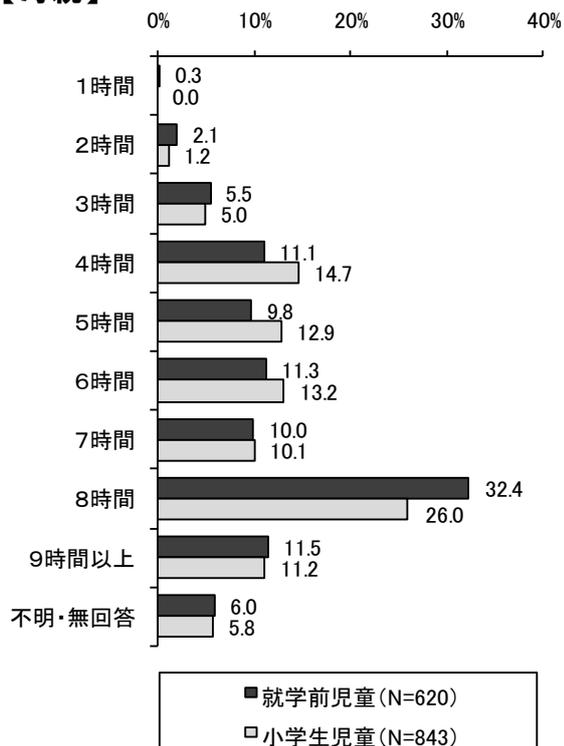


【父親】

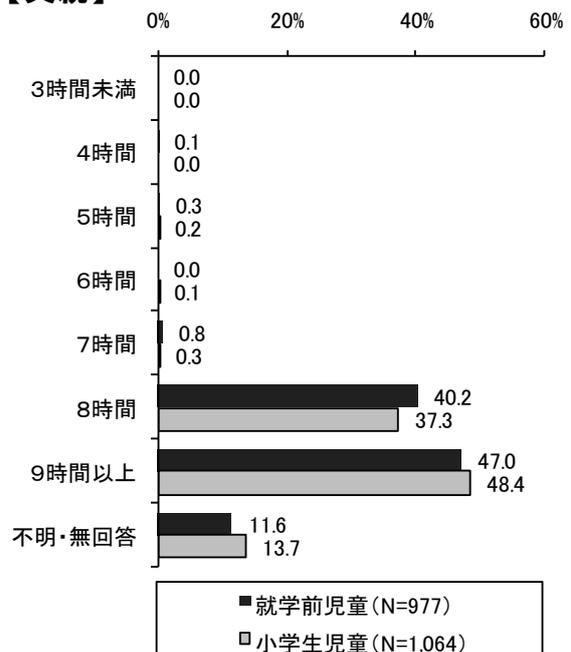


② 1日当たりの就労時間〈数量回答〉

【母親】



【父親】

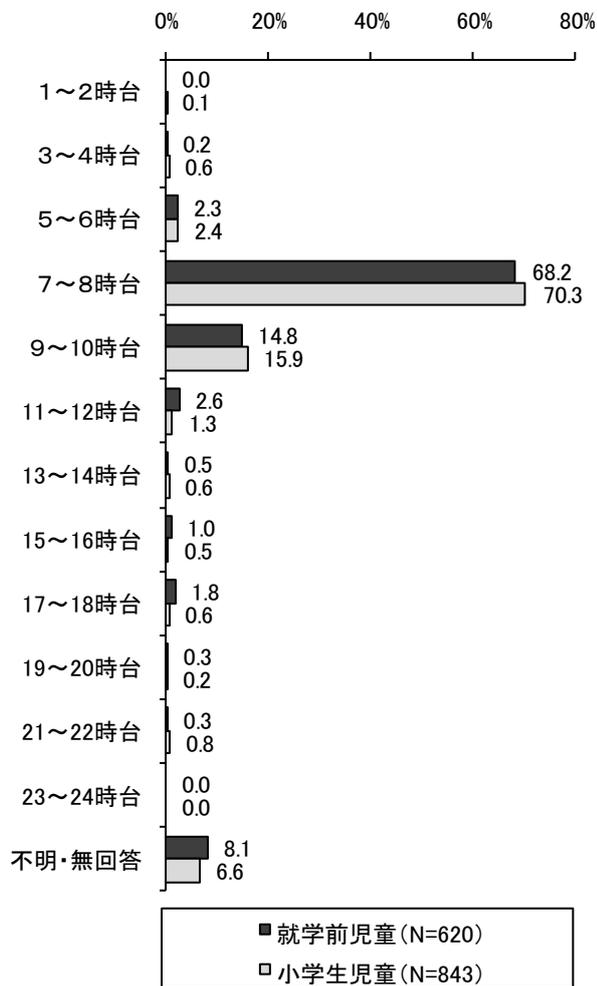


就労している保護者の、出発時間についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「7～8時台」が最も高く、それぞれ68.2%、70.3%となっています。父親でも「7～8時台」が最も高く、それぞれ60.0%、59.1%となっています。

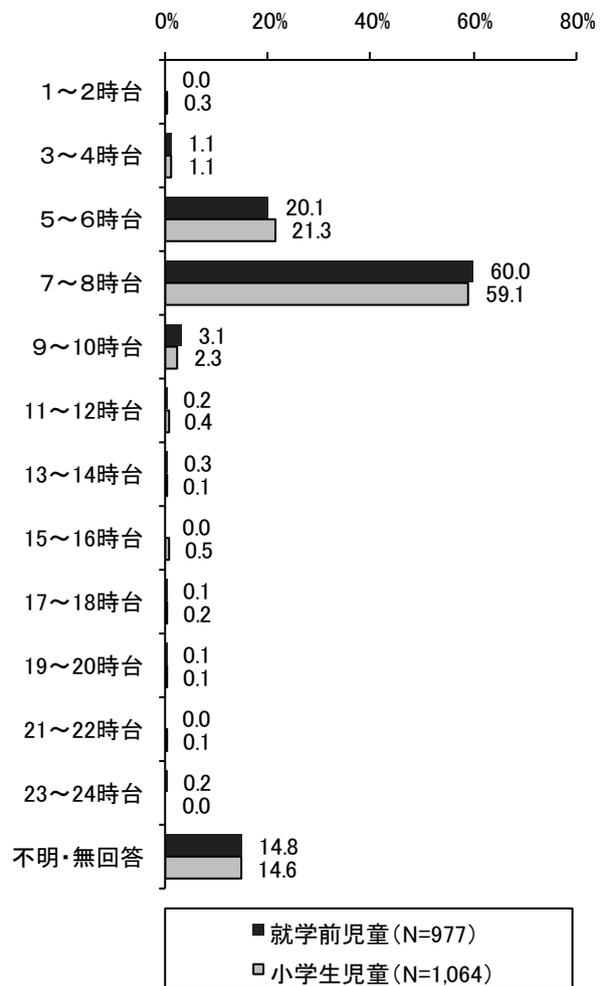
帰宅時間についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「17～18時台」が最も高く、それぞれ46.0%、35.3%となっています。父親では就学前児童では「19～20時台」が33.2%、小学生児童では「17～18時台」が32.2%と最も高くなっています。

③出発時間〈数量回答〉

【母親】

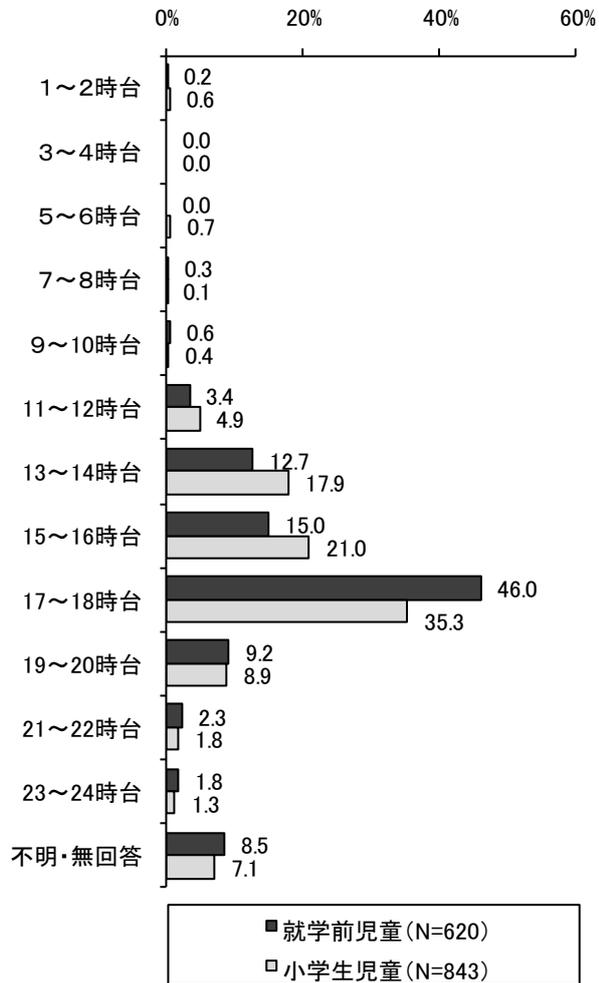


【父親】

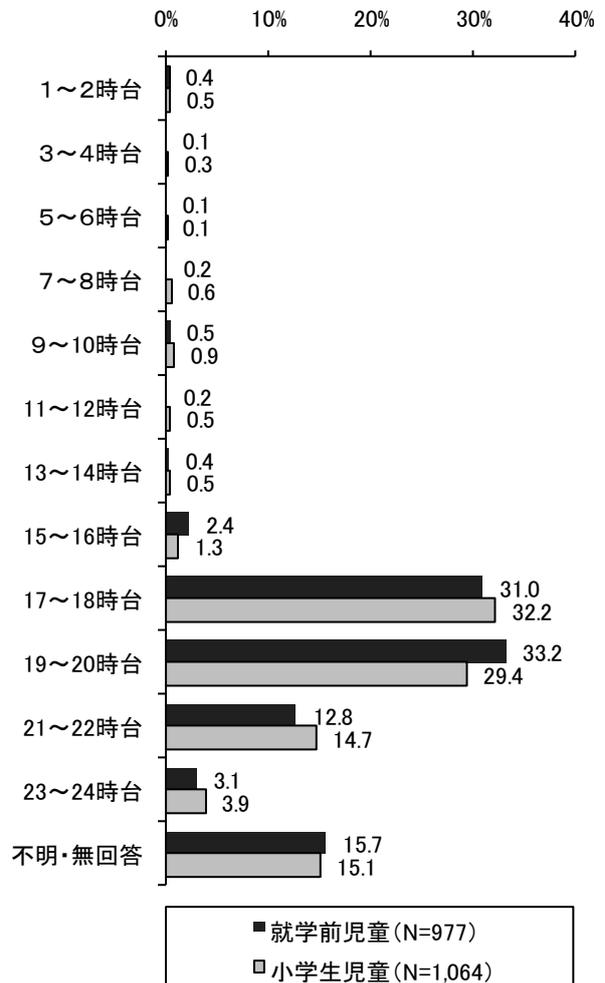


④帰宅時間〈数量回答〉

【母親】



【父親】



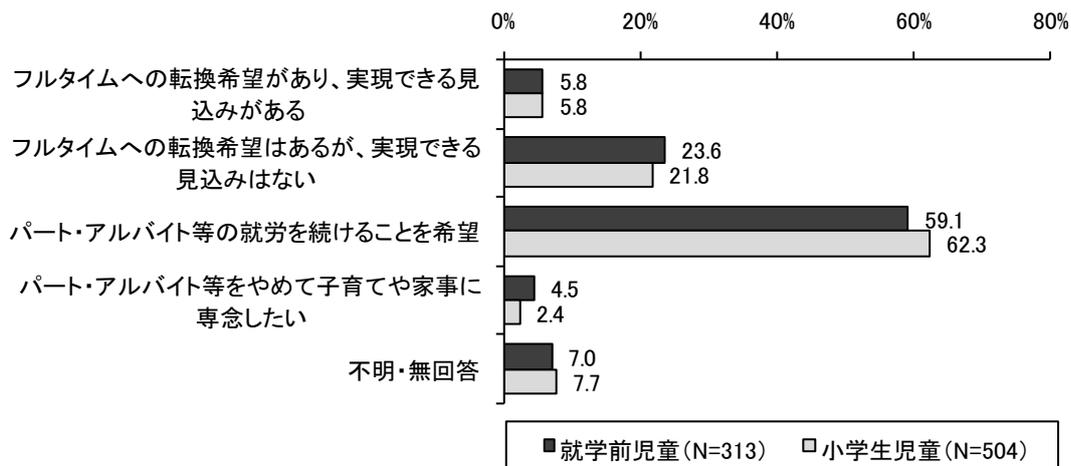
（１）で「パート・アルバイト等」または「パート・アルバイト等で現在、産休・育休・介護休業中である」を選んだ方

（２）パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 15-1、小学生児童調査…問 18-1〕

パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望についてみると、母親では「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が就学前児童で 59.1%、小学生児童で 62.3 %と最も高くなっています。

【母親】



【父親】

【父親】 フルタイムへの転換希望	就学前児童 (N=2)		小学生児童 (N=8)	
	件数	%	件数	%
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	0	0.0	2	25.0
フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	1	50.0	1	12.5
パート・アルバイト等の就労を続けることを希望	0	0.0	2	25.0
パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい	1	50.0	1	12.5
不明・無回答	0	0.0	2	25.0

(1)で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」を選んだ方

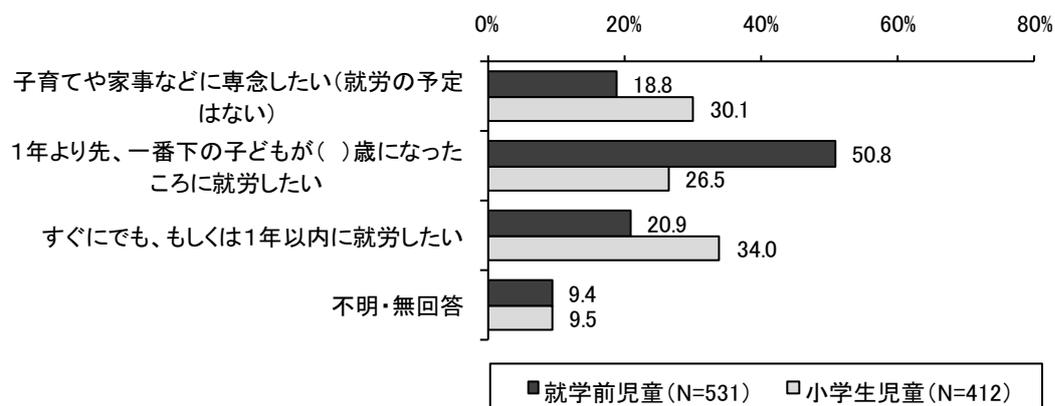
(3) 現在、就労していない方の就労希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 15-2、小学生児童調査…問 18-2〕

現在就労していない方の就労希望についてみると、就学前児童では「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」が50.8%、小学生児童では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が34.0%と最も高くなっています。

また、一番下の子どもが何歳になれば就労したいかでは、就学前児童では「5歳」が22.2%、小学生児童では「7歳」が15.6%と最も高くなっています。

【母親】



【父親】

【父親】 就労希望	就学前児童 (N=6)		小学生児童 (N=9)	
	件数	%	件数	%
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	0	0.0	3	33.3
1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい	0	0.0	0	0.0
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	3	50.0	3	33.3
不明・無回答	3	50.0	3	33.3

①一番下の子どもが何歳になれば就労したいか〈数量回答〉

《「1年より先、一番下の子どもが()歳になったころに就労したい」を選んだ方》

【母親】

【父親】

※該当なし

【母親】 就労したい時の 末子の年齢	就学前児童 (N=270)		小学生児童 (N=109)	
	件数	%	件数	%
1歳	8	3.0	1	0.9
2歳	8	3.0	1	0.9
3歳	32	11.9	6	5.5
4歳	41	15.2	10	9.2
5歳	60	22.2	13	11.9
6歳	30	11.1	12	11.0
7歳	56	20.7	17	15.6
8歳	16	5.9	5	4.6
9歳	2	0.7	4	3.7
10歳	9	3.3	12	11.0
11歳	0	0.0	3	2.8
12歳	1	0.4	10	9.2
13歳以上	1	0.4	9	8.2
不明・無回答	6	2.2	6	5.5

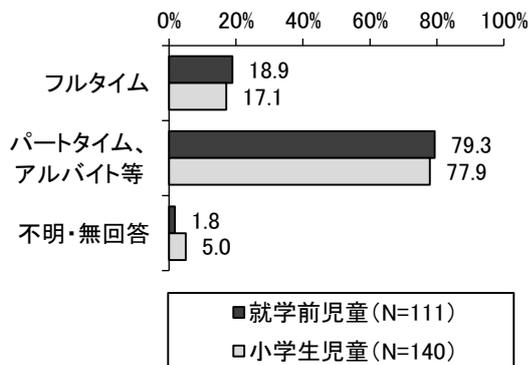
『すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい』方の希望する就労形態については、母親では「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」が就学前児童で79.3%、小学生児童で77.9%と最も高くなっています。

また、パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）を選んだ方の希望する1週あたりの就労日数については、母親では「5日」が就学前児童で42.0%、小学生児童では46.8%と最も高くなっています。希望する1日あたりの就労時間では、母親では「5時間」が就学前児童で37.5%、小学生児童では40.4%と最も高くなっています。

②希望する就労形態〈単数回答〉《「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を選んだ方》

【母親】

【父親】



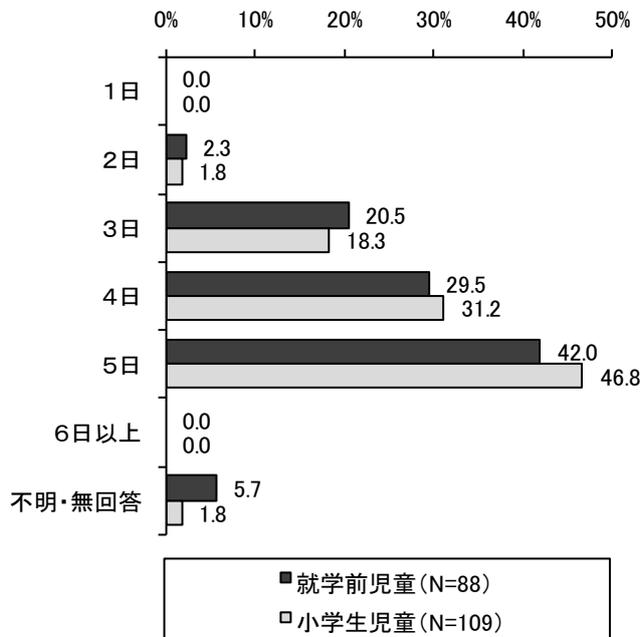
【父親】 就労希望	就学前児童 (N=3)		小学生児童 (N=3)	
	件数	%	件数	%
フルタイム	2	66.7	2	66.7
パートタイム、アルバイト等	1	33.3	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	1	33.3

③パートタイム、アルバイト等で希望する就労形態〈数量回答〉

《②で「パートタイム、アルバイト等（「フルタイム」以外）」を選んだ方》

■希望する1週当たりの就労日数

【母親】

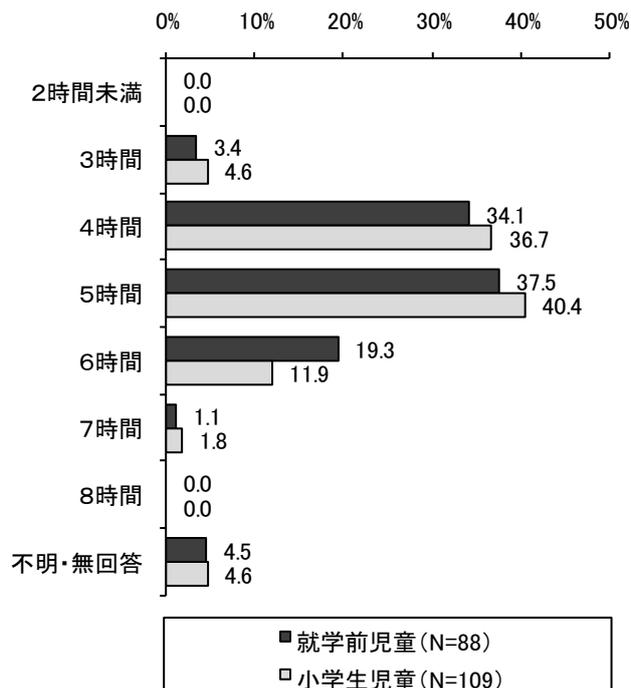


【父親】

【父親】 就労希望日数	就学前児童 (N=1)	
	件数	%
1日	0	0.0
2日	0	0.0
3日	0	0.0
4日	0	0.0
5日	1	100.0
6日	0	0.0
7日	0	0.0
不明・無回答	0	0.0

■希望する1日当たりの就労時間

【母親】



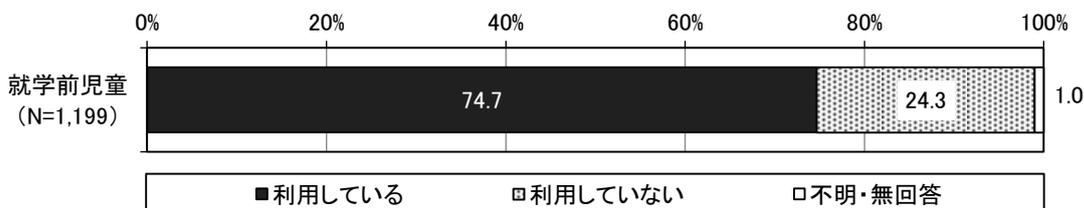
【父親】

【父親】 就労希望日数	就学前児童 (N=1)	
	件数	%
1時間	0	0.0
2時間	0	0.0
3時間	0	0.0
4時間	0	0.0
5時間	0	0.0
6時間	1	100.0
7時間	0	0.0
8時間	0	0.0
不明・無回	0	0.0

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）

（１）現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 16〕

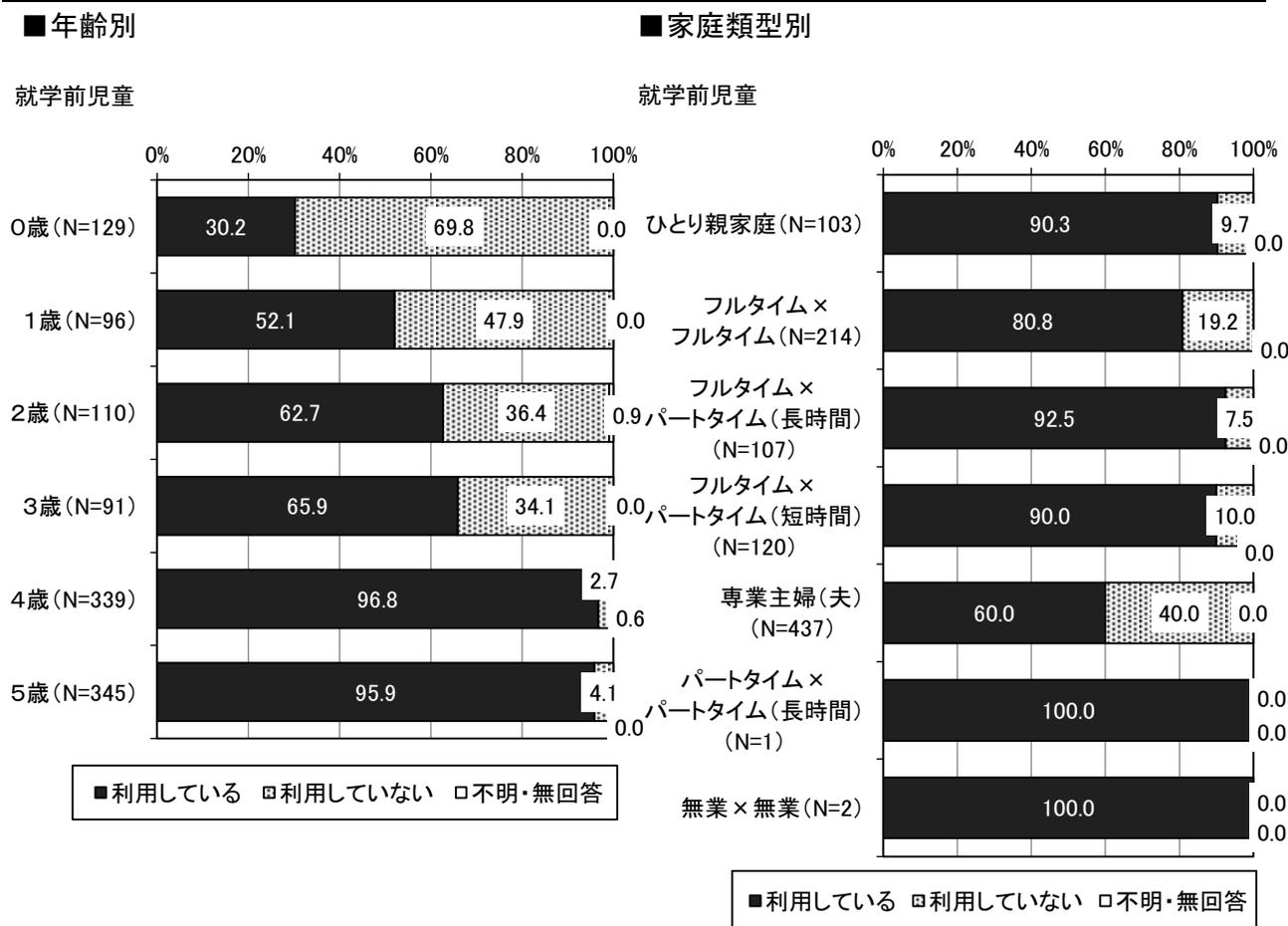
現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無についてみると、「利用している」が74.7%となっています。



*ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指す。具体的には、幼稚園や保育所など、(1) - 1 に示す事業が含まれる。

年齢別 × 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用している」割合が増加しています。家庭類型別にみると、「専業主婦（夫）」では、他の家庭類型と比較して「利用している」の割合が低くなっています。



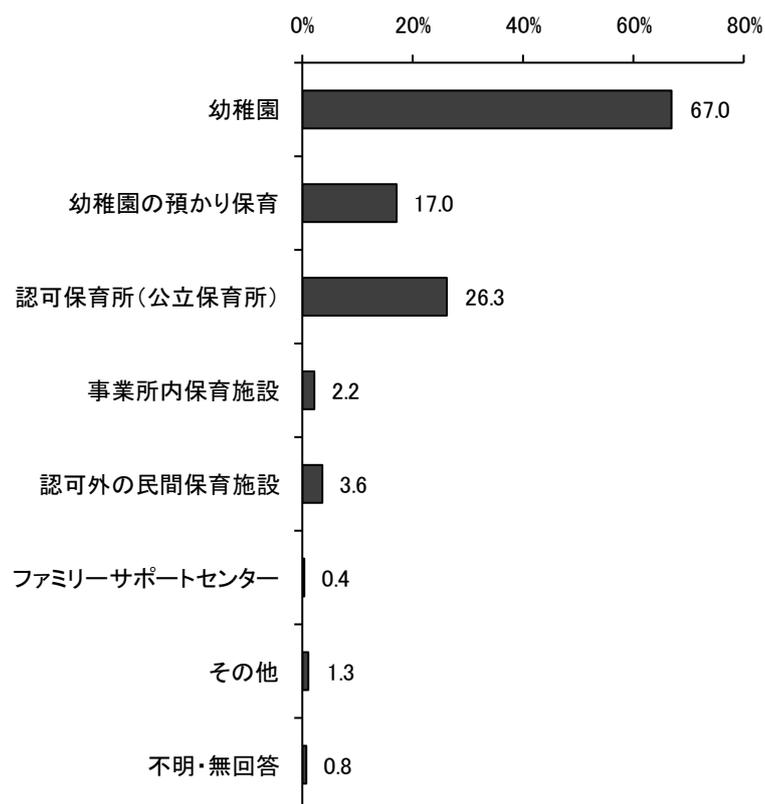
(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－1 平日、定期的にご利用している教育・保育事業〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 16－1〕

平日、定期的にご利用している教育・保育事業についてみると、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が67.0%、「認可保育所（公立保育所）」が26.3%、「幼稚園の預かり保育」が17.0%となっています。

就学前児童(N=896)



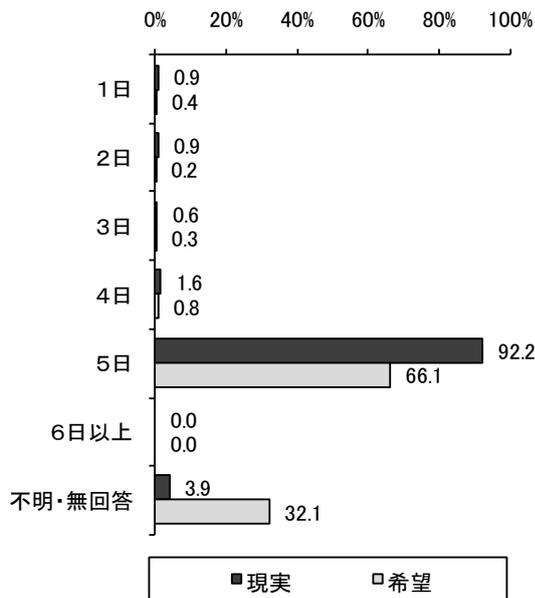
(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－2 平日、定期的にご利用している教育・保育事業の現在の状況と、今後の利用希望〈数量回答〉〔就学前児童調査…問16－2〕

平日、定期的にご利用している教育・保育事業の現在の状況と、今後の利用希望についてみると、1週あたりの利用日数では、現実、希望ともに「5日」が最も高く、それぞれ92.2%、66.1%となっています。また、1日あたりの利用時間では、現実、希望ともに「6時間」が最も高くなっています。

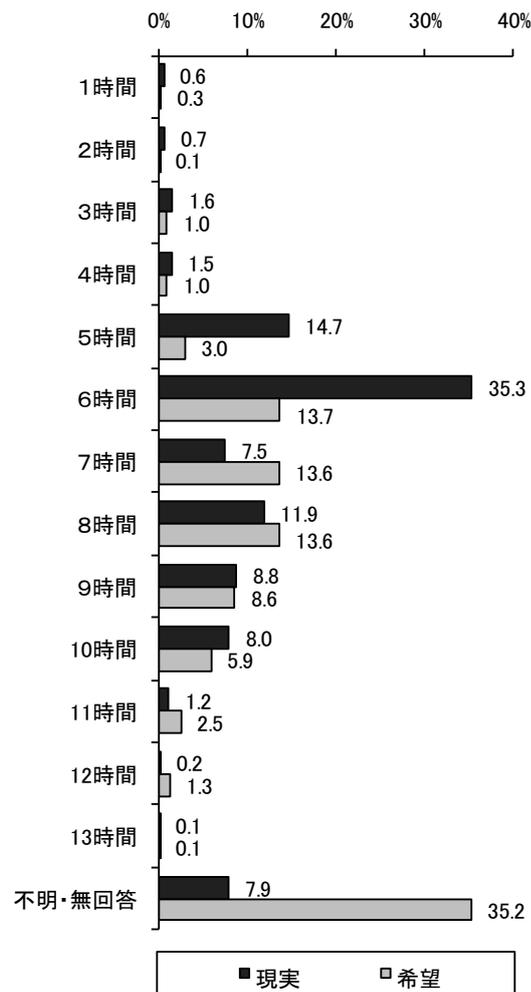
① 1週あたりの利用日数〈数量回答〉

就学前児童(N=896)



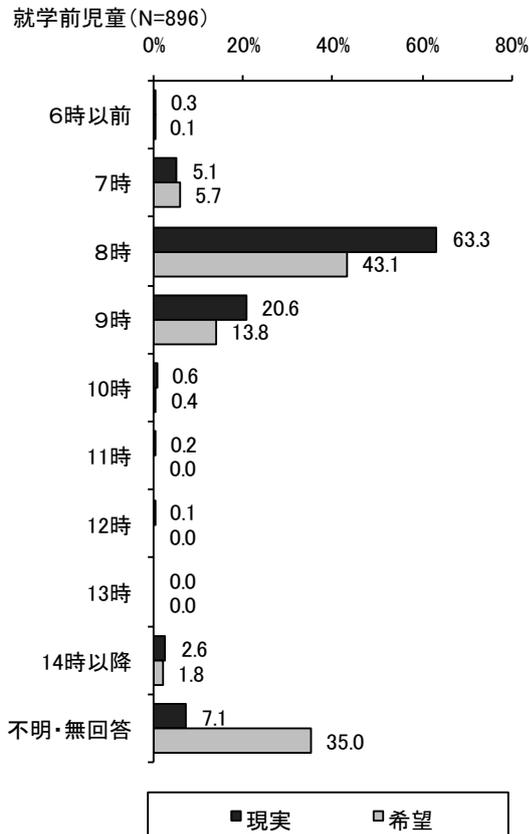
② 1日あたりの利用時間〈数量回答〉

就学前児童(N=896)

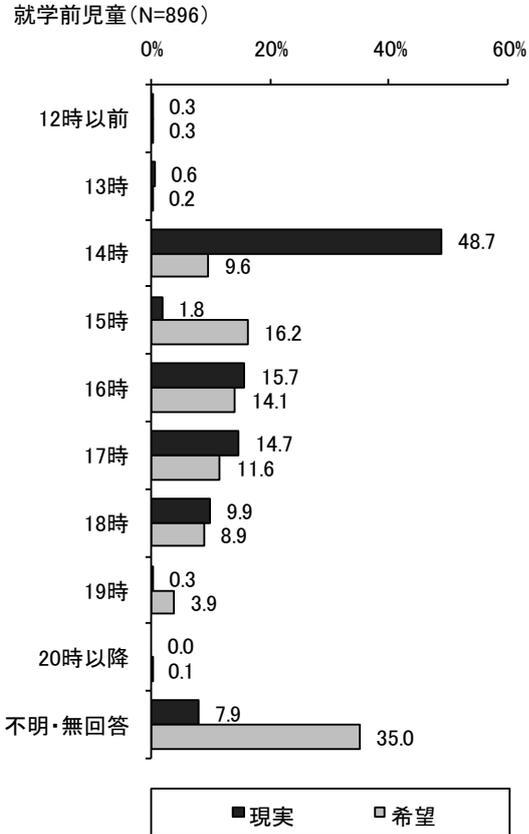


利用開始時間では、現実、希望ともに「8時」が最も高く、それぞれ63.3%、43.1%となっています。また、終了時間では、現実「14時」、希望「15時」が最も高くなっています。

③利用開始時間〈数量回答〉



④利用終了時間〈数量回答〉

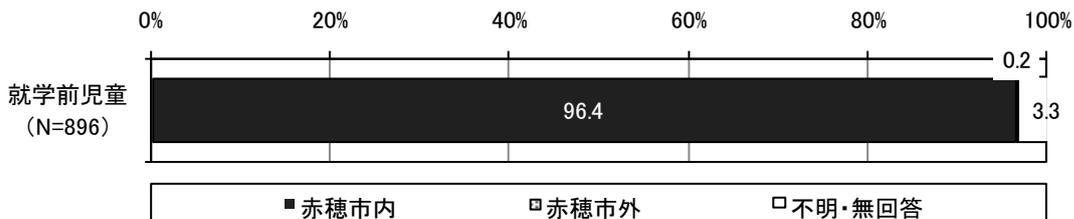


(1) で「利用している」を選んだ方

(1) - 3 平日、利用している教育・保育事業の実施場所〈単数回答〉

[就学前児童調査…問 16-3]

平日、利用している教育・保育事業の実施場所についてみると、「赤穂市内」が96.4%と大部分を占めています。

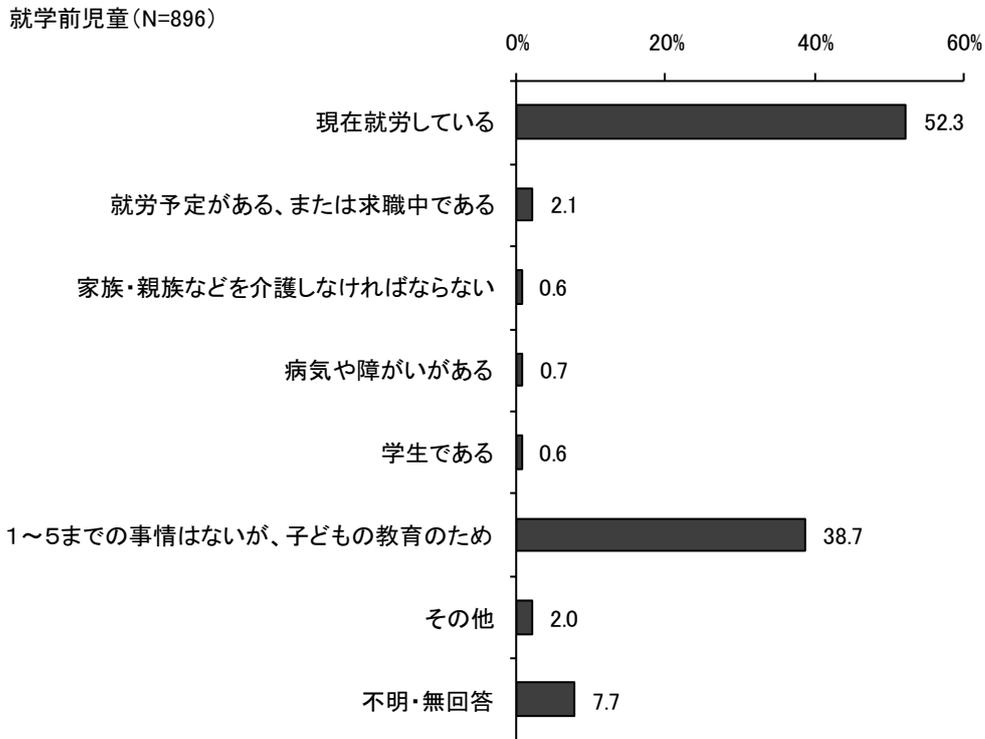


(1)で「利用している」を選んだ方

(1)－4 平日、教育・保育事業を利用している主な理由〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 16－4〕

平日、教育・保育事業を利用している主な理由についてみると、「現在就労している」が52.3%で最も高く、次いで「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」が38.7%となっています。

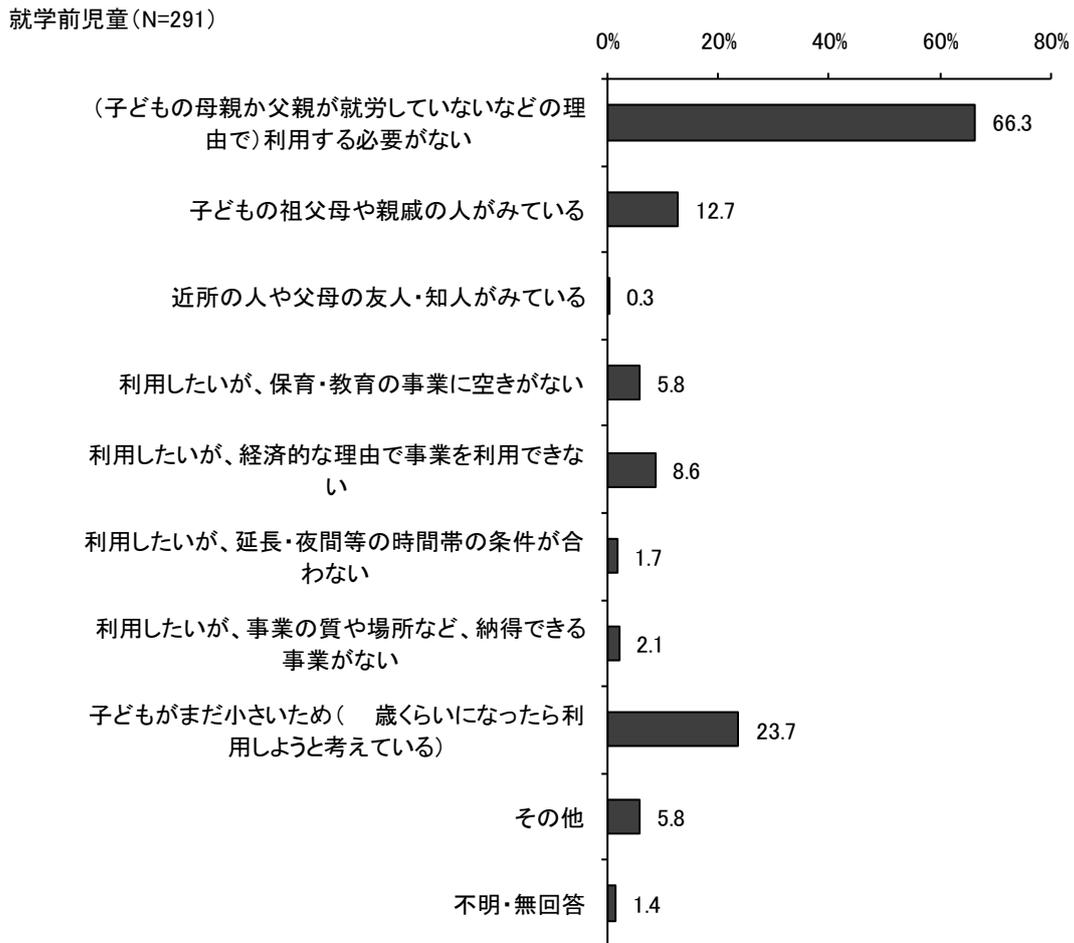


(1)で「利用していない」を選んだ方

(1)－5 利用していない主な理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問16－5〕

平日、教育・保育事業を利用していない主な理由についてみると、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」が66.3%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため(歳くらいになったら利用しようと考えている)」が23.7%となっています。

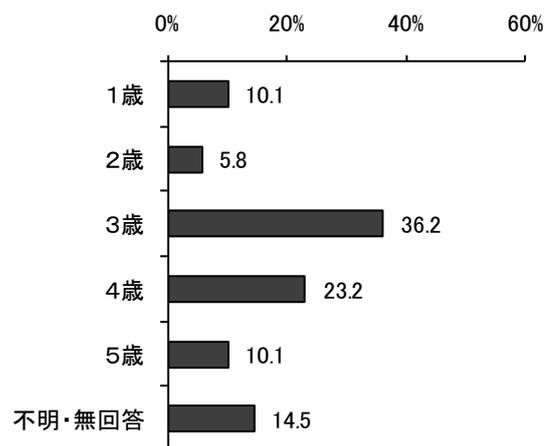
また、子どもがまだ小さいために教育・保育事業を利用していない方で、今後利用しようとする時の子どもの年齢については、「3歳」が36.2%と最も高くなっています。



◎利用したい時の子どもの年齢〈数量回答〉

就学前児童(N=69)

《「子どもがまだ小さいため(歳くらいになったら利用しようと考えている)」を選んだ方》



年齢別 × 利用していない主な理由

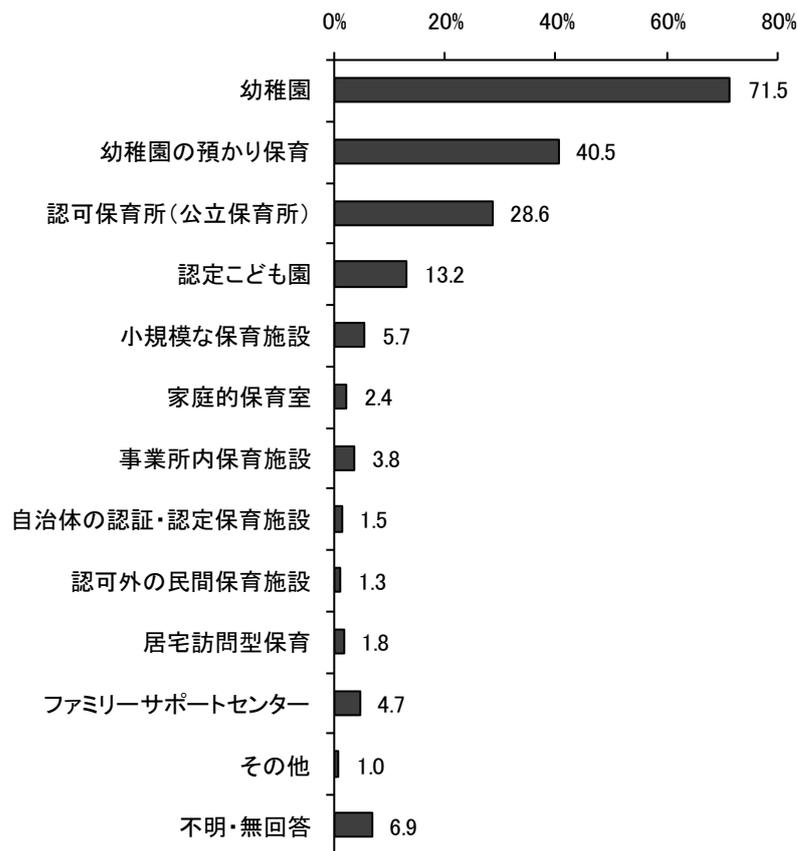
年齢別にみると、すべての年齢で「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が最も高くなっています。「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」割合は、「0歳」で7.8%、「1歳」で8.7%と「2歳」「3歳」より高くなっています。

【就学前児童】 年齢別	0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳	
	N=90		N=46		N=40		N=31		N=9		N=14	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない	60	66.7	33	71.7	31	77.5	23	74.2	6	66.7	7	50.0
子どもの祖父母や親戚の人がみている	8	8.9	8	17.4	6	15.0	1	3.2	2	22.2	3	21.4
近所の人や父母の友人・知人がみている	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	7	7.8	4	8.7	1	2.5	0	0.0	1	11.1	0	0.0
利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	6	6.7	6	13.0	3	7.5	1	3.2	1	11.1	3	21.4
利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	2	2.2	0	0.0	1	2.5	0	0.0	0	0.0	1	7.1
利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	2	2.2	1	2.2	3	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
子どもがまだ小さいため	24	26.7	9	19.6	7	17.5	4	12.9	0	0.0	0	0.0
その他	5	5.6	2	4.3	1	2.5	5	16.1	0	0.0	3	21.4
不明・無回答	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1	2	14.3

**(2) 現在の利用の有無にかかわらず、今後、平日の教育・保育事業として「定期的に」
利用したいと考える事業〈複数回答〉**〔就学前児童調査…問 17〕

今後、平日に定期的に利用したいと考える教育・保育事業についてみると、「幼稚園」が71.5%で最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が40.5%、「認可保育所（公立保育所）」が28.6%となっています。

就学前児童(N=1,199)



*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

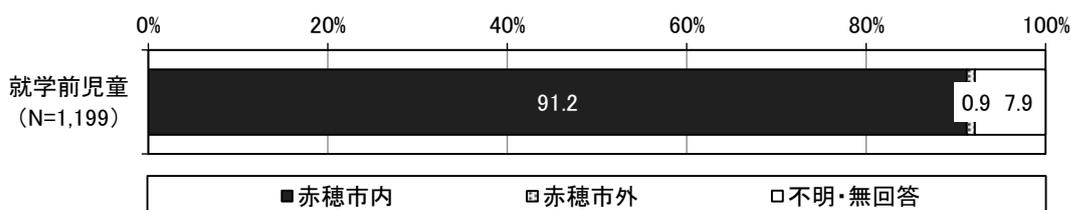
小学校区別 × 今後、利用したい平日の教育・保育事業

小学校区別にみると、すべての小学校区で「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」「認可保育所（公立保育所）」の利用希望が上位を占めています。また、「認定こども園」については〔坂越小学校区〕で23.8%と他の小学校区より割合が高くなっています。

【就学前児童】 小学校区別	赤穂小学校区		城西小学校区		塩屋小学校区		赤穂西小学校区		尾崎小学校区		御崎小学校区		坂越小学校区		高雄小学校区		有年小学校区		原小学校区	
	N=210		N=182		N=224		N=39		N=208		N=135		N=80		N=43		N=27		N=20	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
幼稚園	150	71.4	128	70.3	155	69.2	37	94.9	149	71.6	105	77.8	54	67.5	34	79.1	13	48.1	15	75.0
幼稚園の預かり保育	102	48.6	74	40.7	77	34.4	18	46.2	75	36.1	63	46.7	30	37.5	20	46.5	11	40.7	7	35.0
認可保育所（公立保育所）	61	29.0	49	26.9	63	28.1	4	10.3	58	27.9	48	35.6	24	30.0	10	23.3	13	48.1	5	25.0
認定こども園	33	15.7	24	13.2	27	12.1	5	12.8	22	10.6	18	13.3	19	23.8	2	4.7	3	11.1	2	10.0
小規模な保育施設	11	5.2	9	4.9	10	4.5	1	2.6	13	6.3	13	9.6	5	6.3	1	2.3	3	11.1	1	5.0
家庭的保育室	5	2.4	6	3.3	7	3.1	0	0.0	3	1.4	3	2.2	2	2.5	0	0.0	3	11.1	0	0.0
事業所内保育施設	12	5.7	6	3.3	8	3.6	1	2.6	9	4.3	6	4.4	2	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
自治体の認証・認定保育施設	6	2.9	5	2.7	4	1.8	1	2.6	1	0.5	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
認可外の民間保育施設	5	2.4	2	1.1	2	0.9	1	2.6	2	1.0	2	1.5	0	0.0	0	0.0	1	3.7	0	0.0
居宅訪問型保育	8	3.8	3	1.6	3	1.3	0	0.0	2	1.0	4	3.0	1	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ファミリーサポートセンター	11	5.2	9	4.9	12	5.4	1	2.6	7	3.4	9	6.7	3	3.8	1	2.3	2	7.4	1	5.0
その他	1	0.5	2	1.1	5	2.2	1	2.6	2	1.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	9	4.3	11	6.0	19	8.5	1	2.6	15	7.2	5	3.7	6	7.5	2	4.7	3	11.1	1	5.0

(2) - 1 教育・保育事業を利用したい場所〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 17-1〕

教育・保育事業を利用したい場所についてみると、「赤穂市内」が91.2%と大部分を占めています。赤穂市外の内訳は、相生市4件、たつの市1件、加古川市1件となっています。



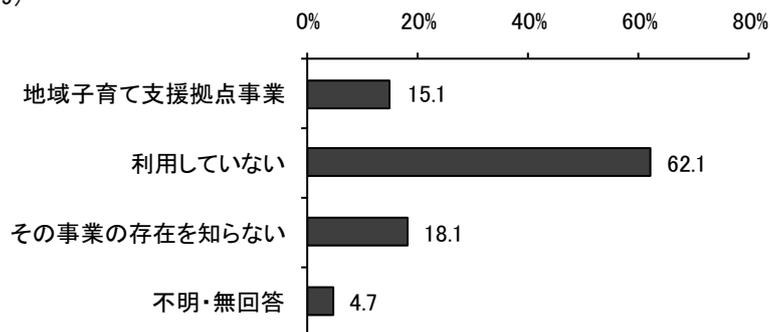
地域の子育て支援事業の利用状況について（就学前児童）

（１）現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 18〕

地域子育て支援拠点事業の利用状況についてみると、「地域子育て支援拠点事業」が 15.1%となっています。一方、「利用していない」は 62.1%となっています。

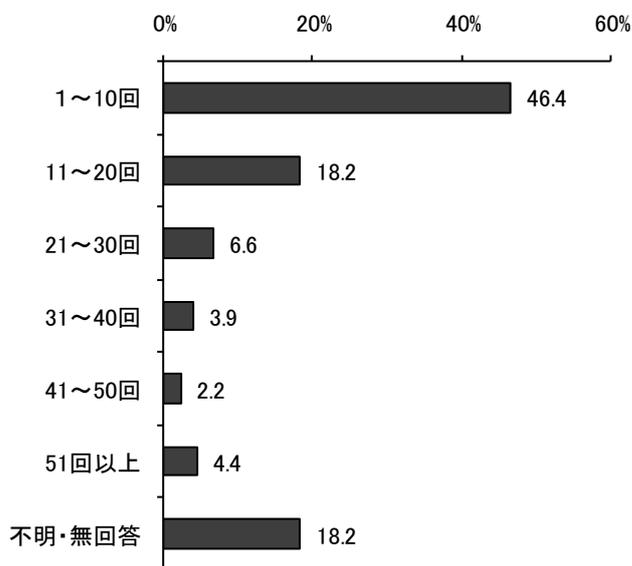
また、年間の利用回数では、「1～10回」の割合が高くなっています。

就学前児童(N=1,199)



◎ 1週間当たりもしくは1ヶ月当たりの利用回数〈数量回答〉

就学前児童(N=181)



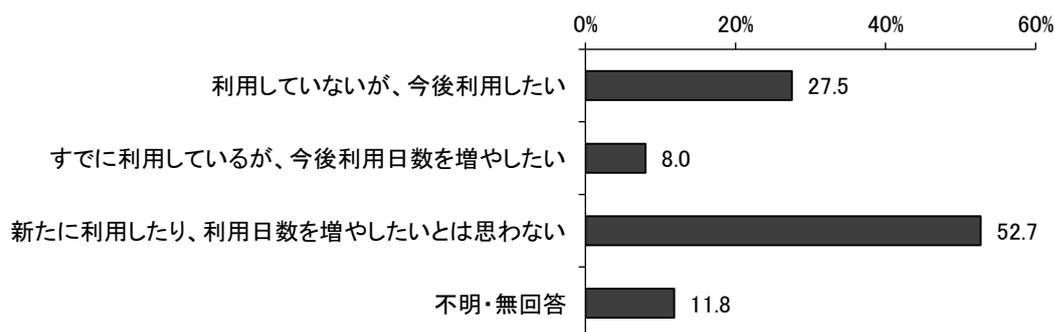
（２）地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 19〕

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向についてみると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が52.7%と最も高くなっています。

また、年間の利用希望回数では、『利用していないが、今後利用したい』、『すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい』ともに「1～10回」の割合が最も高くなっています。

◎ 1週当たりもしくは1ヶ月当たりの利用希望回数〈数量回答〉

就学前児童(N=1,199)



《「利用していないが、今後利用したい」、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を選んだ方》

【就学前児童】 年間の 利用希望回数	利用していない が、今後利用した い(N=330)		すでに利用してい るが、今後利用日 数を増やしたい (N=96)	
	件数	%	件数	%
1～10回	126	38.2	39	40.6
11～20回	37	11.2	7	7.3
21～30回	7	2.1	2	2.1
31～40回	0	0.0	2	2.1
41～50回	1	0.3	1	1.0
51回以上	1	0.3	7	7.3
不明・無回答	158	47.9	38	39.6

（３）子育てに関する機関や子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向 〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 20〕

子育てに関する機関や子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向についてみると、『知っている』では「児童館」が81.0%と最も高く、次いで「健康カレンダー」が75.2%、「マタニティマーク」が72.8%となっています。

『これまでに利用したことがある』では「児童館」が67.9%と最も高く、次いで「健康カレンダー」が57.5%、「こんにちは赤ちゃん事業（家庭訪問）」が52.8%となっています。

『今後利用したい』では「児童館」が64.9%と最も高く、次いで「健康カレンダー」が53.9%、「幼稚園未就園児（3歳児）学級」が41.5%となっています。

前回調査比較：関連機関等の認知度と利用経験、今後の利用意向

認知度を前回調査と比較すると、「市役所の子育て相談窓口」「子育てショートステイ事業」「健康カレンダー」「こんにちは赤ちゃん事業（家庭訪問）」「マタニティマーク」では今回調査の認知度の方が5ポイント以上高くなっています。

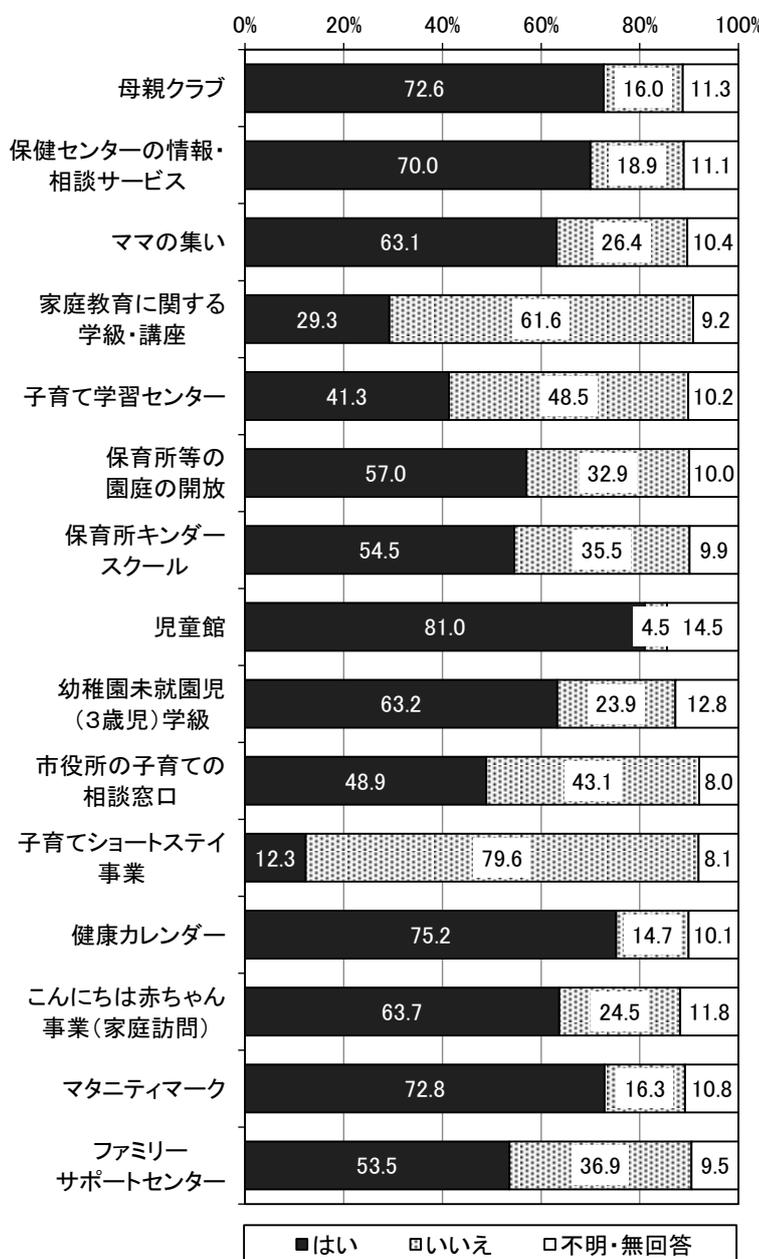
利用経験を前回調査と比較すると、「ママの集い」「児童館」「こんにちは赤ちゃん事業（家庭訪問）」「マタニティマーク」は今回調査の利用経験の方が5ポイント以上高くなっています。

今後の利用意向を前回調査と比較すると、今回調査の今後の利用意向の方が5ポイント以上高くなっているのは「児童館」のみで、多くの事業で割合が低くなっています。

「こんにちは赤ちゃん事業（家庭訪問）」「マタニティマーク」といった母子保健事業については認知度、利用経験割合が増加していますが、利用意向にはつながっていない状況です。

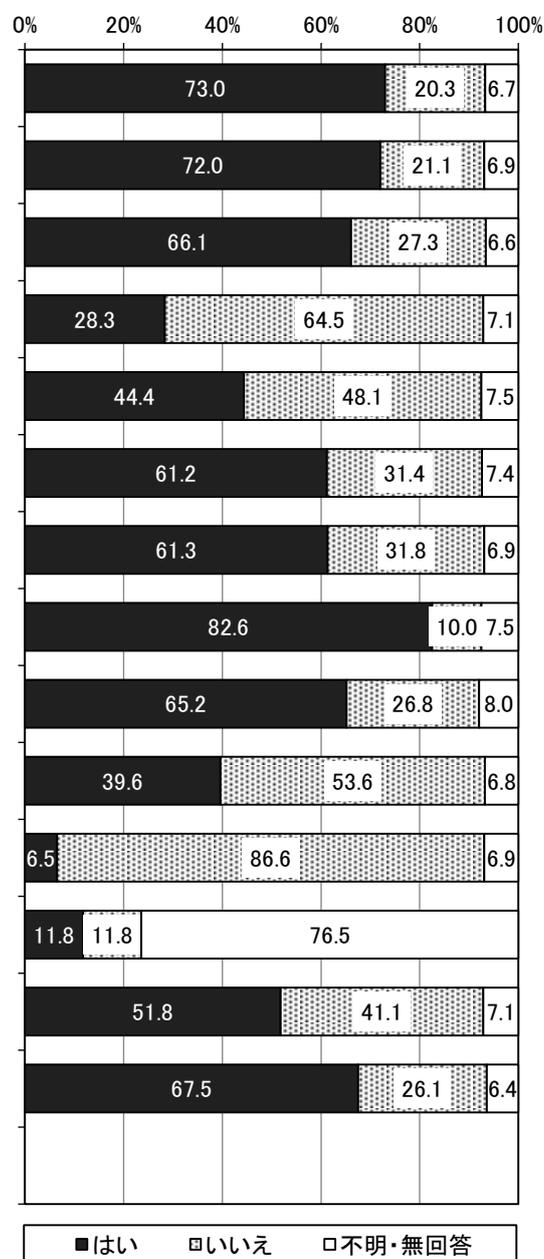
【A 知っている】

就学前児童(N=1,199)



(前回調査 平成 21 年)

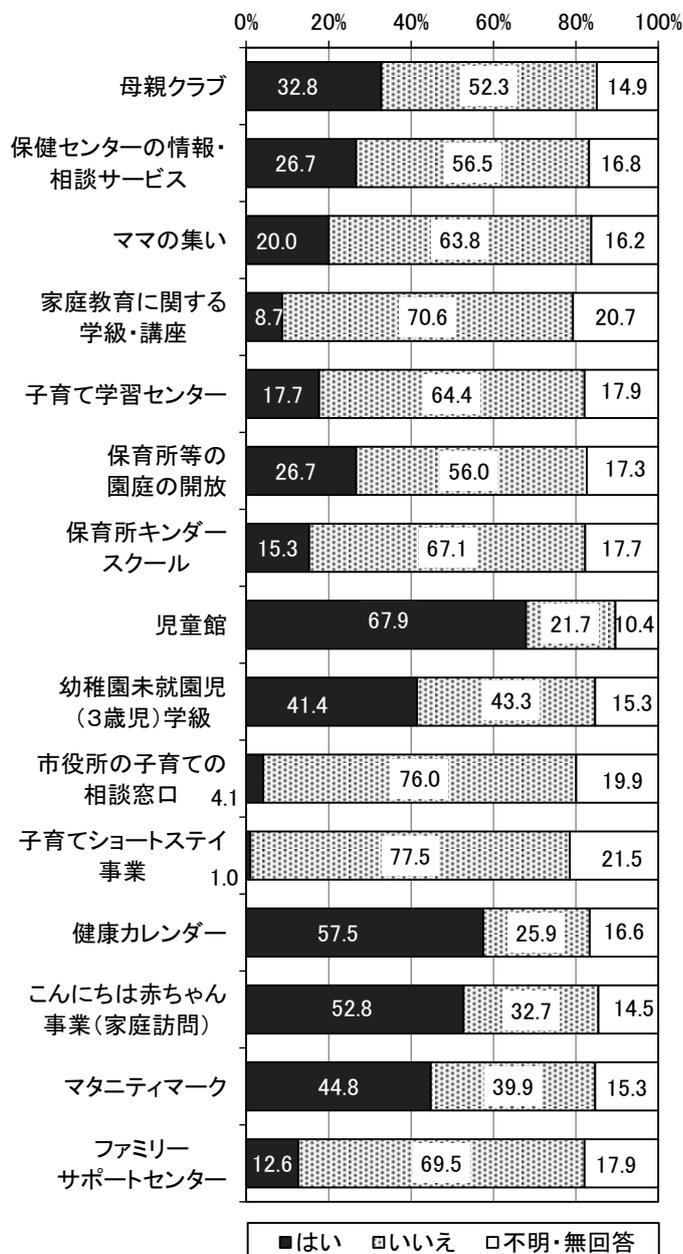
就学前児童(N=1,302)



※前回調査では「ファミリーサポートセンター」の設問はありませんでした。

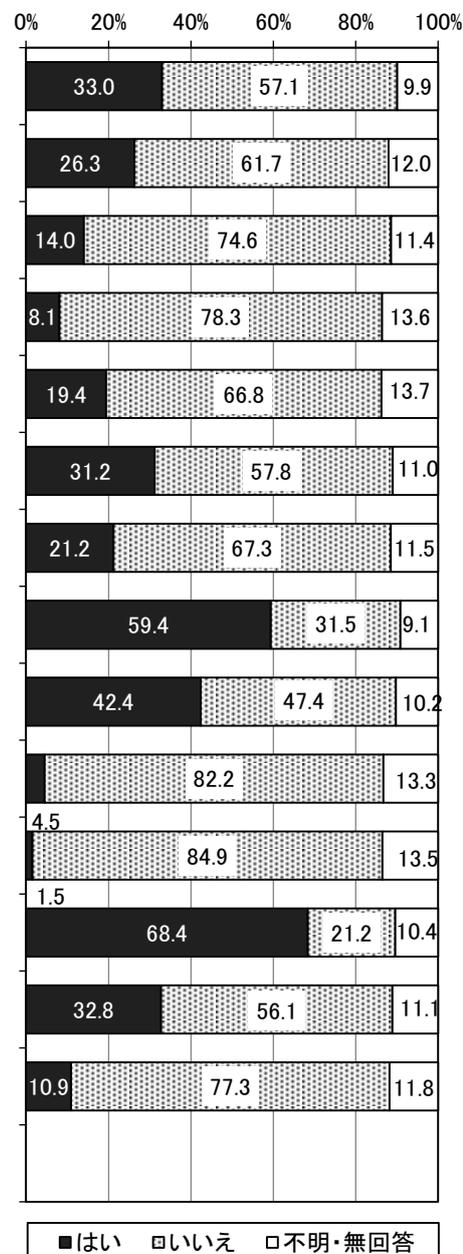
【B これまでに利用したことがある】

就学前児童(N=1,199)



(前回調査 平成 21 年)

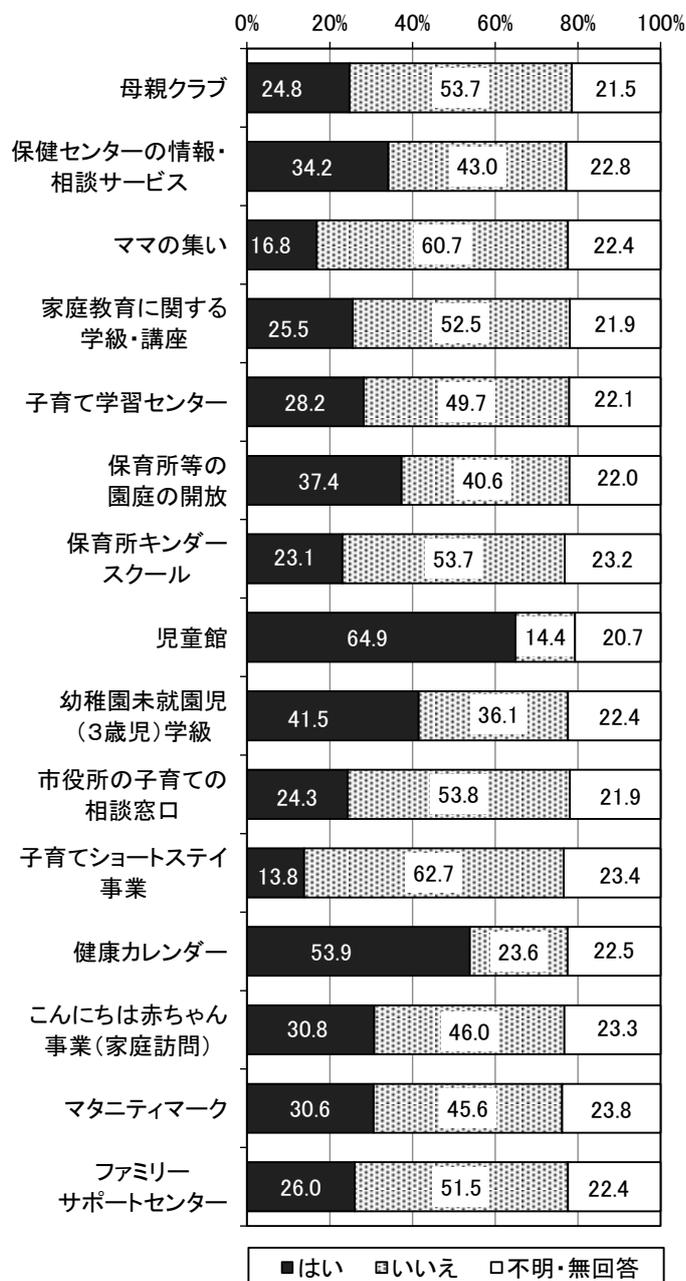
就学前児童(N=1,302)



※前回調査では「ファミリーサポートセンター」の設問はありませんでした。

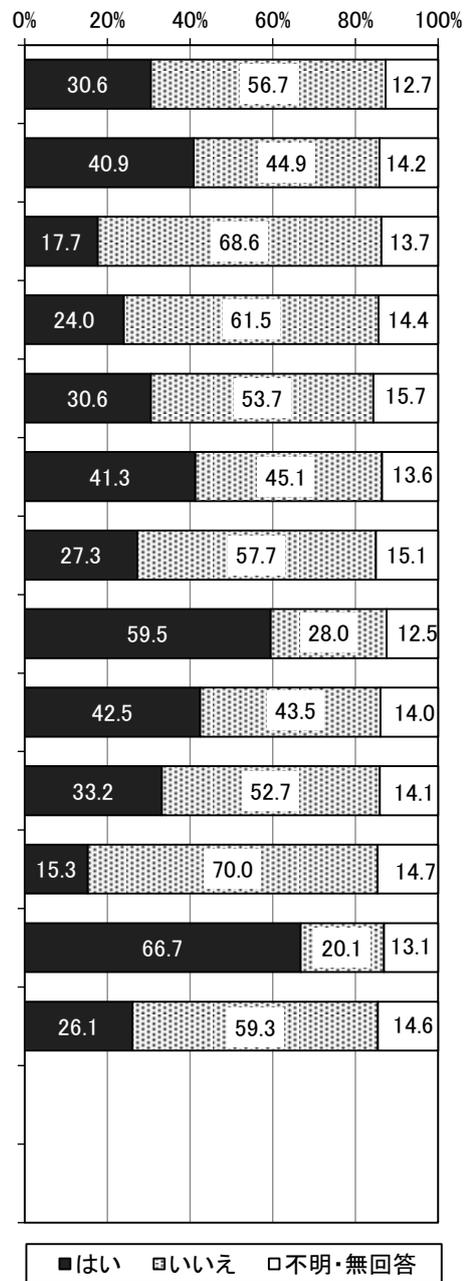
【C 今後利用したい】

就学前児童(N=1,199)



(前回調査 平成 21 年)

就学前児童(N=1,302)



※前回調査では「マタニティマーク」「ファミリーサポートセンター」の設問はありませんでした。

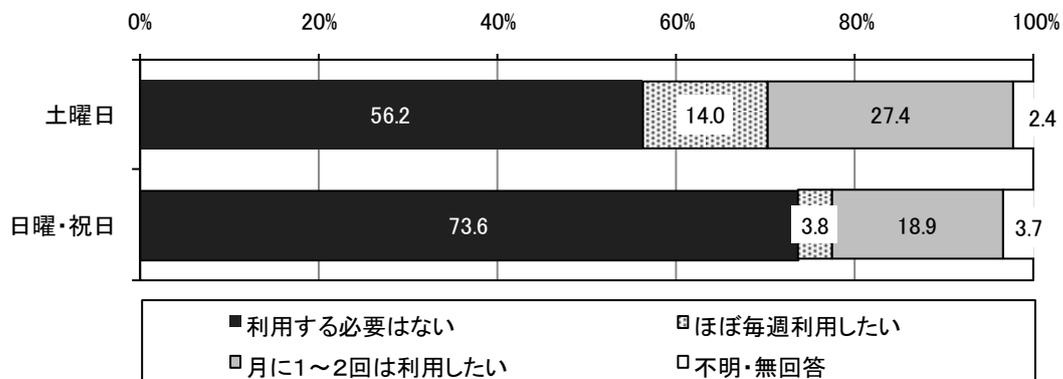
土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童）

（１）土曜日と日曜日・祝日の、定期的な教育・保育事業の利用希望（一時的な利用は除く）〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 21〕

土曜日と日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望についてみると、土曜日、日曜日・祝日ともに「利用する必要はない」がそれぞれ 56.2%、73.6%と最も高くなっています。

また、希望する利用時間帯については、開始時間では、土曜日、日曜日・祝日ともに「8時」の割合が最も高くなっています。終了時間では、土曜日、日曜日・祝日ともに「17時」の割合が最も高くなっています。

就学前児童 (N=1,199)

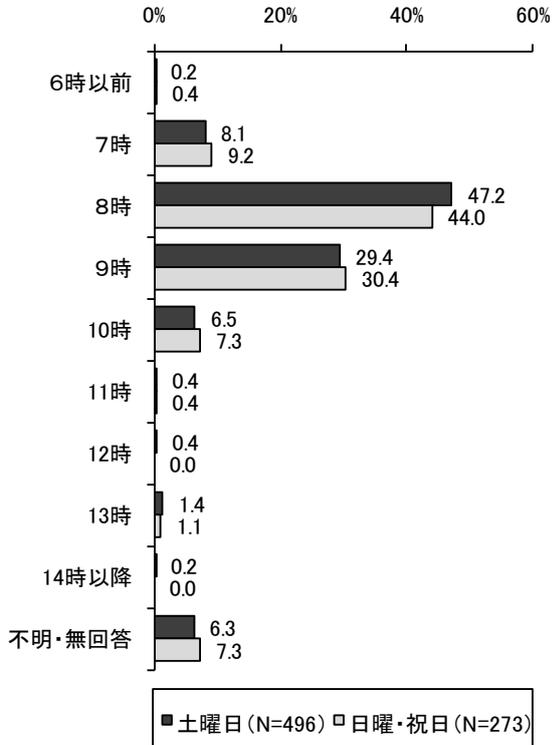


*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

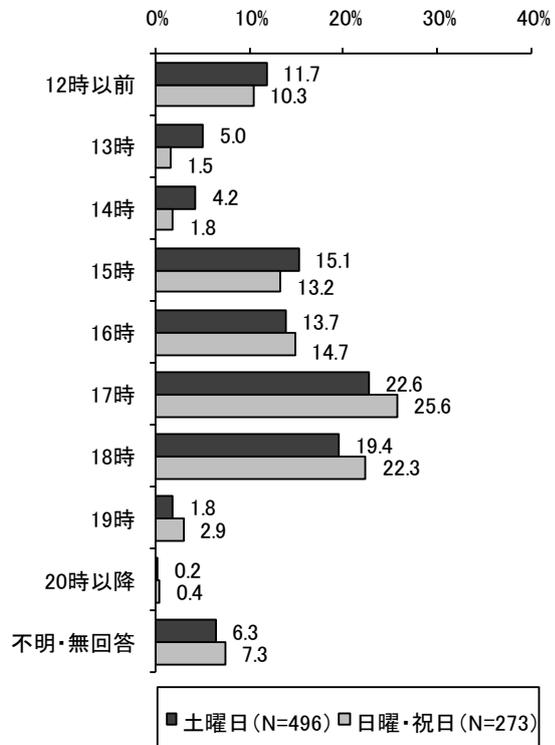
◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

《「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」を選んだ方》

【開始時間】



【終了時間】

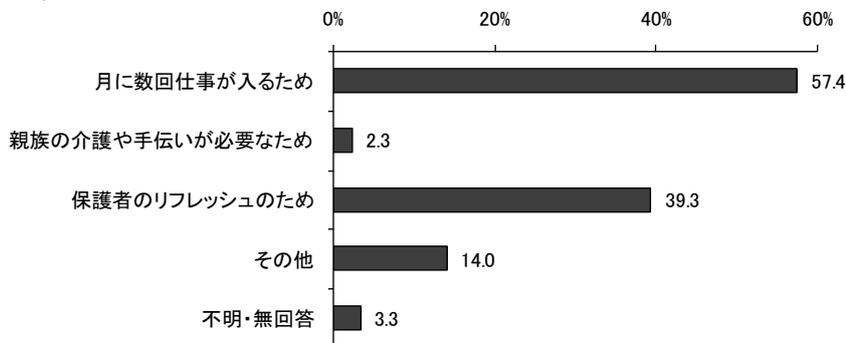


(1)で「月に1～2回は利用したい」を選んだ方

(1)－1 毎週ではなく、たまに利用したい理由〈複数回答〉 [就学前児童調査…問 21－1]

毎週ではなく、たまに利用したい方の理由についてみると、「月に数回仕事が入るため」が57.4%と最も高く、次いで「保護者のリフレッシュのため」が39.3%となっています。

就学前児童 (N=394)



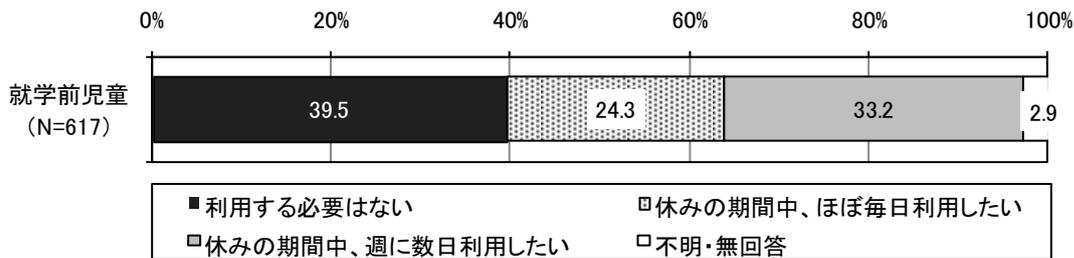
「幼稚園」を利用されている方

(2) 夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問22〕

幼稚園を利用されている方の、長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用希望についてみると、「利用する必要はない」が39.5%と最も高く、次いで「休みの期間中、週に数日利用したい」が33.2%となっています。

また、希望する利用時間帯については、開始時間では「8時」、終了時間では「17時」の割合が、それぞれ最も高くなっています。



*事業の利用には一定の利用者負担が発生する

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

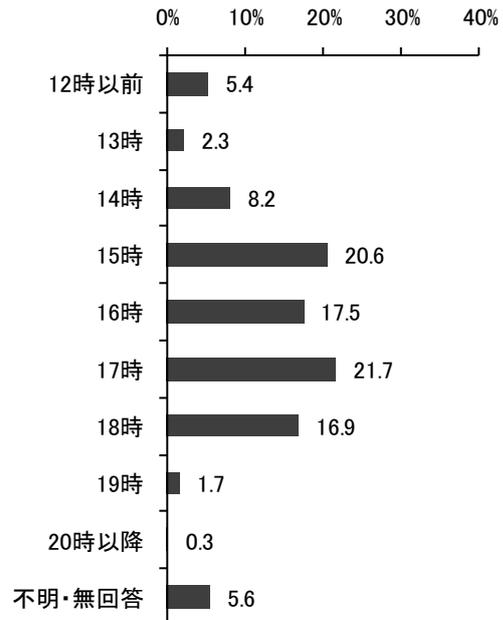
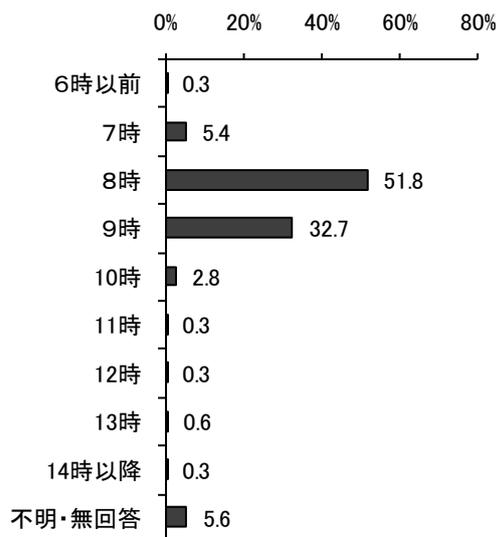
《「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」「休みの期間中、週に数日利用したい」を選んだ方》

【開始時間】

【終了時間】

就学前児童(N=355)

就学前児童(N=355)

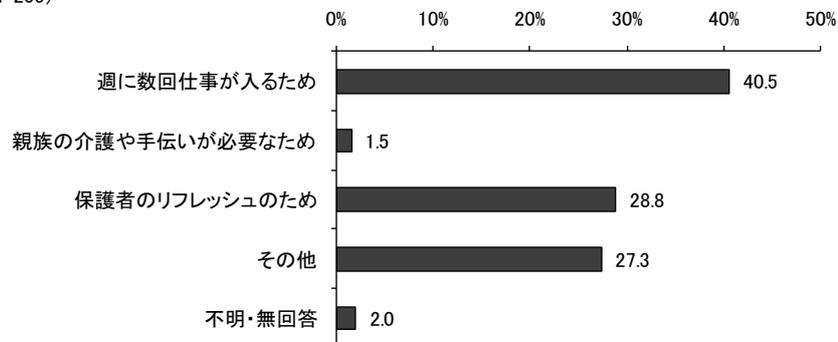


(2)で「休みの期間中、週に数日利用したい」を選ばれた方

(2)－1 毎日ではなく、たまに利用したい理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 22－1〕

毎日ではなく、たまに利用したい理由についてみると、「週に数回仕事が入るため」が40.5%と最も高く、次いで「保護者のリフレッシュのため」が28.8%となっています。

就学前児童(N=205)

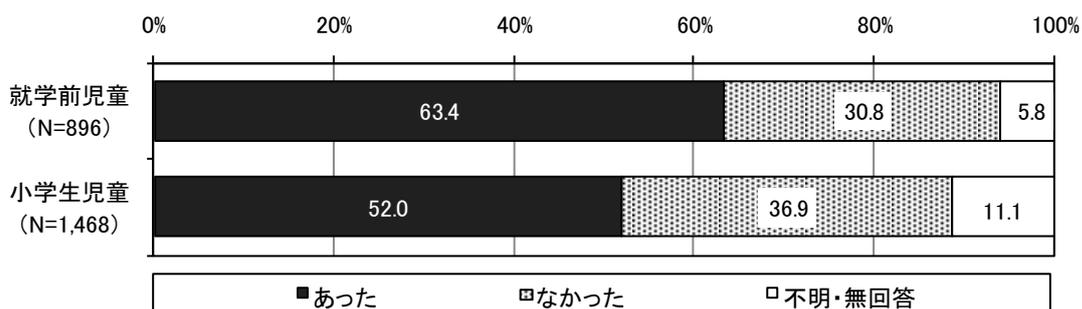


病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）

（１）この１年間に、子どもが病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった（小学生の方は学校を休まなければならなかった）ことの有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 23、小学生児童調査…問 16〕

病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験の有無についてみると、「あった」が就学前児童で63.4%、小学生児童で52.0%となっています。



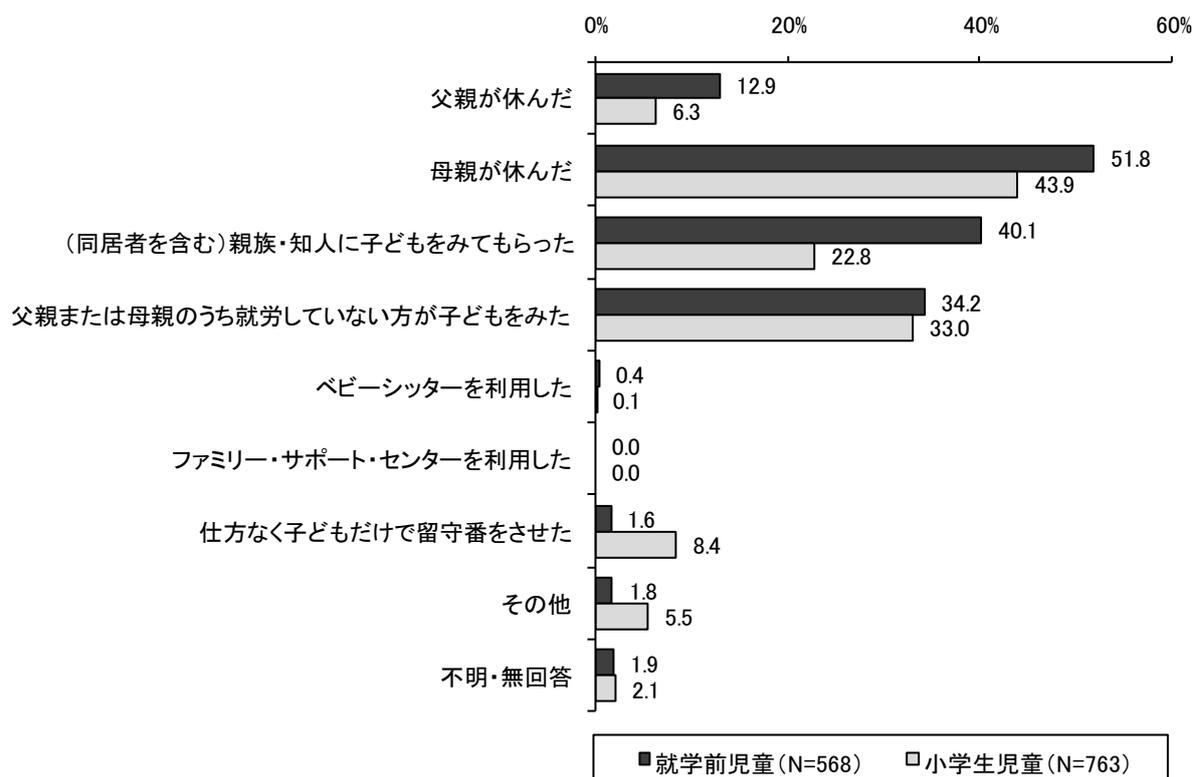
※就学前児童は、平日の定期的な教育・保育事業を利用している方

(1)で「あった」を選んだ方

(1)－1 子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合、この1年間に行った対処方法〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 23－1、小学生児童調査…問 16－1〕

子どもが病気やケガで教育・保育事業が利用できなかったり、学校へ行けなかった場合の対処方法についてみると、「母親が休んだ」が就学前児童で51.8%、小学生児童で43.9%と、それぞれ最も高く、次いで、就学前児童は「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」で40.1%、小学生児童は「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」で33.0%となっています。



子どもが病気やケガの際のそれぞれの対処日数については、就学前児童では「10日以上」で、『母親が休んだ』『(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった』『ベビーシッターを利用した』が最も高く、小学生児童では「3日」で『その他』の割合が、最も高くなっています。

◎子どもが病気やケガの際の各対処日数〈数量回答〉

【就学前児童】 対処日数	父親が休んだ N=73		母親が休んだ N=294		もにむ(同居者を含む)親族をみて人 N=228		をなう(父)親(母)が労(働)は(し)も(い)の N=194		をベビーシッター N=2		さだ(仕)け(方)で(な)く(守)番(ど)を(も) N=9		その他 N=10	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	24	32.9	44	15.0	24	10.5	23	11.9	0	0.0	5	55.6	0
2日	15	20.5	48	16.3	33	14.5	30	15.5	1	50.0	0	0.0	1	10.0
3日	9	12.3	49	16.7	43	18.9	36	18.6	0	0.0	2	22.2	3	30.0
4日	6	8.2	15	5.1	13	5.7	12	6.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	6	8.2	40	13.6	31	13.6	25	12.9	0	0.0	1	11.1	2	20.0
6日	1	1.4	9	3.1	3	1.3	6	3.1	0	0.0	0	0.0	1	10.0
7日	1	1.4	13	4.4	16	7.0	10	5.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8日	0	0.0	4	1.4	1	0.4	4	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10日以上	6	8.2	57	19.4	50	21.9	34	17.5	1	50.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	5	6.8	15	5.1	14	6.1	13	6.7	0	0.0	1	11.1	3	30.0

【小学生児童】 対処日数	父親が休んだ N=48		母親が休んだ N=335		もにむ(同居者を含む)親族をみて人 N=174		をなう(父)親(母)が労(働)は(し)も(い)の N=252		をベビーシッター N=1		さだ(仕)け(方)で(な)く(守)番(ど)を(も) N=64		その他 N=42	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	29	60.4	99	29.6	50	28.7	85	33.7	0	0.0	30	46.9	11
2日	11	22.9	98	29.3	37	21.3	42	16.7	1	100.0	15	23.4	5	11.9
3日	3	6.3	43	12.8	28	16.1	45	17.9	0	0.0	4	6.3	11	26.2
4日	0	0.0	15	4.5	6	3.4	9	3.6	0	0.0	4	6.3	1	2.4
5日	1	2.1	23	6.9	18	10.3	26	10.3	0	0.0	1	1.6	1	2.4
6日	1	2.1	7	2.1	4	2.3	10	4.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	13	3.9	4	2.3	6	2.4	0	0.0	0	0.0	3	7.1
8日	1	2.1	4	1.2	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10日以上	1	2.1	14	4.2	7	4	16	6.3	0	0.0	3	4.7	1	2.4
不明・無回答	1	2.1	18	5.4	20	11.5	12	4.8	0	0.0	7	10.9	9	21.4

※就学前児童、小学生児童ともに「ファミリーサポートセンターを利用した」に回答はありませんでした。

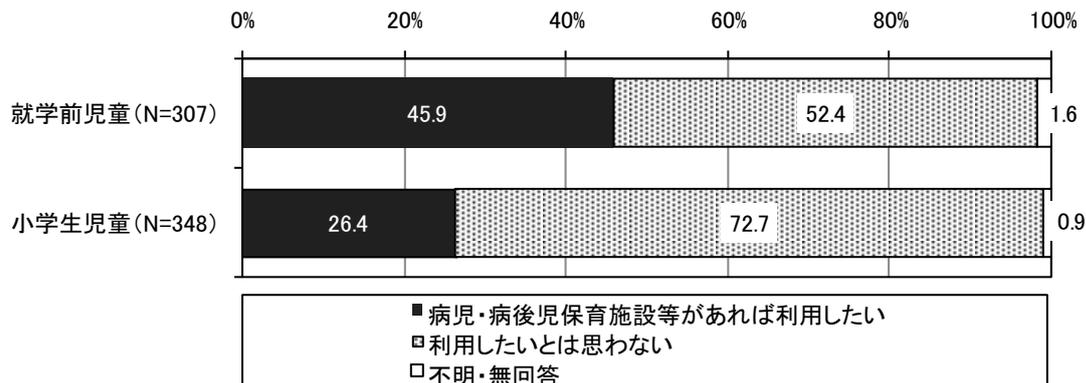
(1) - 1で「父親が休んだ」または「母親が休んだ」を選んだ方

(1) - 2 その際、病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったか

〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 23-2、小学生児童調査…問 16-2〕

父親または母親が休んだ方で、病児・病後児保育施設等があれば利用したいと思ったかについてみると、「病児・病後児保育施設等があれば利用したい」が就学前児童で 45.9%、小学生児童で 26.4%、「利用したいとは思わない」が就学前児童で 52.4%、小学生児童で 72.7%となっています。

また、利用したい日数については、就学前児童では「3日」「5日」が 13.5%、小学生児童では「2日」が 23.9%と、それぞれ高くなっています。



*病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要

◎病児・病後児保育施設等

(病気時・病後時の預かりサービス) を利用したい方の日数〈数量回答〉

《「できれば病児・病後児保育施設等

(病気時・病後時の預かりサービス) を利用したい」を選んだ方》

できれば病児・病後児保育施設等を利用したい日数	就学前児童 N=141		小学生児童 N=92	
	件数	%	件数	%
1日	12	8.5	11	12.0
2日	14	9.9	22	23.9
3日	19	13.5	16	17.4
4日	3	2.1	3	3.3
5日	19	13.5	7	7.6
6日	2	1.4	1	1.1
7日	12	8.5	9	9.8
8日	1	0.7	0	0.0
9日	1	0.7	0	0.0
10日以上	17	12.1	3	3.3
不明・無回答	41	29.1	20	21.7

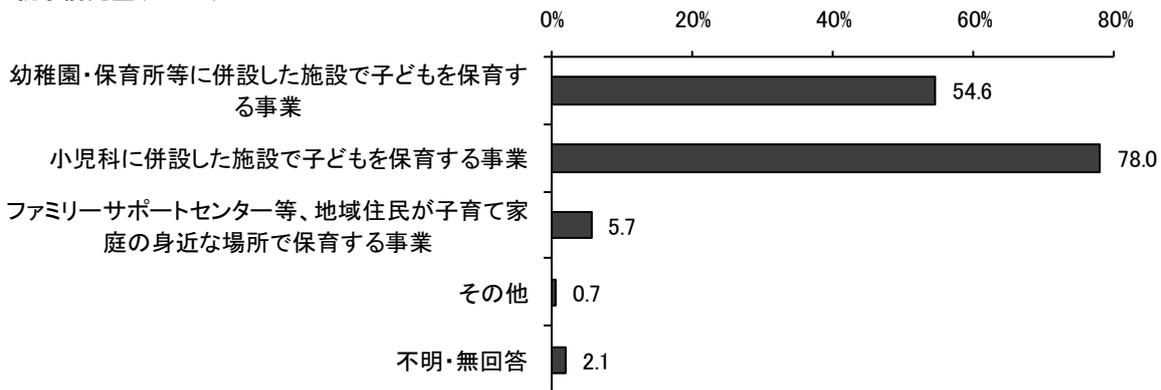
(1) - 2で「病児・病後児保育施設等があれば利用したい」を選んだ方

(1) - 3 上記の目的で子どもを預ける場合の望ましい事業形態〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 23-3〕

病児・病後児保育施設等を利用したい方の、子どもを預ける場合の望ましい事業形態についてみると、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が 78.0%で最も高く、次いで「幼稚園・保育所等に併設した施設で子どもを保育する事業」が 54.6%となっています。

就学前児童(N=141)

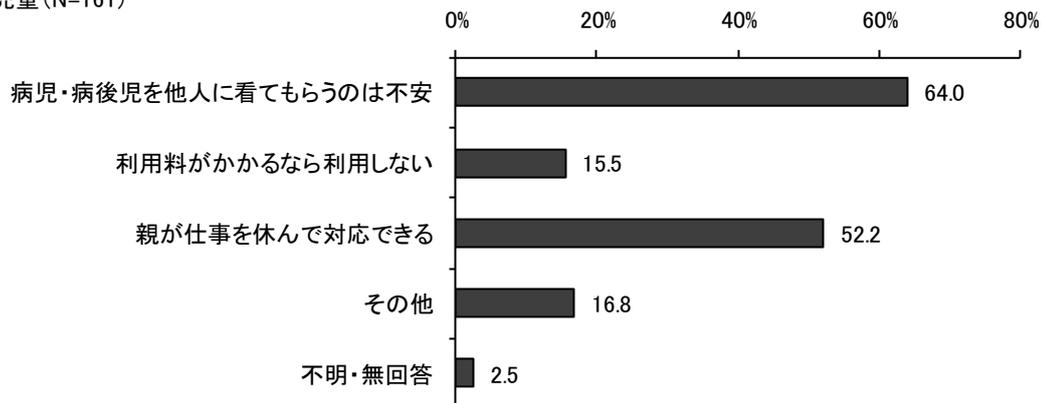


(1) - 2で「利用したいとは思わない」を選んだ方

(1) - 4 そう思う理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 23-4〕

病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由についてみると、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 64.0%と最も高く、次いで「親が仕事を休んで対応できる」が 52.2%となっています。

就学前児童(N=161)

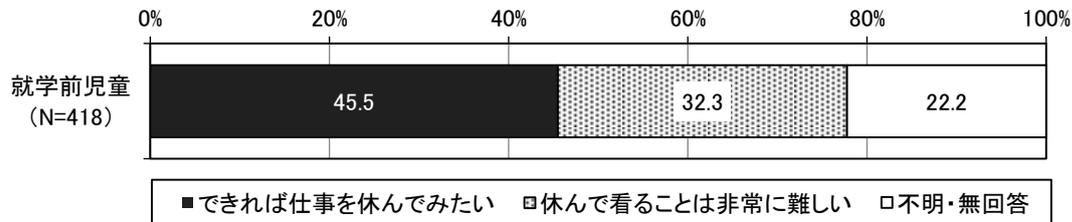


(1) - 1で「父親が休んだ」「母親が休んだ」以外を選んだ方

(1) - 5 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったか
 〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 23-5〕

「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったかについてみると、「できれば仕事を休んで看たい」が45.5%となっています。

また、仕事を休んで看たい日数については、「3日」の割合が高くなっています。



◎仕事を休んで看たい日数〈数量回答〉

《「できれば仕事を休んで看たい」を選んだ方》

できれば仕事を休んで看たい日数	就学前児童 N=190	
	件数	%
1日	20	10.5
2日	23	12.1
3日	35	18.4
4日	7	3.7
5日	14	7.4
6日	2	1.1
7日	6	3.2
8日	0	0.0
9日	0	0.0
10日以上	20	10.5
不明・無回答	63	33.2

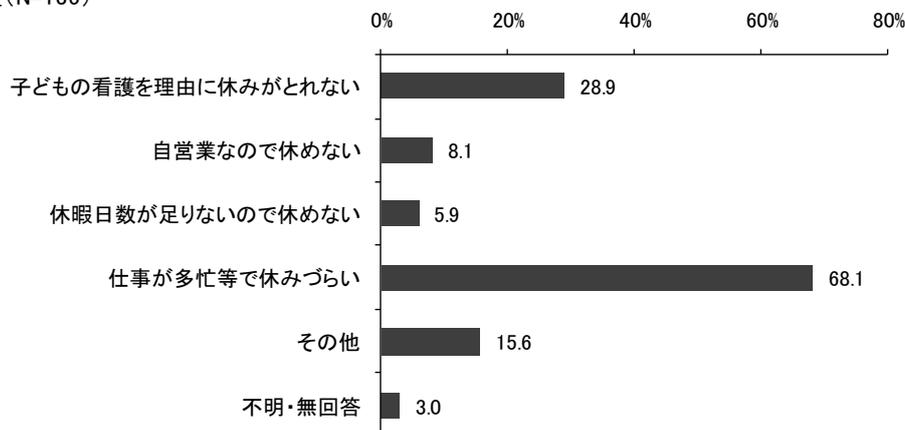
(1) - 4で「休んで看することは非常に難しい」を選んだ方

(1) - 6 そう思う理由〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 23-6〕

仕事を休んで看することは非常に難しい理由についてみると、「仕事が多忙等で休みづらい」が68.1%と最も高くなっています。

就学前児童(N=135)

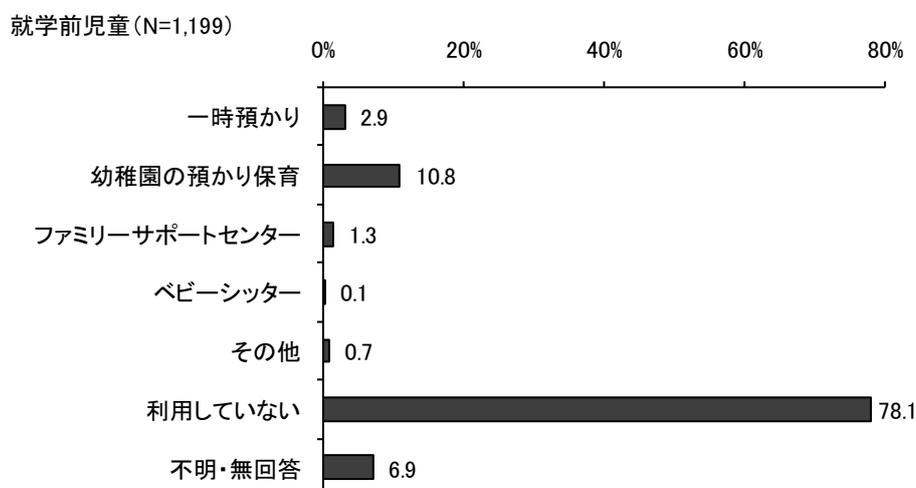


不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用する必要がある事業の有無〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 24〕

一時預かりなど、不定期に利用する必要がある事業についてみると、「利用していない」が78.1%となっています。利用している事業では、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）」の割合が10.8%となっています。

利用している事業の1年間の利用日数については、『その他』で「50日以上」、『一時預かり』『幼稚園の預かり保育』で「10～19日」の割合が高くなっています。



◎ 1年間の利用日数〈数量回答〉

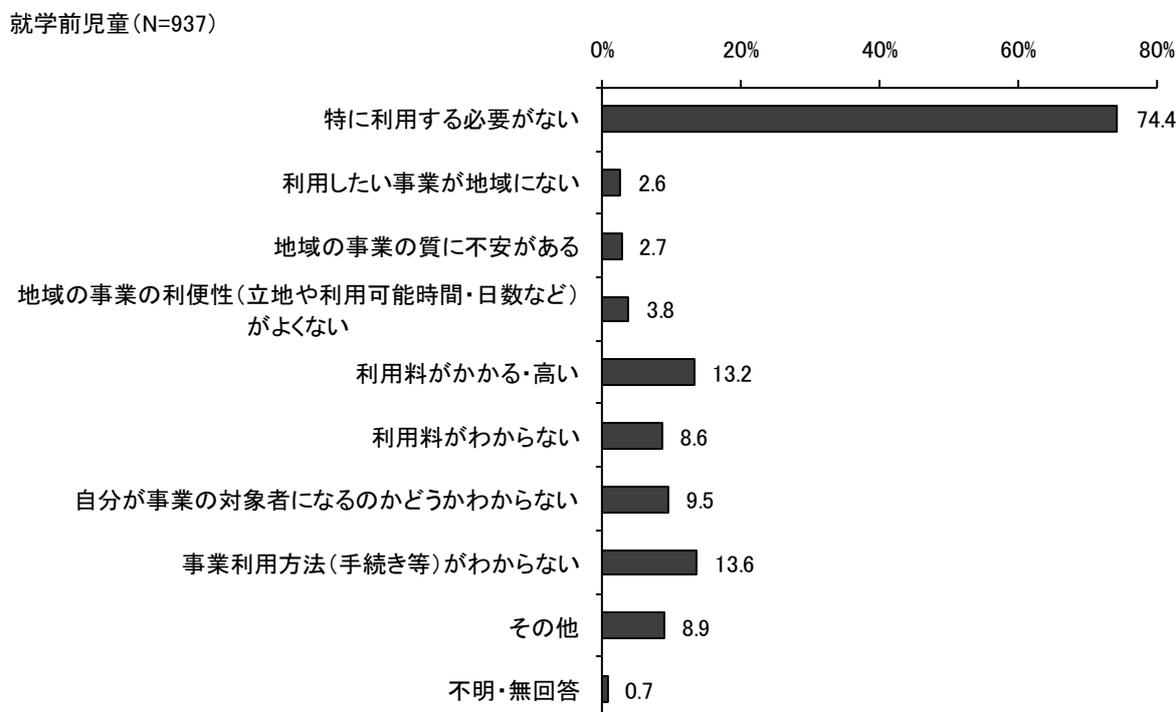
《「利用していない」以外を選んだ方》

【就学前児童】 1年間の 利用日数	一時預かり N=35		幼稚園の預かり N=129		ファミリーサポートセンター N=16		ベビーシッター N=1		その他 N=8	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	3	8.6	10	7.8	4	25.0	0	0.0	1	12.5
2日	5	14.3	5	3.9	2	12.5	0	0.0	1	12.5
3日	2	5.7	7	5.4	1	6.3	0	0.0	0	0.0
4日	1	2.9	3	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	6	17.1	14	10.9	2	12.5	0	0.0	1	12.5
6日	0	0.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	3	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8日	1	2.9	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10～19日	6	17.1	25	19.4	1	6.3	0	0.0	0	0.0
20～29日	1	2.9	8	6.2	1	6.3	0	0.0	0	0.0
30～39日	1	2.9	7	5.4	0	0.0	0	0.0	1	12.5
40～49日	1	2.9	4	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
50日以上	3	8.6	22	17.1	1	6.3	0	0.0	2	25.0
不明・無回答	5	14.3	19	14.7	4	25.0	1	100.0	2	25.0

(1)で「利用していない」を選んだ方

(1)－1 現在利用していない理由〈複数回答〉〔就学前児童調査…問 24－1〕

現在利用していない理由についてみると、「特に利用する必要がない」が74.4%となっています。また、「事業利用方法（手続き等）がわからない」が13.6%となっています。

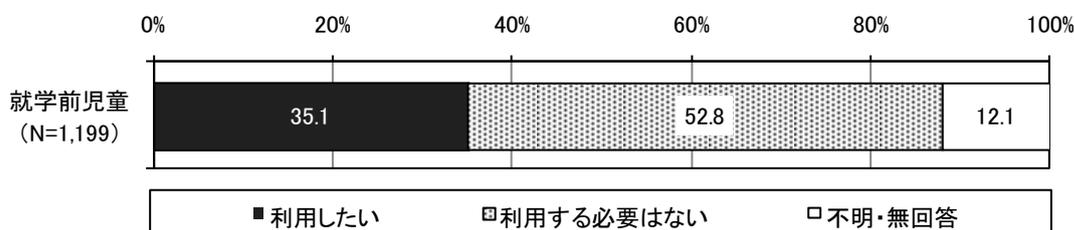


(2) 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、利用する必要がある事業の有無

〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 25〕

不定期に利用する必要がある事業の有無についてみると、「利用したい」が35.1%、「利用する必要はない」が52.8%となっています。

また、利用したい目的の内訳については、「私用（買物、兄弟姉妹や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が55.1%、「冠婚葬祭、兄弟姉妹の学校行事や親の通院」が49.9%となっています。年間日数については、全ての項目について「10～19日」の割合が高くなっています。



* 事業の利用には、一定の利用料がかかる

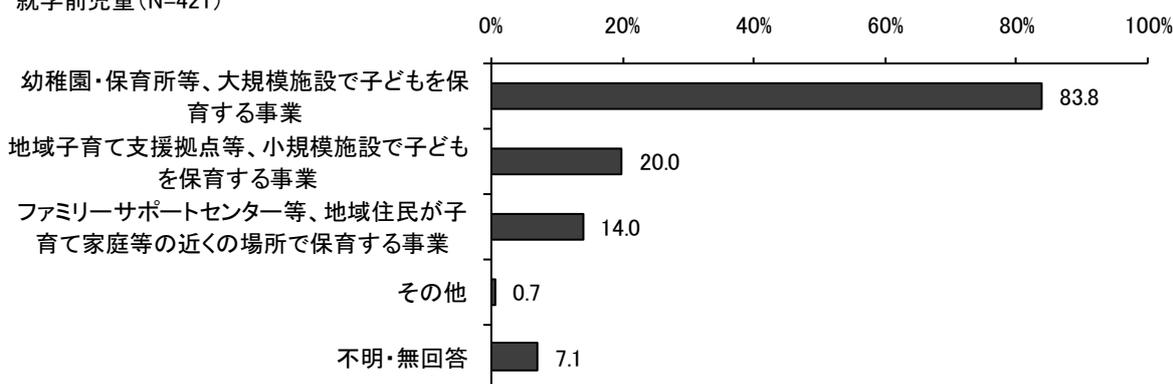
(2)で「利用したい」を選んだ方

(2)－1 (2)の目的で子どもを預ける場合の望ましい事業形態〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 25－1〕

利用したい方の子どもを預ける場合の望ましい事業形態についてみると、「幼稚園・保育所等、大規模施設で子どもを保育する事業」が83.8%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点等、小規模施設で子どもを保育する事業」が20.0%となっています。

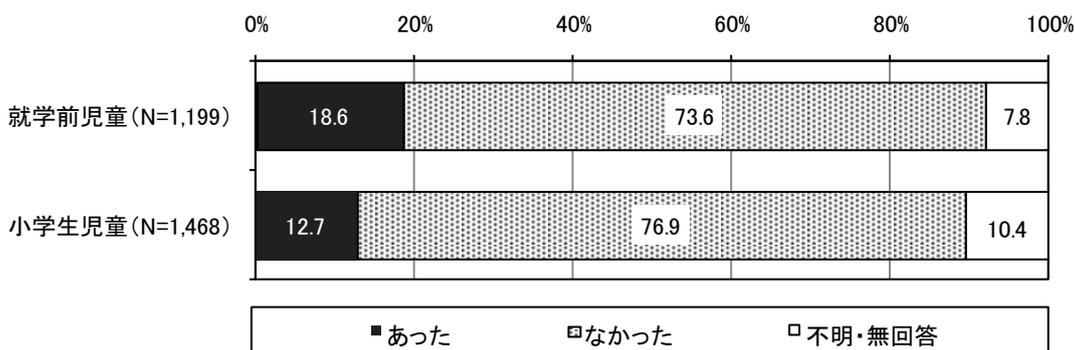
就学前児童(N=421)



(3) この1年間に、保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験の有無〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 26、小学生児童調査…問 17〕

子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験の有無についてみると、「なかった」が就学前児童で73.6%、小学生児童で76.9%、「あった」が就学前児童で18.6%、小学生児童で12.7%となっています。



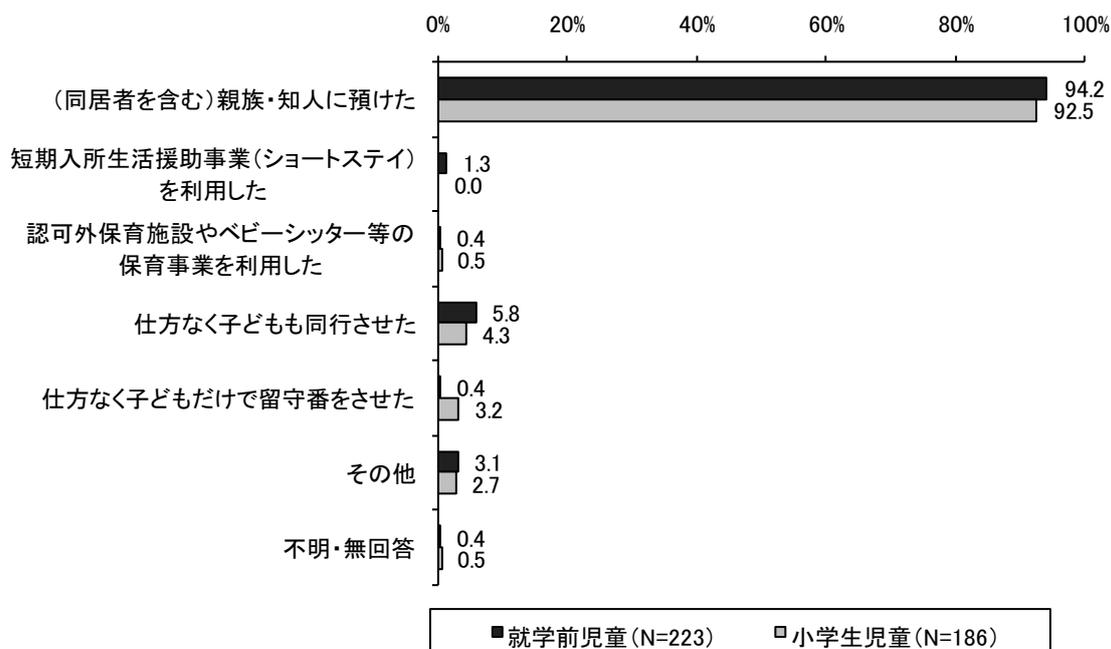
(3)で「あった」を選んだ方

(3) - 1 この1年間の対処方法とそれぞれの日数

[就学前児童調査…問 26-1、小学生児童調査…問 17-1]

◎1年間の対処方法〈複数回答〉

子どもを泊りがけで一時的に預けた際の1年間の対処方法についてみると、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が就学前児童、小学生児童ともに最も高く、それぞれ94.2%、92.5%となっています。



◎それぞれの日数〈数量回答〉

子どもを泊りがけで一時的に預けた際の泊数については、就学前児童では『短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した』『認可外保育施設やベビーシッター等の保育事業を利用した』で「3泊」の割合が高いが、共に件数は1件のみであります。小学生児童では『仕方なく子どもも同行させた』で「1泊」「2泊」「5泊」の割合が高いが、共に件数は2件のみであります。

【就学前児童】 1年間の 利用日数	にむ（同 預）居 け親 た族 を 知 人		用ト助短 しス事期 たテ業入 イ（シ生 ）をヨ活 利 援		業タや認 を ベ可 利等ビ外 用の 保 した保シ育 事ッ施 設		も仕 同方 行な さく せ た ど も		さだ仕 せけ方 たでな く 留 守 番 ど も		そ の 他	
	N=210		N=3		N=1		N=13		N=1		N=7	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%			件数	%
1泊	68	32.4	0	0.0	0	0.0	4	30.8	0	0.0	2	28.6
2泊	26	12.4	0	0.0	0	0.0	1	7.7	0	0.0	1	14.3
3泊	22	10.5	1	33.3	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4泊	4	1.9	0	0.0	0	0.0	2	15.4	0	0.0	0	0.0
5泊	15	7.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6泊	5	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7泊	8	3.8	0	0.0	0	0.0	1	7.7	0	0.0	0	0.0
8泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9泊	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10泊以上	28	13.3	0	0.0	0	0.0	1	7.7	0	0.0	1	14.3
不明・無回答	33	15.7	2	66.7	0	0.0	4	30.8	1	100.0	3	42.9

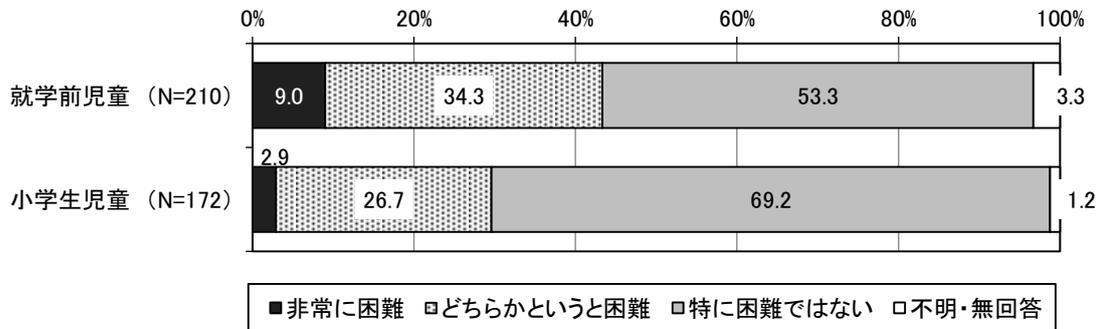
【小学生児童】 1年間の 利用日数	にむ（同 預）居 け親 た族 を 知 人		業タや認 を ベ可 利等ビ外 用の 保 した保シ育 事ッ施 設		も仕 同方 行な さく せ た ど も		さだ仕 せけ方 たでな く 留 守 番 ど も		そ の 他	
	N=172		N=1		N=8		N=6		N=5	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1泊	75	43.6	0	0.0	2	25.0	2	33.3	2	40.0
2泊	30	17.4	0	0.0	2	25.0	1	16.7	0	0.0
3泊	12	7.0	0	0.0	1	12.5	1	16.7	0	0.0
4泊	2	1.2	1	100.0	1	12.5	0	0.0	0	0.0
5泊	13	7.6	0	0.0	2	25.0	0	0.0	0	0.0
6泊	3	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7泊	2	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8泊	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9泊	1	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10泊以上	12	7.0	0	0.0	0	0.0	1	16.7	0	0.0
不明・無回答	22	12.8	0	0	0	0.0	1	16.7	3	60.0

※小学生児童の「短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した」に回答はありませんでした。

(3) - 1で「親族・知人にみてもらった」を選んだ方

(3) - 2 その場合の困難度〈単数回答〉 [就学前児童調査…問 26-2、小学生児童調査…問 17-2]

親族・知人にみてもらった場合の困難度についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「特に困難ではない」がそれぞれ53.3%、69.2%と最も高くなっています。



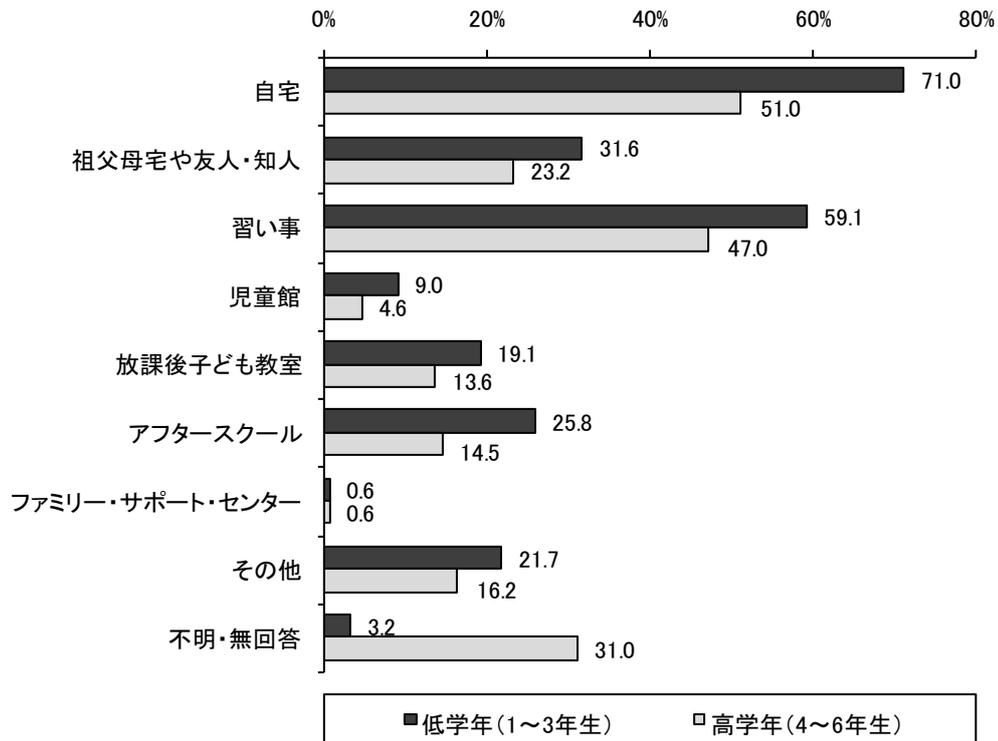
小学校就学後の放課後の過ごし方について

◎お子さんが5歳以上（来年度就学予定）の方

（1）小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を主にどのような場所で過ごさせたいと思うか〈複数回答〉〔就学前児童調査…問27〕

放課後の時間を過ごさせたいと思う場所についてみると、小学校低学年、小学校高学年ともに「自宅」が最も高く、それぞれ71.0%と51.0%となっています。次いで「習い事」が、それぞれ59.1%、47.0%となっています

就学前児童(N=345)



週あたりの利用希望日数については、小学校低学年では『自宅』『アフタースクール』で「5日」の割合が最も高くなっています。小学校高学年では『自宅』『放課後子ども教室』『アフタースクール』で「5日」の割合が最も高くなっています。

また、『アフタースクール』を選んだ方の利用希望時間では、小学校低学年では「18時」が44.9%、小学校高学年では「17時」が38.0%と最も高くなっています。

①週あたりの利用希望日数〈数量回答〉

◎小学校低学年

【就学前児童】 小学校低学年 週あたりの 利用希望日数	自宅		人祖 ・父 知母 人宅 宅友		なク教習 どラ室い 〜ブ、事 、サ（ピ 学ッピア 習カー 塾ーノ		児 童 館		室放 課後 子ど も教		ルア フタ ー スク ー		ポファミ ートミ ー セン ター		館そ 、の 他（公 民 など）	
	N=245		N=109		N=204		N=31		N=66		N=89		N=2		N=75	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	24	9.8	39	35.8	60	29.4	16	51.6	19	28.8	4	4.5	1	50.0	22	29.3
2日	43	17.6	40	36.7	88	43.1	7	22.6	10	15.2	4	4.5	1	50.0	18	24.0
3日	35	14.3	6	5.5	45	22.1	4	12.9	9	13.6	10	11.2	0	0.0	19	25.3
4日	18	7.3	2	1.8	6	2.9	0	0.0	12	18.2	9	10.1	0	0.0	0	0.0
5日	108	44.1	14	12.8	0	0.0	1	3.2	15	22.7	61	68.5	0	0.0	10	13.3
6日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	17	6.9	8	7.3	5	2.5	3	9.7	1	1.5	1	1.1	0	0.0	6	8.0

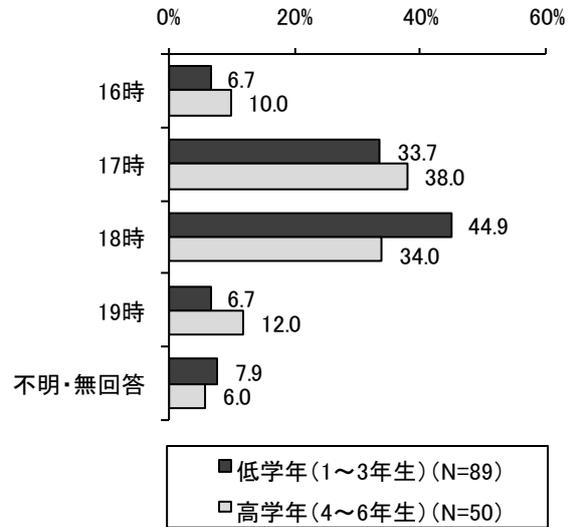
◎小学校高学年

【就学前児童】 小学校高学年 週あたりの 利用希望日数	自宅		人祖 ・父 知母 人宅 宅友		なク教習 どラ室い 〜ブ、事 、サ（ピ 学ッピア 習カー 塾ーノ		児 童 館		室放 課後 子ど も教		ルア フタ ー スク ー		ポファミ ートミ ー セン ター		館そ 、の 他（公 民 など）	
	N=176		N=80		N=162		N=16		N=47		N=50		N=2		N=56	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	29	16.5	26	32.5	21	13.0	8	50.0	11	23.4	1	2.0	1	50.0	17	30.4
2日	34	19.3	29	36.3	64	39.5	4	25.0	12	25.5	2	4.0	1	50.0	16	28.6
3日	25	14.2	11	13.8	54	33.3	3	18.8	8	17.0	10	20.0	0	0.0	10	17.9
4日	6	3.4	3	3.8	18	11.1	0	0.0	4	8.5	4	8.0	0	0.0	2	3.6
5日	73	41.5	8	10.0	1	0.6	1	6.3	12	25.5	32	64.0	0	0.0	9	16.1
6日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	9	5.1	3	3.8	4	2.5	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0	2	3.6

②「アフタースクール」の利用希望時間

(下校時から何時まで)〈数量回答〉

《「アフタースクール」を選んだ方》

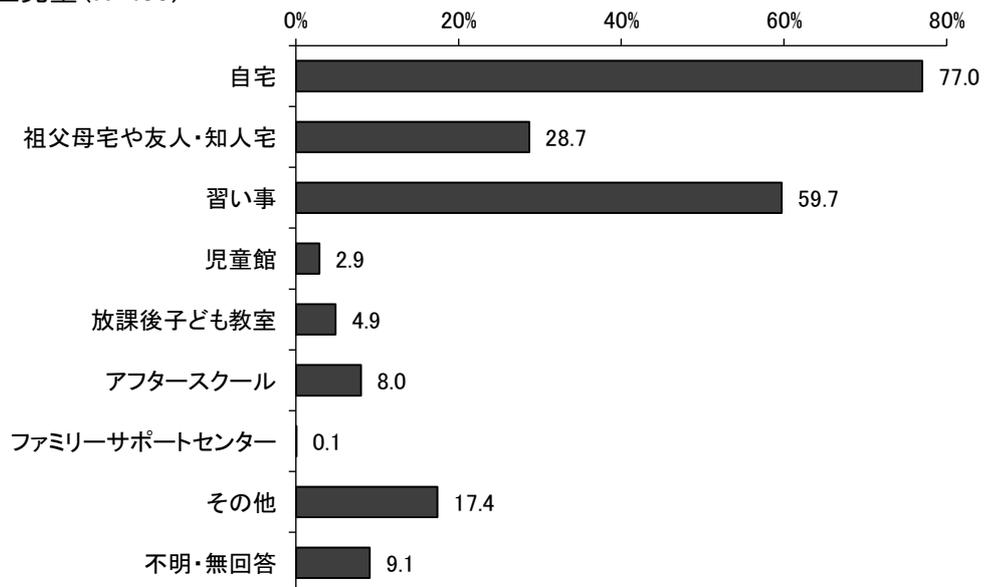


(2) お子さんの、放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方〈複数回答〉

[小学生児童調査…問 14]

放課後(平日の小学校終了後)の過ごし方についてみると、「自宅」が77.0%と最も高く、次いで「習い事」が59.7%となっています。

小学生児童(N=456)



週あたりの利用日数については、『自宅』『アフタースクール』で「5日」の割合が最も高くなっています。また、『アフタースクール』を選んだ方の利用時間では、「18時」が45.3%と最も高くなっています。

①週あたりの利用日数〈数量回答〉

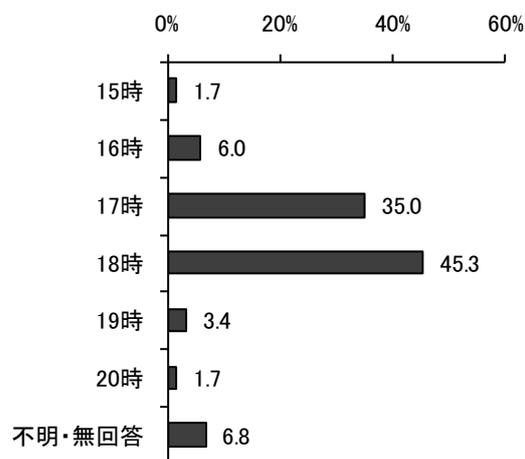
【小学生児童】 週あたりの 利用日数	自宅 N=1,130		人祖 ・父 知母 人宅 や友 宅		なク教習 どラ室い 〜ブ、事 、サへ 学ッピ 習カア 塾ーノ		児 童 館 N=42		室放 課後 子 ども 教 N=72		ルア フタ ー スク ー N=117		ポフ ー トミ リ セ ン ター N=1		館そ 、の 他 （公 民 な ど ） N=256	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	1日	103	9.1	136	32.3	209	23.9	21	50	14	19.4	2	1.7	0	0.0	71
2日	183	16.2	132	31.4	264	30.1	4	9.5	14	19.4	3	2.6	0	0.0	80	31.3
3日	180	15.9	44	10.5	218	24.9	4	9.5	23	31.9	18	15.4	0	0.0	43	16.8
4日	122	10.8	29	6.9	100	11.4	4	9.5	13	18.1	16	13.7	0	0.0	27	10.5
5日	340	30.1	54	12.8	51	5.8	3	7.1	5	6.9	71	60.7	0	0.0	22	8.6
6日	26	2.3	6	1.4	15	1.7	0	0.0	0	0.0	3	2.6	1	100.0	1	0.4
7日	106	9.4	8	1.9	6	0.7	2	4.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	1.6
不明・無回答	70	6.2	12	2.9	13	1.5	4	9.5	3	4.2	4	3.4	0	0.0	8	3.1

②「アフタースクール」の利用希望時間

（下校時から何時まで）〈数量回答〉

《「アフタースクール」を選んだ方》

小学生児童(N=117)



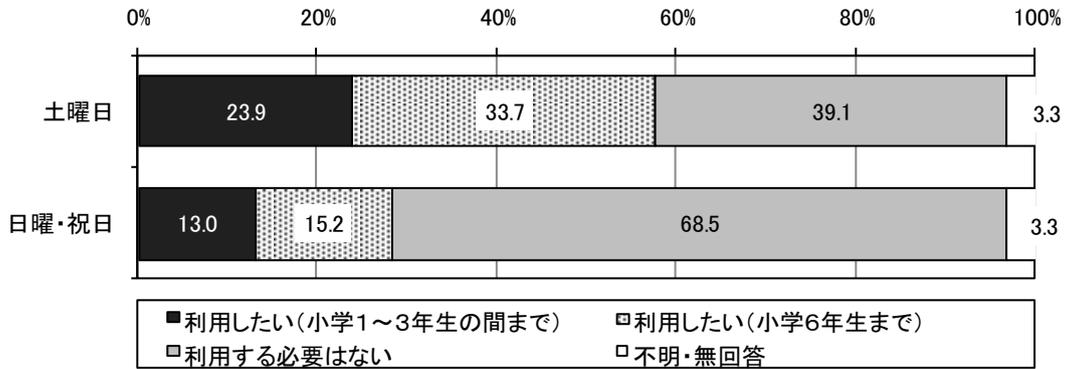
(1)、(2)で「アフタースクール」を選んだ方

(3) 土曜日と日曜日・祝日のアフタースクールの利用希望〈単数回答〉

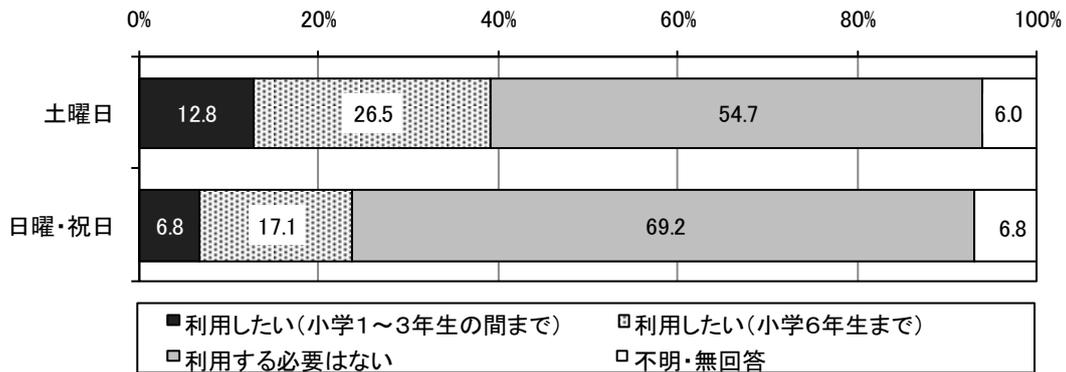
〔就学前児童調査…問 27-1、小学生児童調査…問 14-1〕

土曜日と日曜日・祝日のアフタースクールの利用希望についてみると、就学前児童、小学生児童ともに、土曜日と日曜日・祝日では「利用する必要はない」が最も高くなっています。

就学前児童(N=92)



小学生児童(N=117)

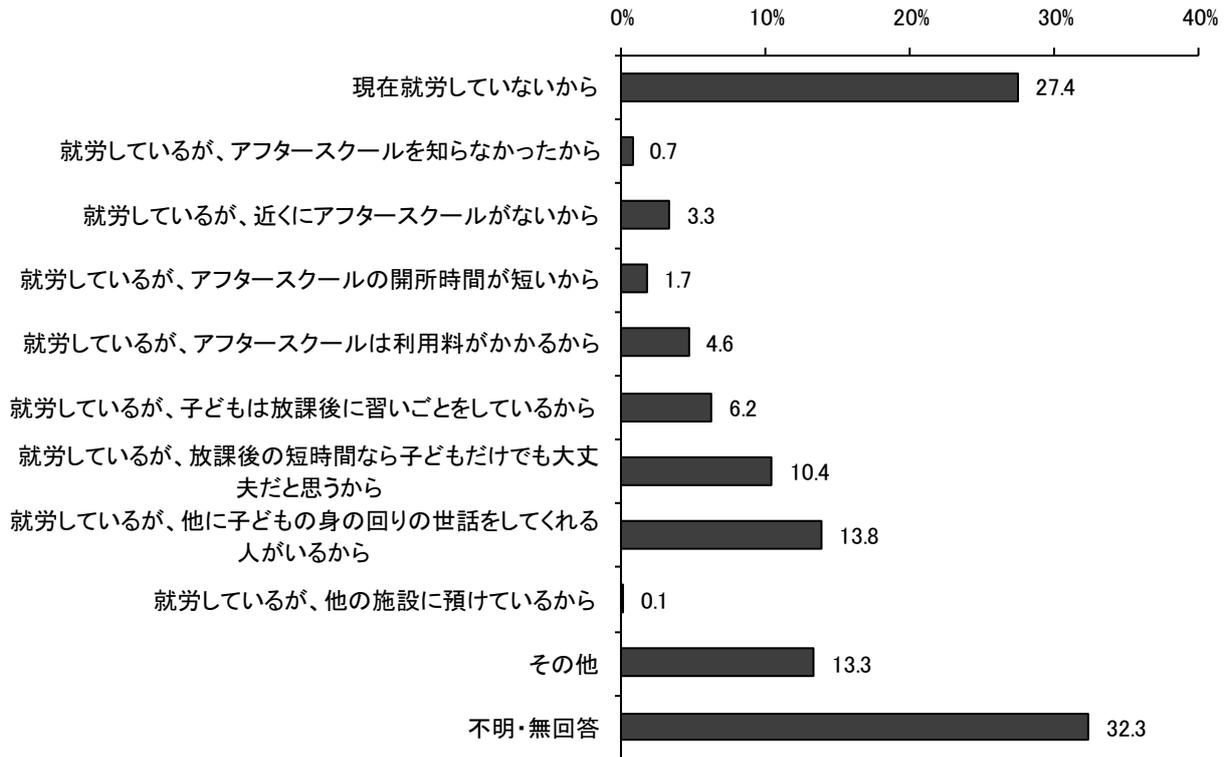


(1)、(2)で「アフタースクール」以外を選んだ方

(4) アフタースクールを利用していない理由 [小学生児童調査…問 14-2]

アフタースクールを利用していない理由についてみると、「現在就労していないから」が最も高くなっています。「利用したい」方の、希望する利用時間帯については、土曜日、日曜日・祝日ともに、開始時間は「8時」、終了時間は「18時」の割合が、それぞれ最も高くなっています。

小学生児童 (N=1,351)



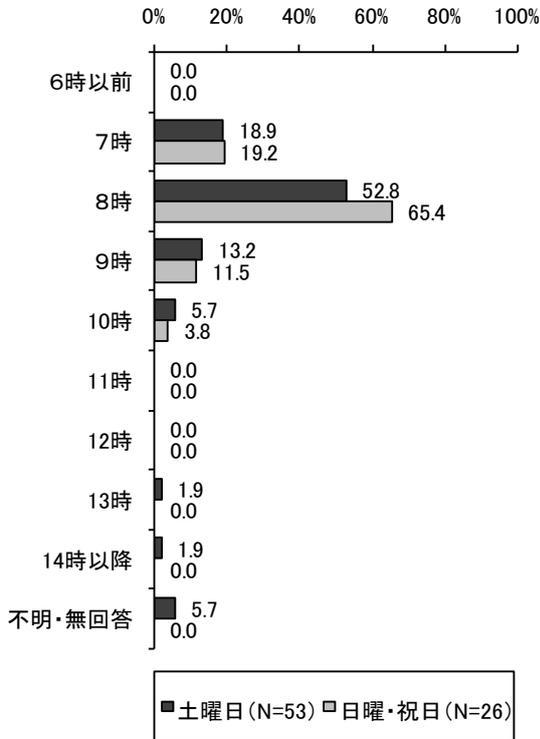
* 事業の利用には、一定の利用料がかかる

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

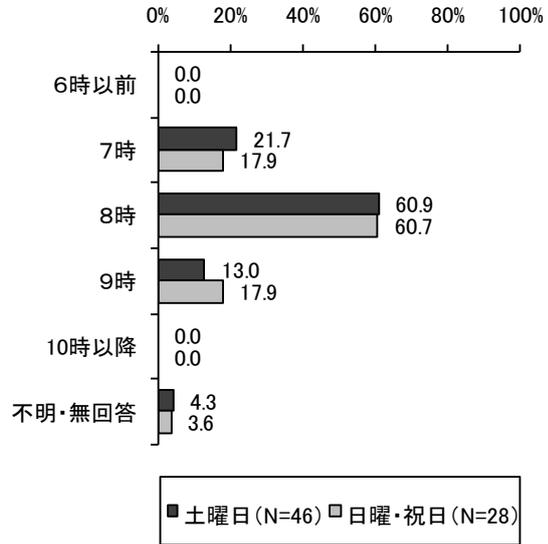
《「利用したい（小学校1～3年生の間まで）」「利用したい（小学校6年生まで）」を選んだ方》

【開始時間】

就学前児童

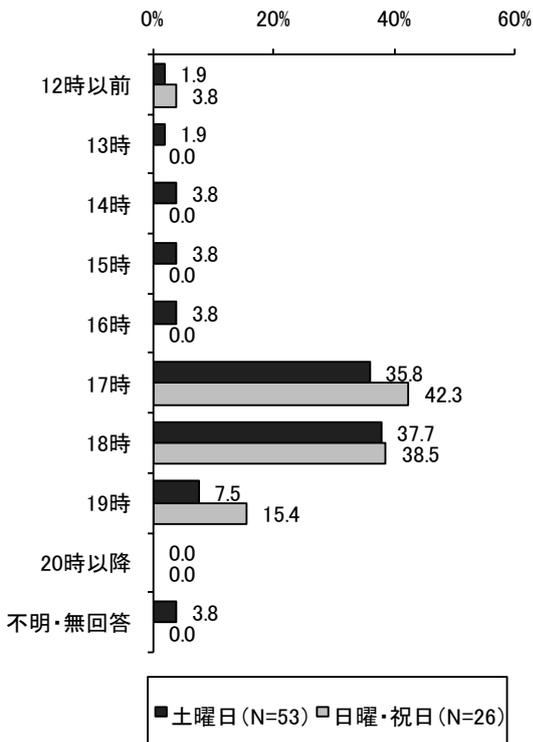


小学生児童

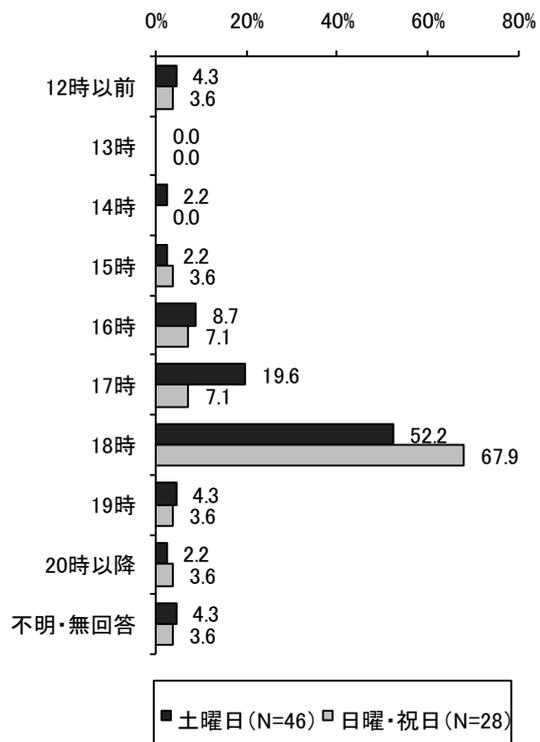


【終了時間】

就学前児童



小学生児童

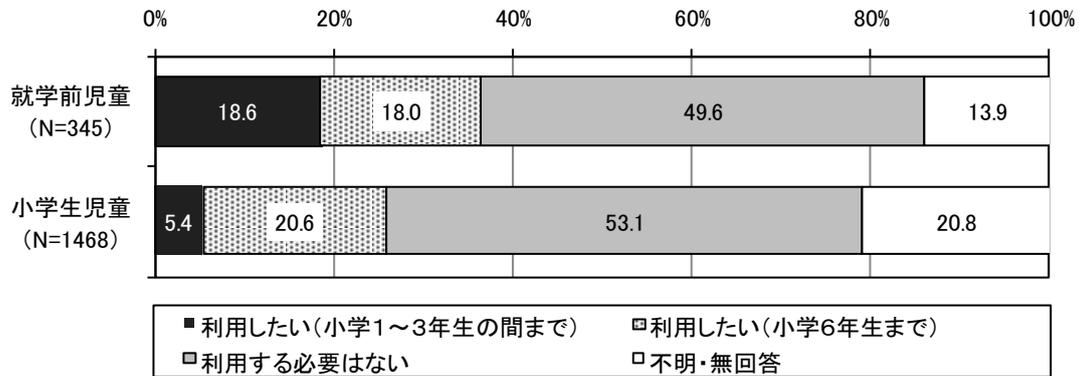


(4) 夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中のアフタースクールの利用希望

〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 28、小学生児童調査…問 15〕

長期の休暇期間中のアフタースクールの利用希望についてみると、就学前児童、小学生児童ともに「利用する必要はない」が最も高く、それぞれ 49.6%、53.1%となっています。

希望する利用時間帯について、開始時間では、就学前児童、小学生児童ともに「8時」、終了時間では就学前児童で「17時」、小学生児童で「18時」の割合が、それぞれ最も高くなっています。



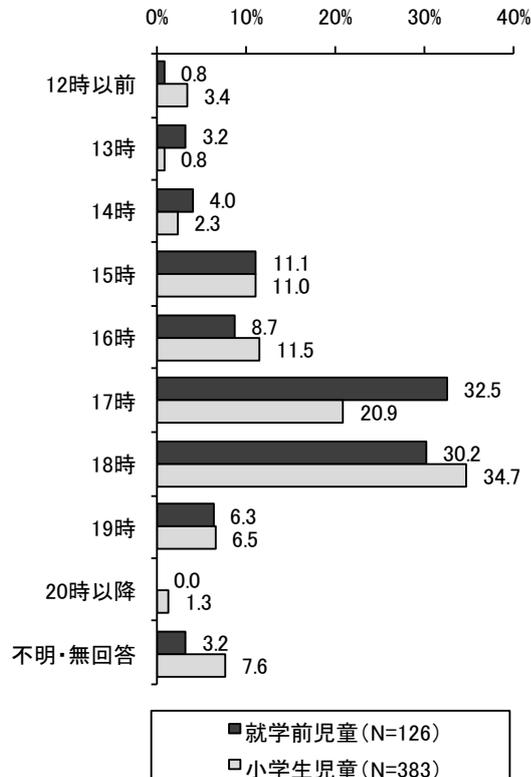
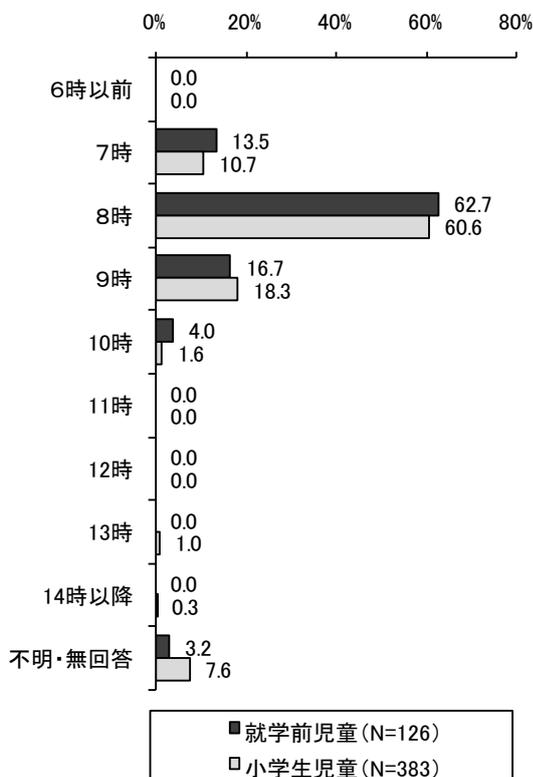
*事業の利用には、一定の利用料がかかる

◎希望する利用時間帯〈数量回答〉

《「利用したい（小学校1～3年生の間まで）」「利用したい（小学校6年生まで）」を選んだ方》

【開始時間】

【終了時間】

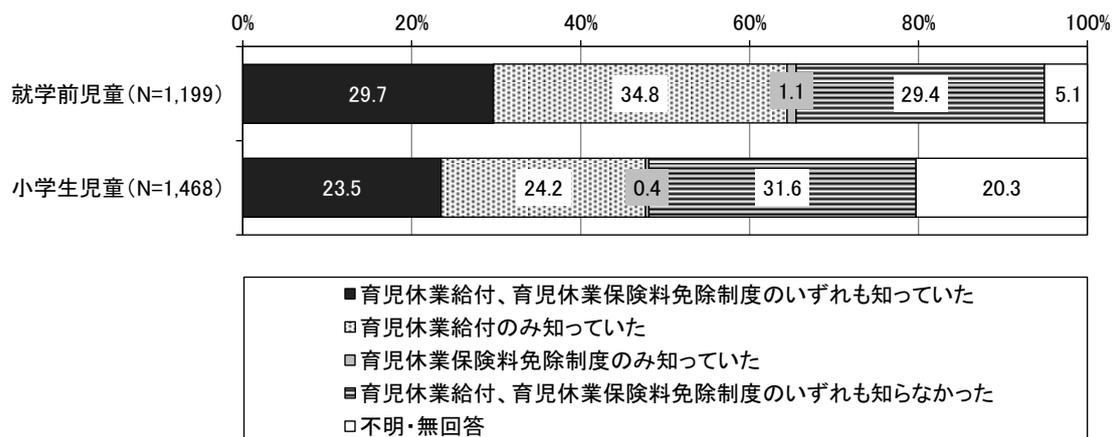


育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

(1) 育児休業給付や育児休業保険料免除制度の認知度〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 29、小学生児童調査…問 19〕

育児休業給付や育児休業保険料免除制度の認知度についてみると、就学前児童では「育児休業給付のみ知っていた」が34.8%と最も高くなっています。また、小学生児童では「育児休業給付、育児休業保険料免除制度のいずれも知らなかった」が31.6%となっています。

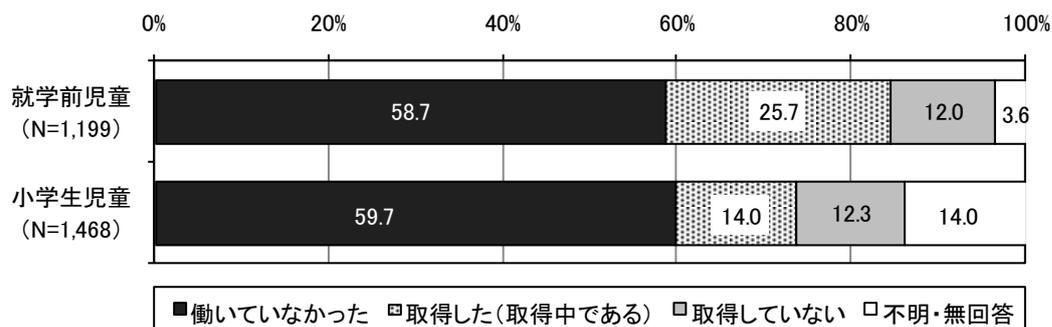


(2) 子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況〈単数回答〉

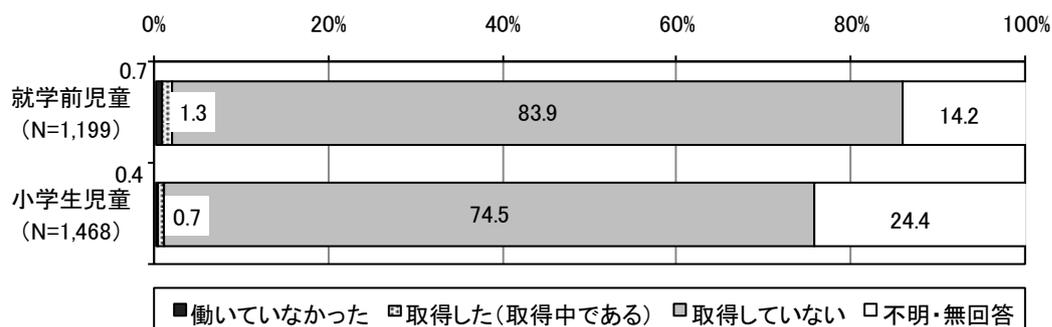
[就学前児童調査…問 30、小学生児童調査…問 20]

子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況についてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「働いていなかった」が最も高く、それぞれ58.7%、59.7%となっています。父親では、就学前児童、小学生児童ともに「取得していない」が最も高く、それぞれ83.9%、74.5%となっています。また、母親の「取得した(取得中である)」が就学前児童で25.7%、小学生児童で14.0%となっています。父親では就学前児童で1.3%、小学生児童で0.7%となっています。

【母親】

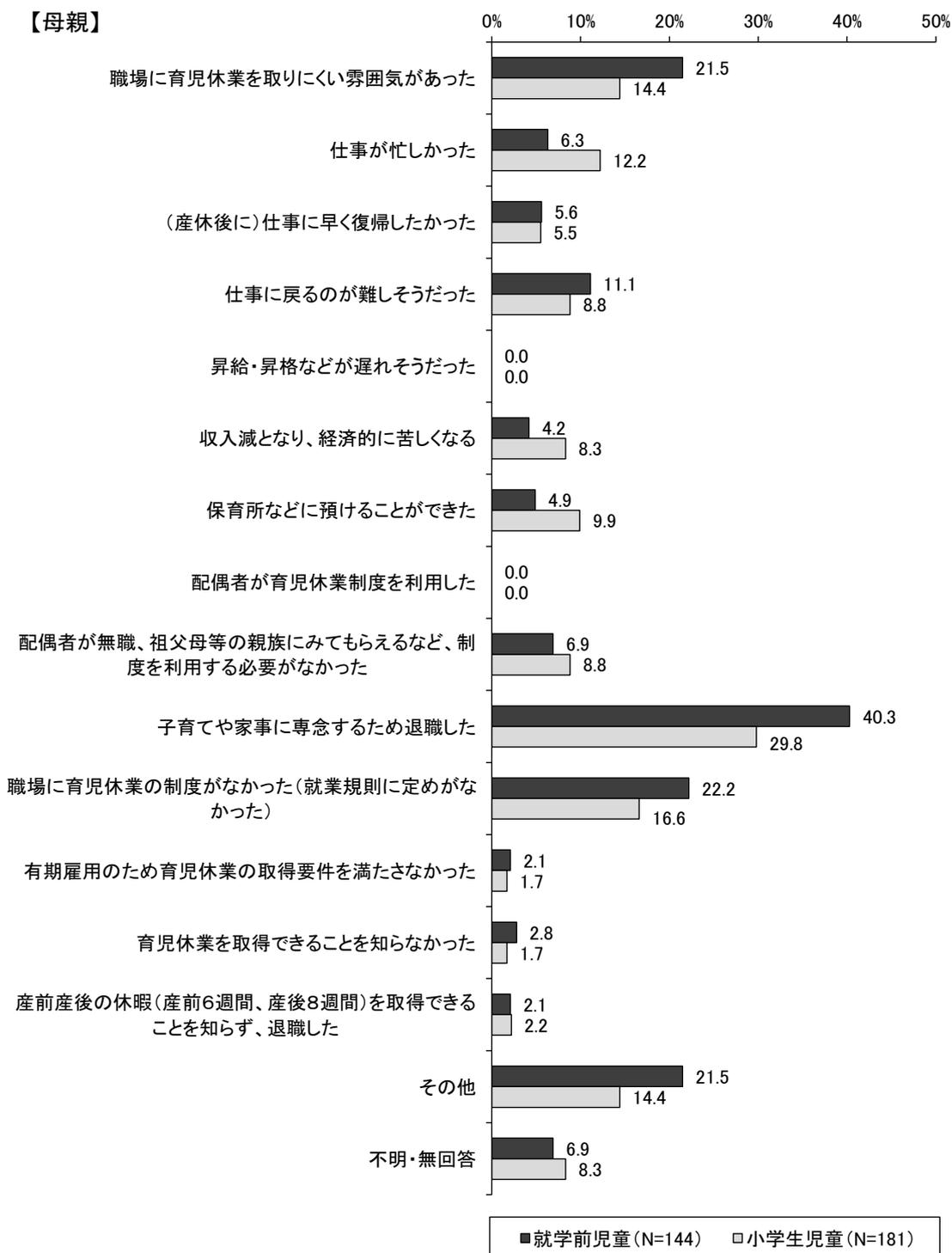


【父親】

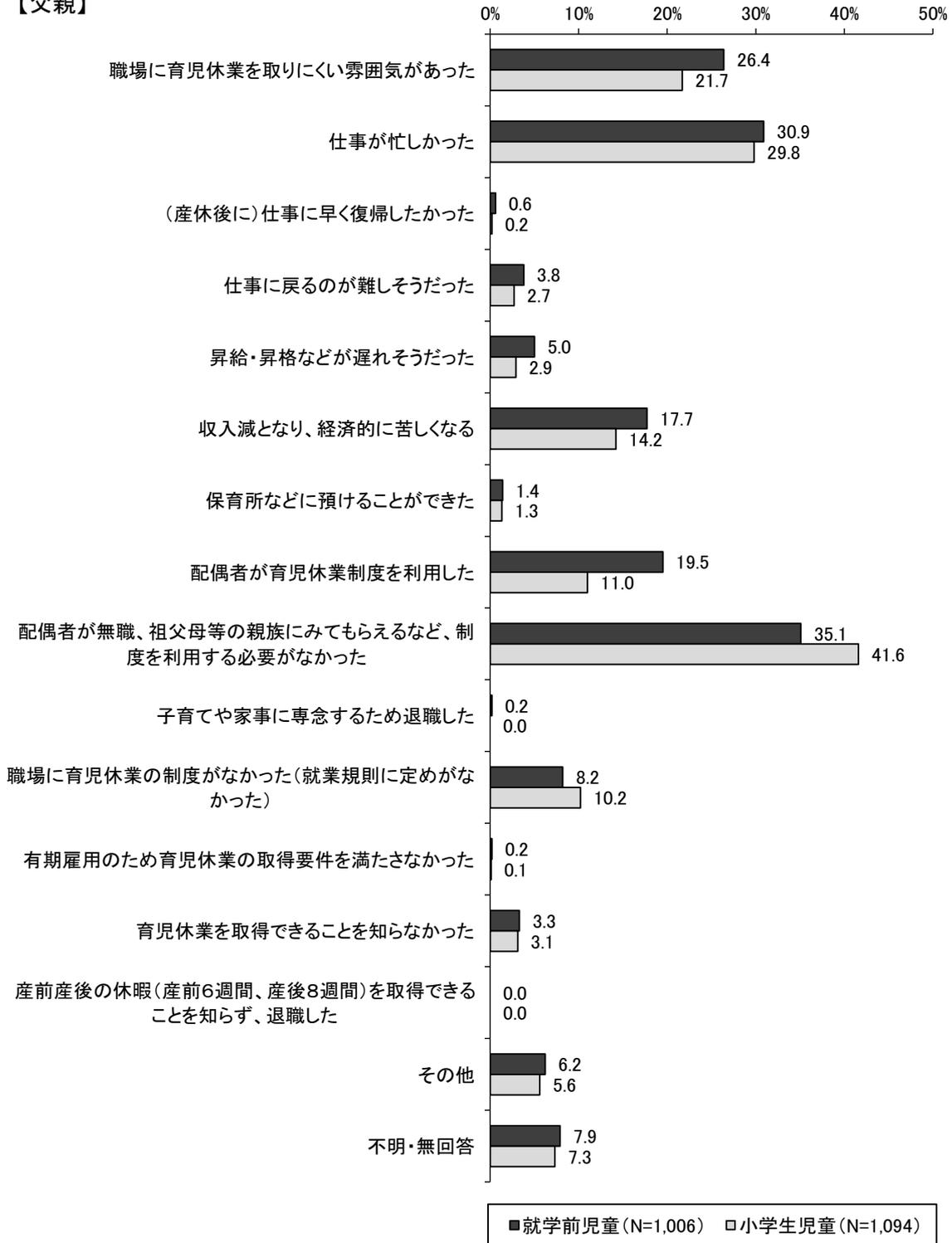


育児休業を取得していない理由については、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が就学前児童、小学生児童ともに最も高く、それぞれ40.3%、29.8%となっています。父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が就学前児童、小学生児童ともに最も高く、それぞれ35.1%、41.6%となっています。また、母親では「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が就学前児童で22.2%、小学生児童で16.6%となっています。

◎取得していない理由〈複数回答〉《「取得していない」を選んだ方》



【父親】



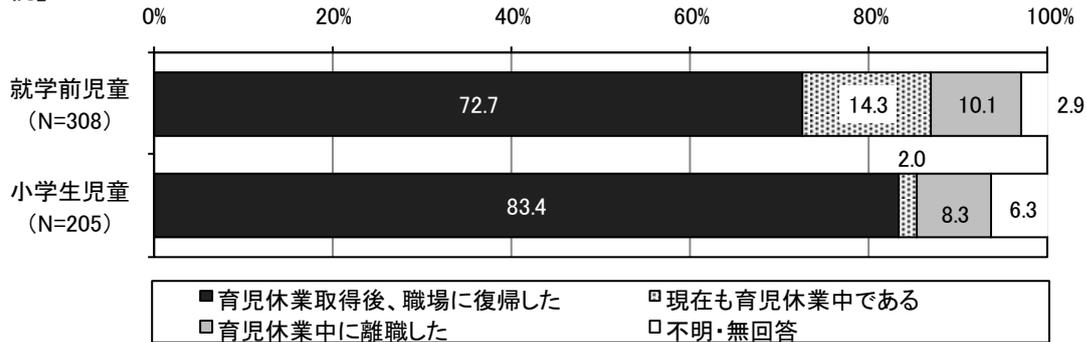
(2)で「取得した(取得中である)」を選んだ方

(2) - 1 育児休業取得後、職場に復帰したか〈単数回答〉

[就学前児童調査…問 30-1、小学生児童調査…問 20-1]

育児休業取得後、職場に復帰したかについてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も高く、それぞれ72.7%、83.4%となっています。父親についても、就学前児童、小学生児童ともに「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も高くなっています。

【母親】



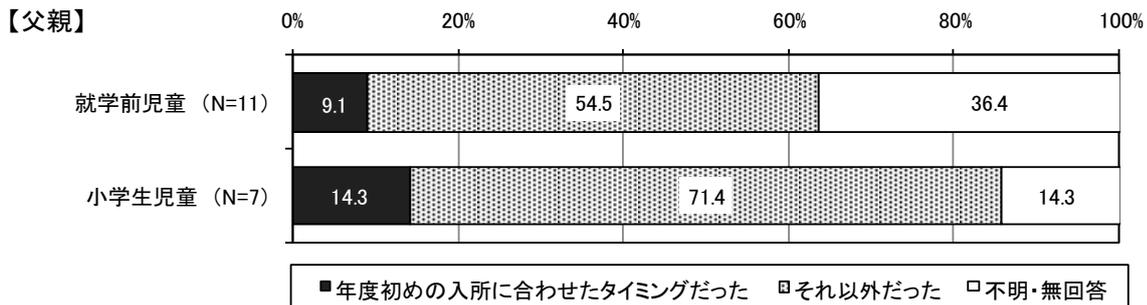
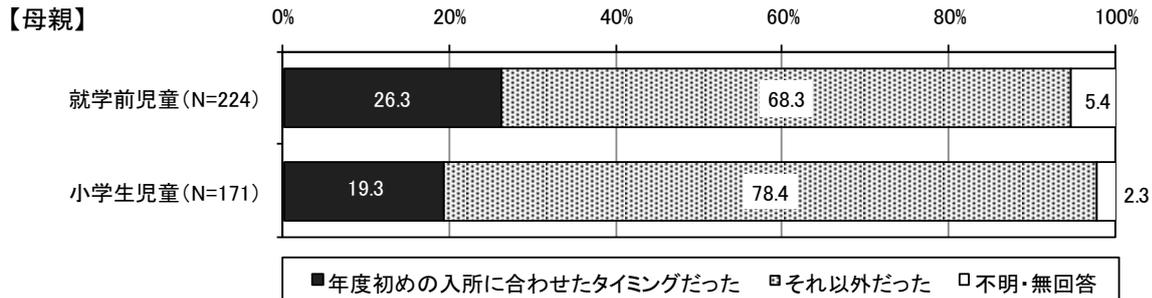
【父親】	就学前児童 N=15		小学生児童 N=10	
	件数	%	件数	%
育児休業取得後、職場に復帰した	11	73.3	7	70.0
現在も育児休業中である	0	0.0	0	0.0
育児休業中に離職した	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	4	26.7	3	30.0

(2) - 1で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方

(2) - 2 職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングか

〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 30-2、小学生児童調査…問 20-2〕

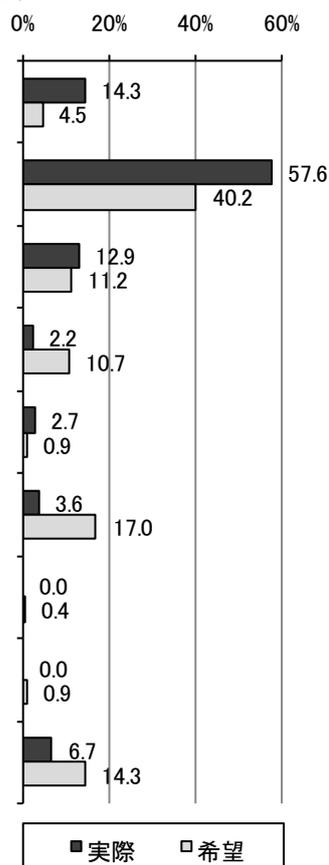
職場復帰の時期が、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングかについてみると、母親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が就学前児童で 26.3%、小学生児童で 19.3%、「それ以外だった」が就学前児童で 68.3%、小学生児童で 78.4%となっています。父親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が就学前児童で 9.1%、小学生児童で 14.3%、「それ以外だった」が就学前児童で 54.5%、小学生児童では 71.4%となっています。



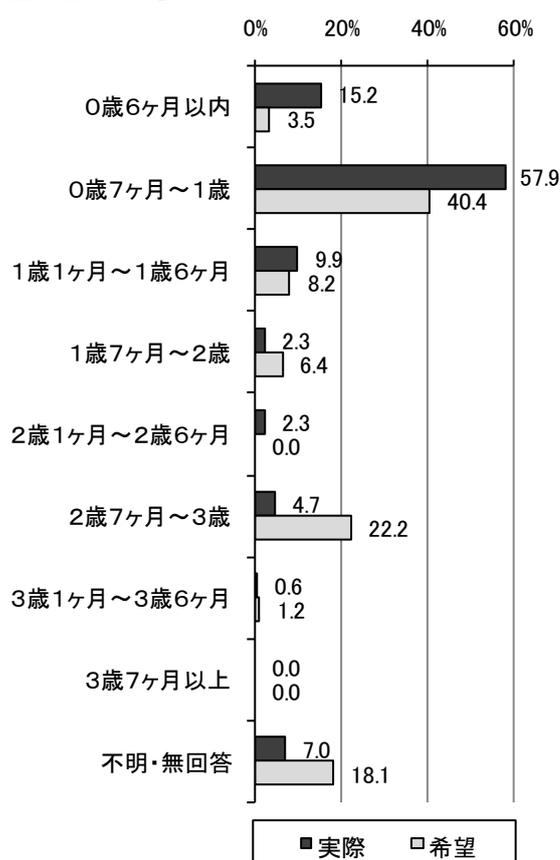
(2) - 3 育児休業からは、「実際」に子どもが何歳何ヶ月のときに職場復帰したか。また、勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取得したかったか〈数量回答〉〔就学前児童調査…問 30-3、小学生児童調査…問 20-3〕

職場復帰した時期の実際と希望についてみると、就学前児童の母親では、『実際』『希望』ともに「0歳7ヶ月～1歳」が最も高く、それぞれ57.6%、40.2%となっています。小学生児童の母親でも、『実際』『希望』ともに「0歳7ヶ月～1歳」が最も高く、それぞれ57.9%、40.4%となっています。また、父親では、『実際』『希望』ともに「0歳6ヶ月以内」が、それぞれ最も高くなっています。

【就学前児童・母親】(N=224)



【小学生児童・母親】(N=171)



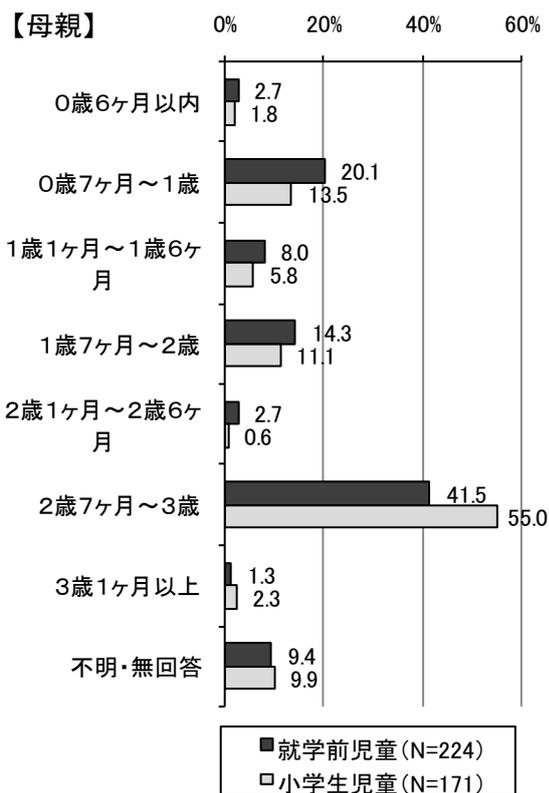
【就学前児童・父親】 育児休業の取得期間 (N=11)	実際		希望	
	件数	%	件数	%
0歳6ヶ月以内	6	54.5	3	27.3
0歳7ヶ月～1歳	0	0.0	1	9.1
1歳1ヶ月～1歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
1歳7ヶ月～2歳	0	0.0	0	0.0
2歳1ヶ月～2歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
2歳7ヶ月～3歳	0	0.0	0	0.0
3歳1ヶ月～3歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
3歳7ヶ月以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	5	45.5	7	63.6

【小学生児童・父親】 育児休業の取得期間 (N=7)	実際		希望	
	件数	%	件数	%
0歳6ヶ月以内	3	42.9	1	14.3
0歳7ヶ月～1歳	1	14.3	0	0.0
1歳1ヶ月～1歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
1歳7ヶ月～2歳	0	0.0	0	0.0
2歳1ヶ月～2歳6ヶ月	0	0.0	1	14.3
2歳7ヶ月～3歳	0	0.0	0	0.0
3歳1ヶ月～3歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
3歳7ヶ月以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	3	42.9	5	71.4

(2) - 4 職場に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」として子どもが何歳何ヶ月のときまで取得したかったか〈数量回答〉

〔就学前児童調査…問 30-4、小学生児童調査…問 20-4〕

職場に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合に、子どもが何歳何ヶ月のときまで取得したかったかについてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「2歳7ヶ月～3歳」が最も高く、それぞれ41.5%、55.0%となっています。また、父親では就学前児童、小学生児童ともに「0歳6ヶ月以内」が、それぞれ最も高くなっています。



【父親】	就学前児童 (N=11)		小学生児童 (N=7)	
	件数	%	件数	%
0歳6ヶ月以内	5	45.5	3	42.9
0歳7ヶ月～1歳	0	0.0	1	14.3
1歳1ヶ月～1歳6ヶ月	0	0.0	0	0.0
1歳7ヶ月～2歳	0	0.0	0	0.0
2歳1ヶ月～2歳6ヶ月	1	9.1	0	0.0
2歳7ヶ月～3歳	0	0.0	1	14.3
3歳1ヶ月以上	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	5	45.5	2	28.6

(2) - 3で実際の復帰と希望が異なる方

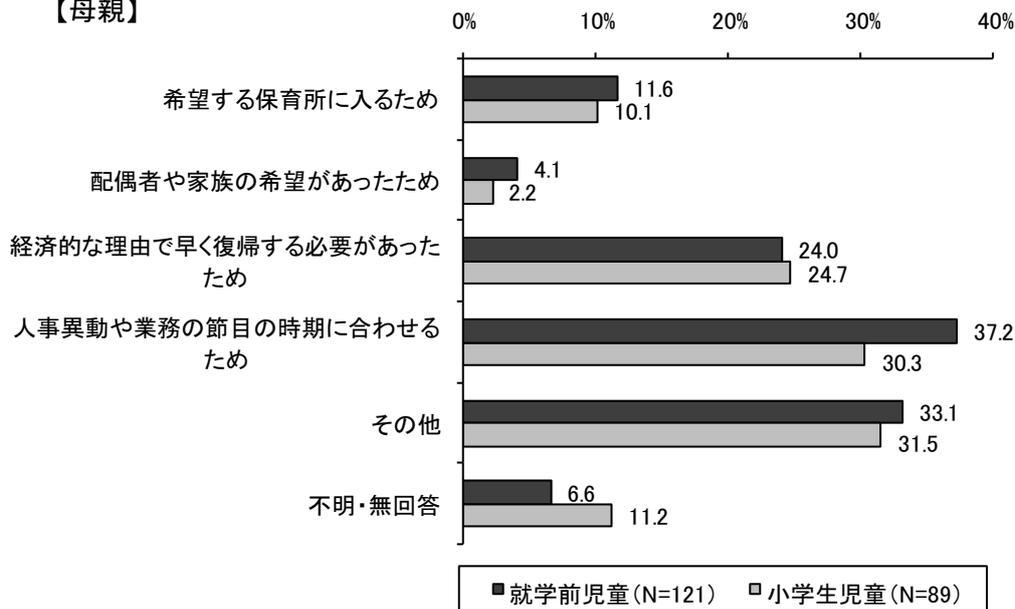
(2) - 5 希望の時期に職場復帰しなかった理由〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 30-5、小学生児童調査…問 20-5〕

育児休業期間の実際と希望が異なる方の、希望の時期に職場復帰しなかった理由についてみると、『希望』より早く復帰した方では、就学前児童の母親については、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が最も高く、37.2%となっています。小学生児童の母親については、「その他」が31.5%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が30.3%となっています。『希望』より遅く復帰した方では「希望する保育所に入れなかったため」が高くなっています。

①「希望」より早く復帰した方

【母親】



「希望」より早く復帰した方【父親】	就学前児童 (N=2)		小学生児童 (N=2)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入るため	0	0.0	0	0
配偶者や家族の希望があったため	0	0.0	0	0
経済的な理由で早く復帰する必要があったため	1	50.0	0	0
人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	0	0	0	0
その他	1	50.0	1	50
不明・無回答	0	0.0	1	50

②「希望」より遅く復帰した方

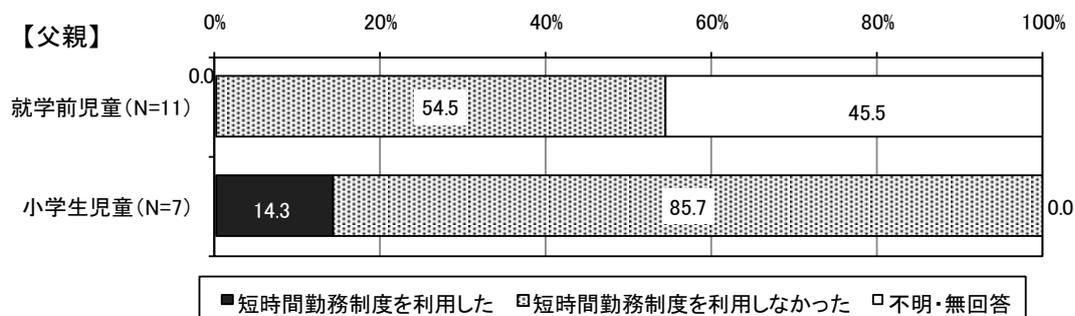
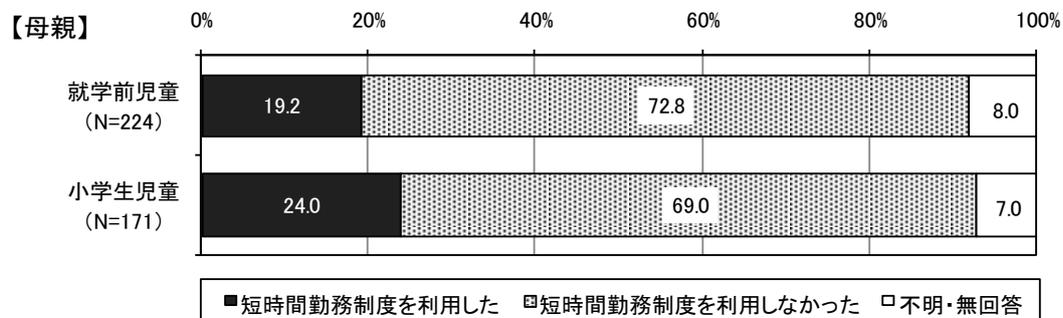
「希望」より遅く復帰した方【母親】	就学前児童 (N=9)		小学生児童 (N=6)	
	件数	%	件数	%
希望する保育所に入れなかったため	4	44.4	1	16.7
自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため	1	11.1	0	0.0
配偶者や家族の希望があったため	2	22.2	0	0.0
職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	2	22.2	0	0.0
子どもをみてくれる人がいなかったため	1	11.1	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	5	83.3

【父親】※該当なし

(2) - 6 職場復帰時の短期勤務制度の利用状況〈単数回答〉

[就学前児童調査…問 30-6、小学生児童調査…問 20-6]

短期勤務制度の利用状況についてみると、母親では就学前児童、小学生児童ともに、「短時間勤務制度を利用しなかった」が高く、それぞれ72.8%、69.0%となっています。父親でも就学前児童、小学生児童ともに、「短時間勤務制度を利用しなかった」が高くなっています。



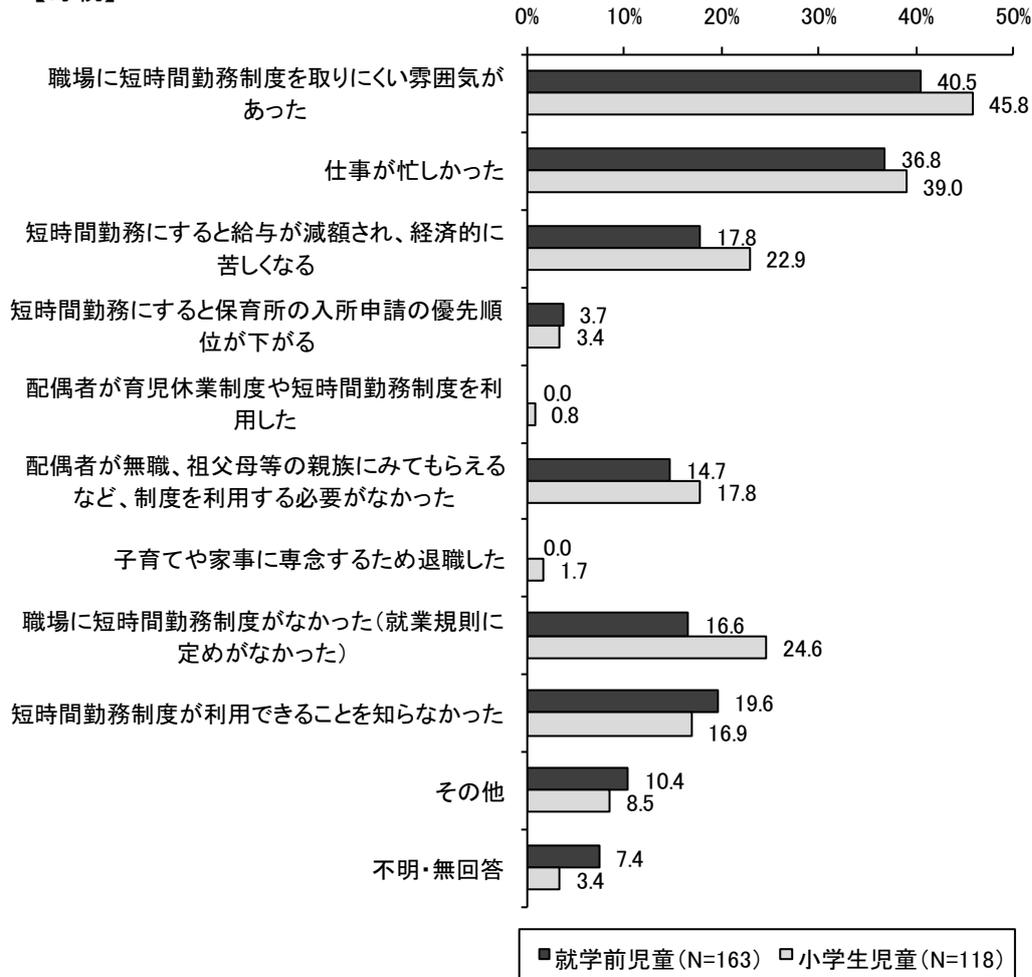
(2) - 6で「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」を選んだ方

(2) - 7 短時間勤務制度を利用しなかった理由〈複数回答〉

[就学前児童調査…問 30-7、小学生児童調査…問 20-7]

短時間勤務制度を利用しなかった理由についてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が最も高く、それぞれ40.5%、45.8%となっています。また、就学前児童の父親では「仕事が忙しかった」、小学生児童の父親では「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が高くなっています。

【母親】



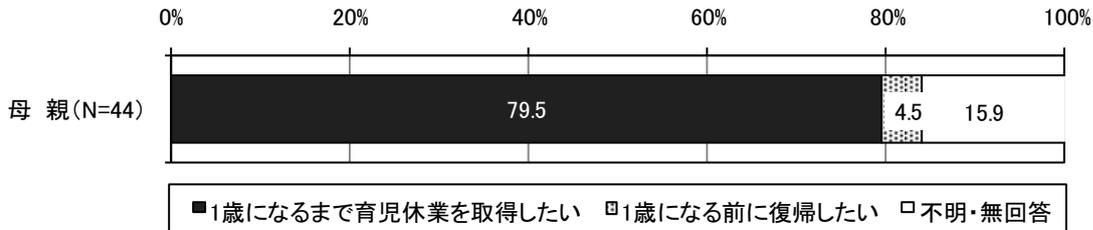
【父親】	就学前児童 (N=6)		小学生児童 (N=6)	
	件数	%	件数	%
職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった	0	0.0	1	16.7
仕事が忙しかった	3	50.0	2	33.3
短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる	1	16.7	0	0.0
短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる	0	0.0	0	0.0
配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した	0	0.0	1	16.7
配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった	2	33.3	3	50.0
子育てや家事に専念するため退職した	0	0.0	0	0.0
職場に短時間勤務制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	1	16.7	0	0.0
短時間勤務制度が利用できることを知らなかった	1	16.7	1	16.7
その他	1	16.7	0	0.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0

(2) - 1で「現在も育児休業中である」を選んだ方

(2) - 8 子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するか〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 30-8〕

現在も育児休業中の方で、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するかについてみると、母親では「1歳になるまで育児休業を取得したい」が79.5%と約8割を占めています。

【母親】

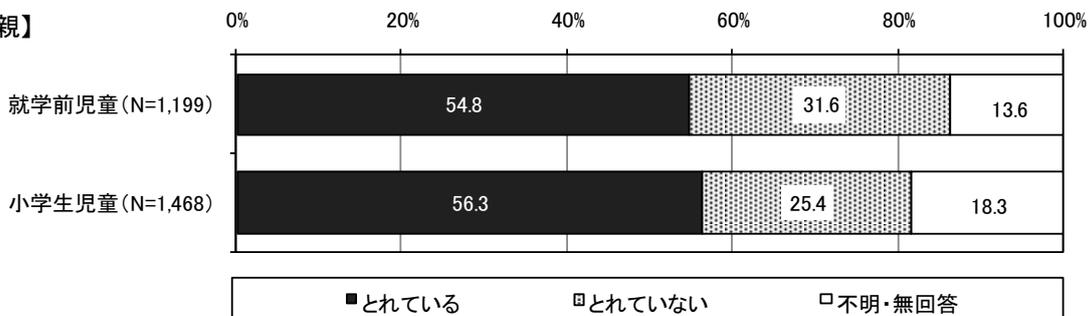


【父親】 ※該当なし

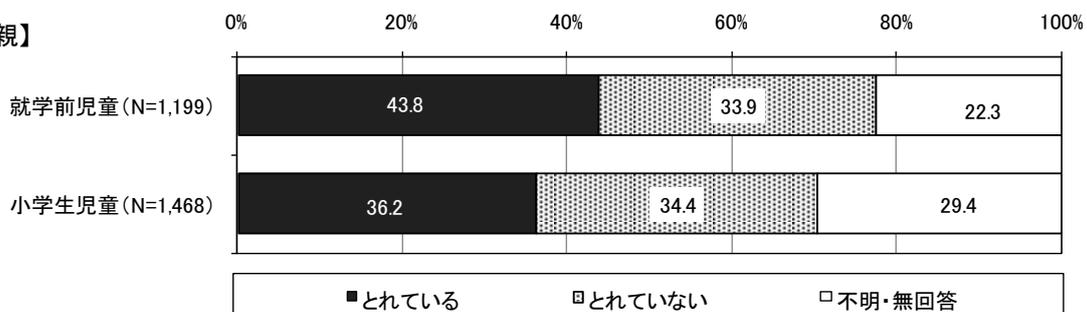
(3) 子どもと一緒に過ごす時間や親の介護、自己実現のための時間が十分にとれているか
〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 31、小学生児童調査…問 21〕

子どもと一緒に過ごす時間や親の介護、自己実現のための時間が十分にとれているかについてみると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「とれている」が最も高く、それぞれ54.8%、56.3%となっています。

【母親】



【父親】

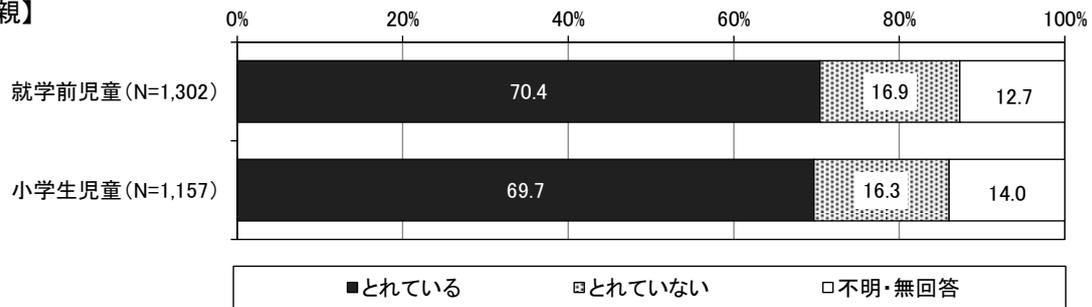


前回調査比較：子育てや介護、自己実現のための時間が十分とれているか

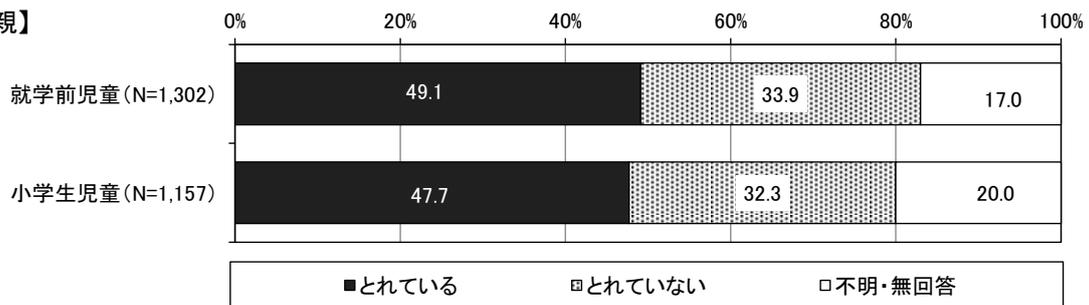
前回調査と比較すると、母親では就学前児童、小学生児童ともに「とれている」割合が減少し、「とれていない」割合が増加しています。また、父親でも就学前児童、小学生児童ともに「とれている」割合は今回調査の方が低くなっています。母親、父親ともに前回調査より子育てや介護、自己実現に十分な時間を確保できていない状況です。

【前回調査結果（平成 21 年）】

【母親】



【父親】



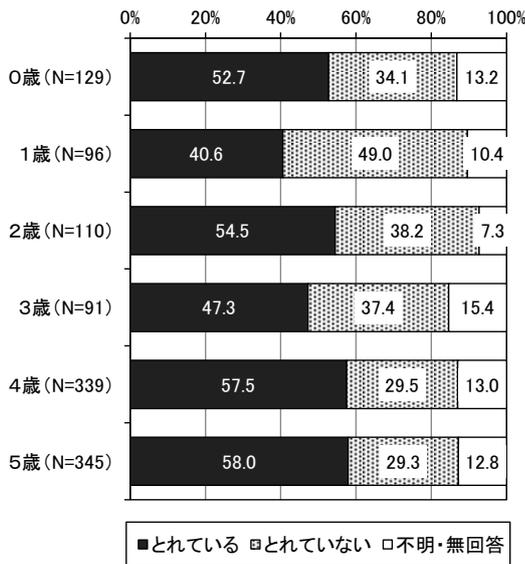
年齢別×子育てや介護、自己実現のための時間が十分とれているか

年齢別に母親をみると、就学前児童では「1歳」では「とれている」割合が4割とやや他の年齢より低くなっていますが、その他の年齢では半数程度が「とれている」と回答しています。小学生児童では、すべての学年で6割程度が「とれている」と回答しています。

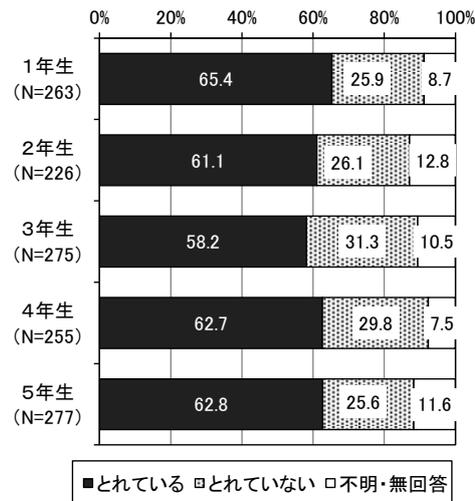
また、父親については、すべての年齢、学年で「とれている」と「とれていない」がほぼ同じ割合になっています。

◎母親

就学前児童

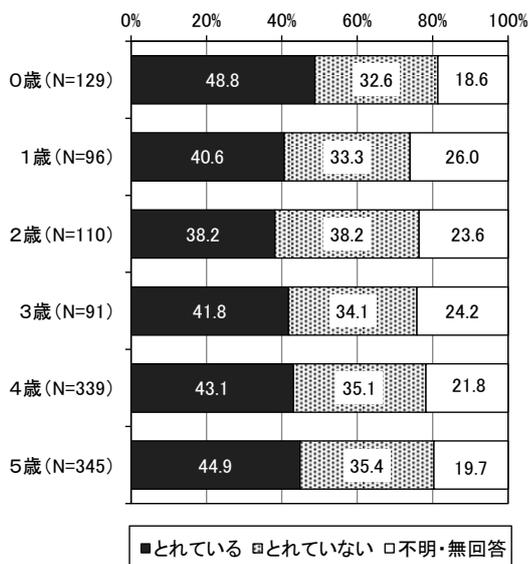


小学生児童

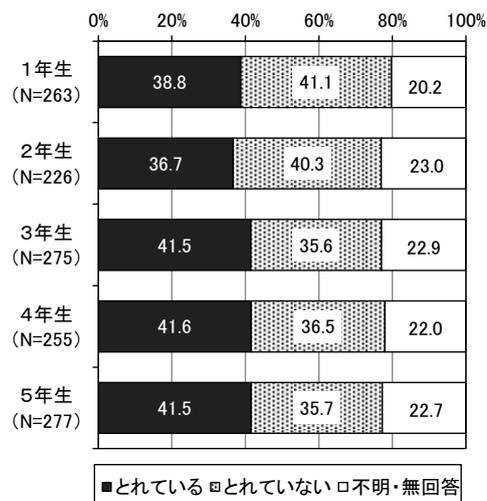


◎父親

就学前児童



小学生児童

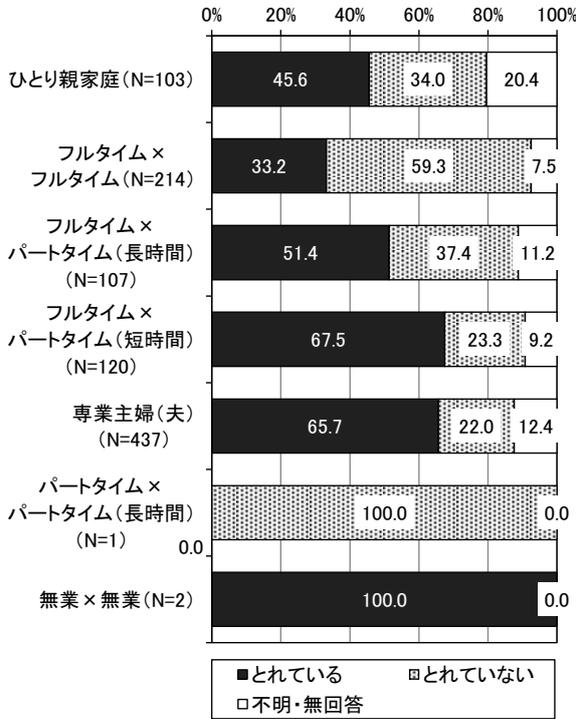


家庭類型別×子育てや介護、自己実現のための時間が十分とれているか

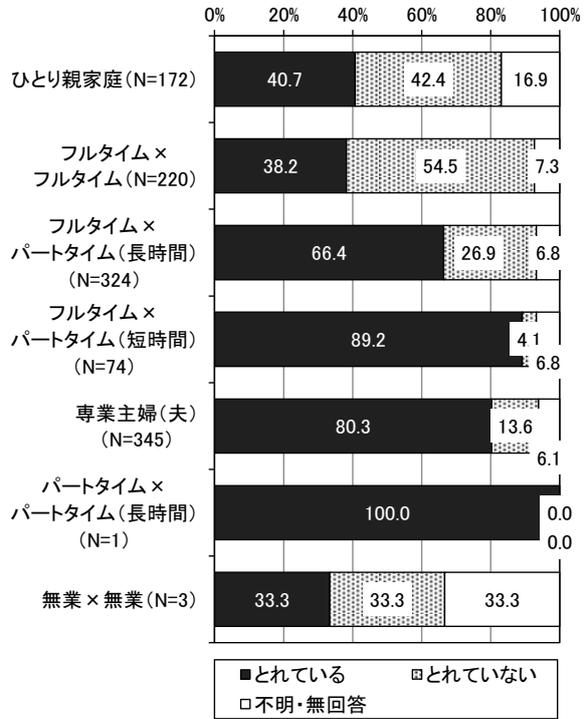
家庭類型別に母親をみると、就学前児童、小学生児童ともに〔フルタイム×フルタイム〕で「とれていない」割合が他の家庭類型に比べて高くなっており、父親でも同様の傾向となっています。

◎母親

就学前児童

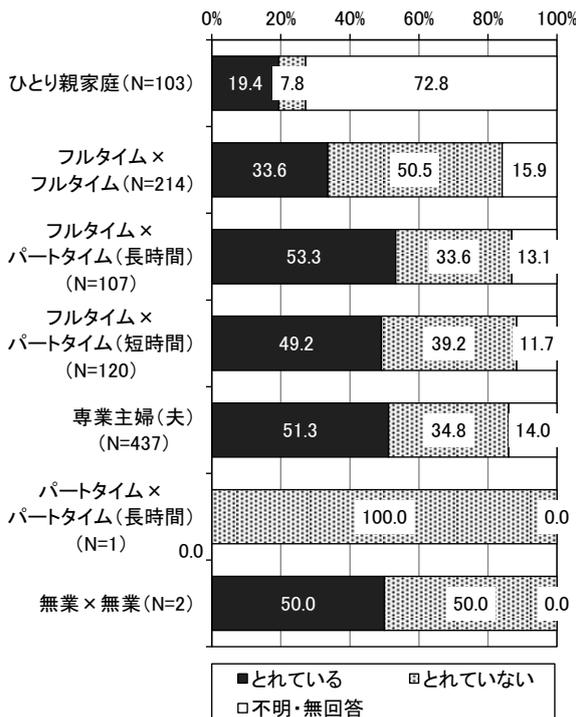


小学生児童

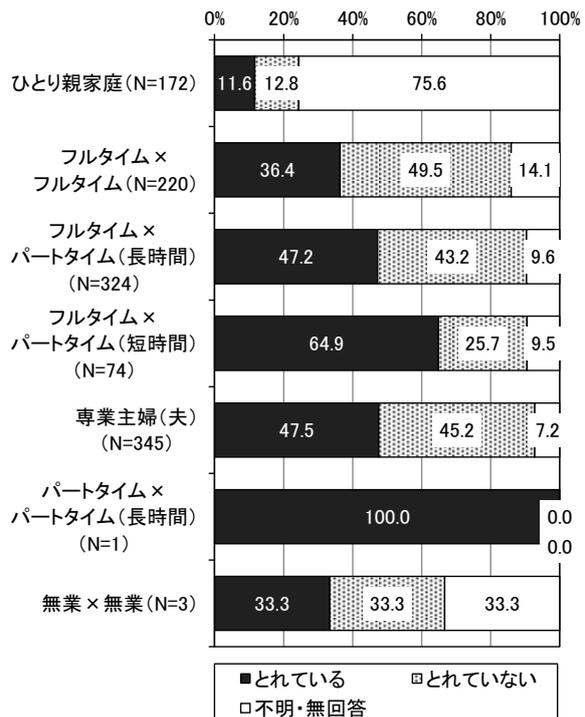


◎父親

就学前児童



小学生児童



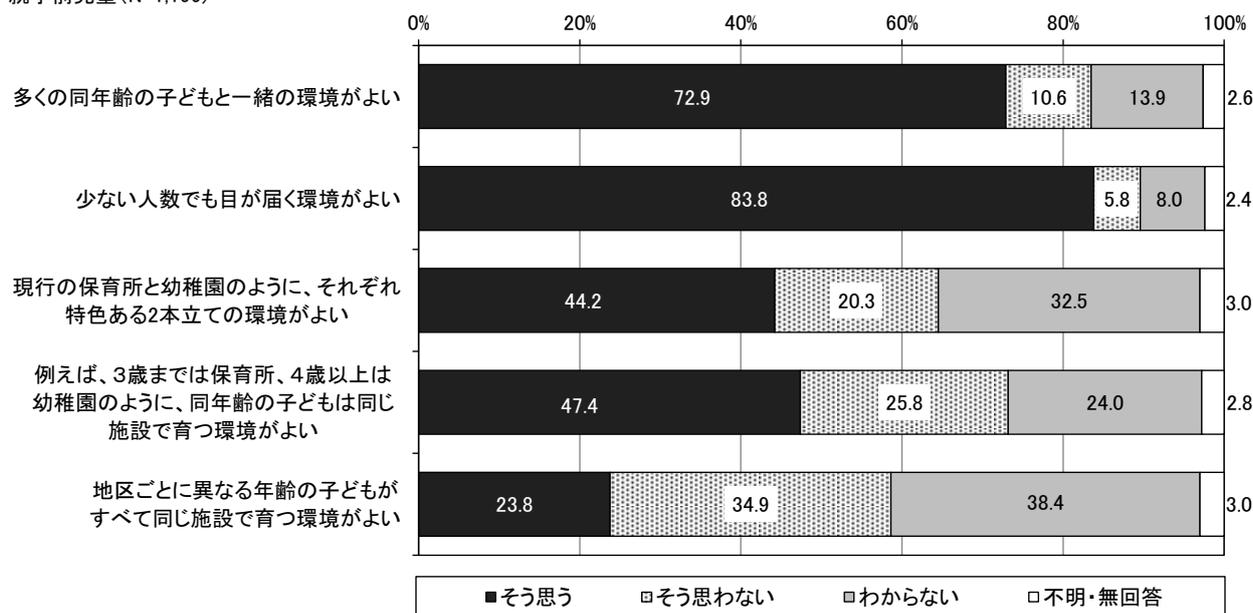
赤穂市での子育てや子育て支援サービスについて

(1) 赤穂市で教育・保育環境を整備していくときに重要だと思うこと〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 32〕

赤穂市で教育・保育環境を整備していくときに重要だと思うことについてみると、『そう思う』で、「少ない人数でも目が届く環境がよい」が83.8%と最も高くなっています。次いで「多くの同年齢の子どもと一緒に環境がよい」が72.9%となっています。

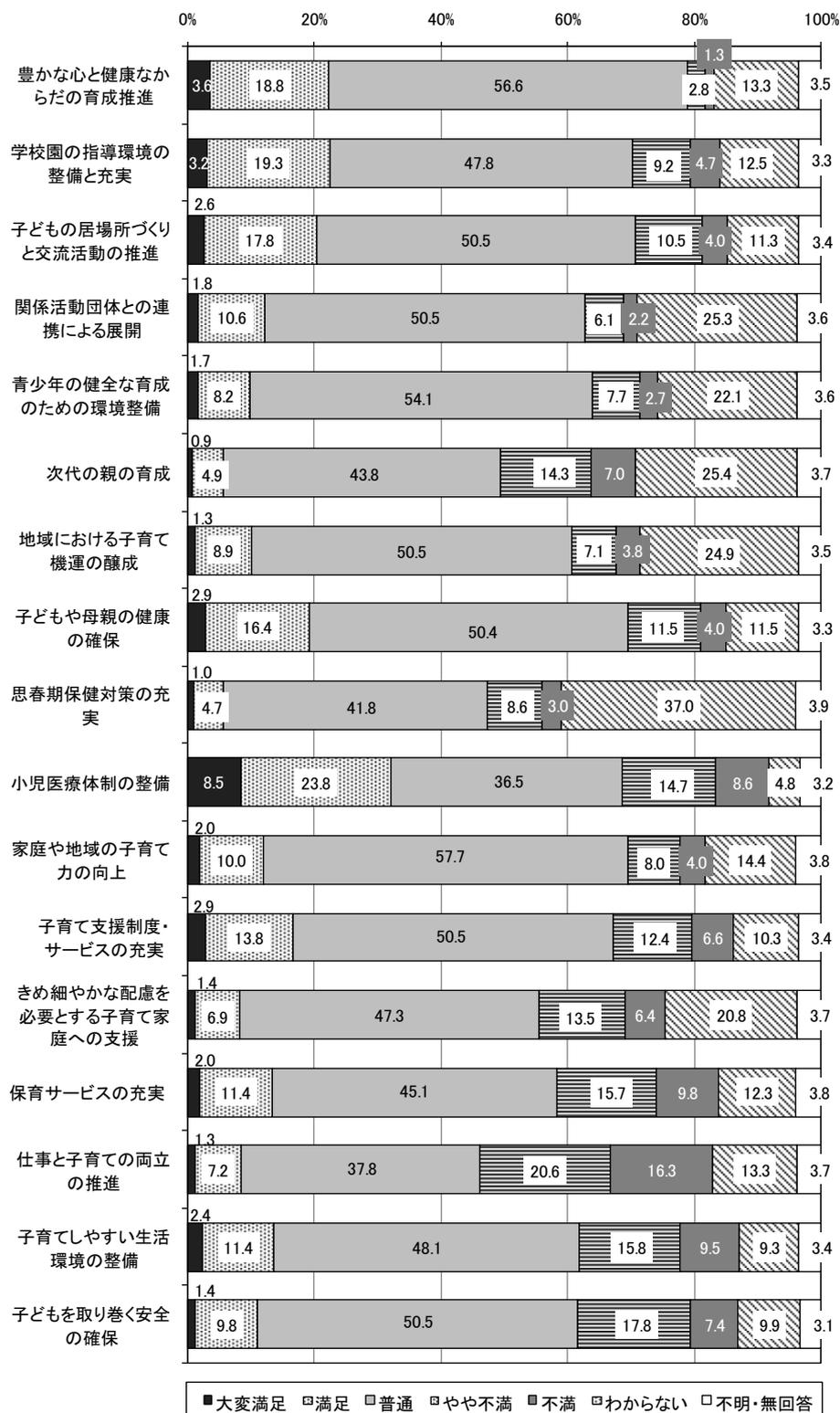
就学前児童(N=1,199)



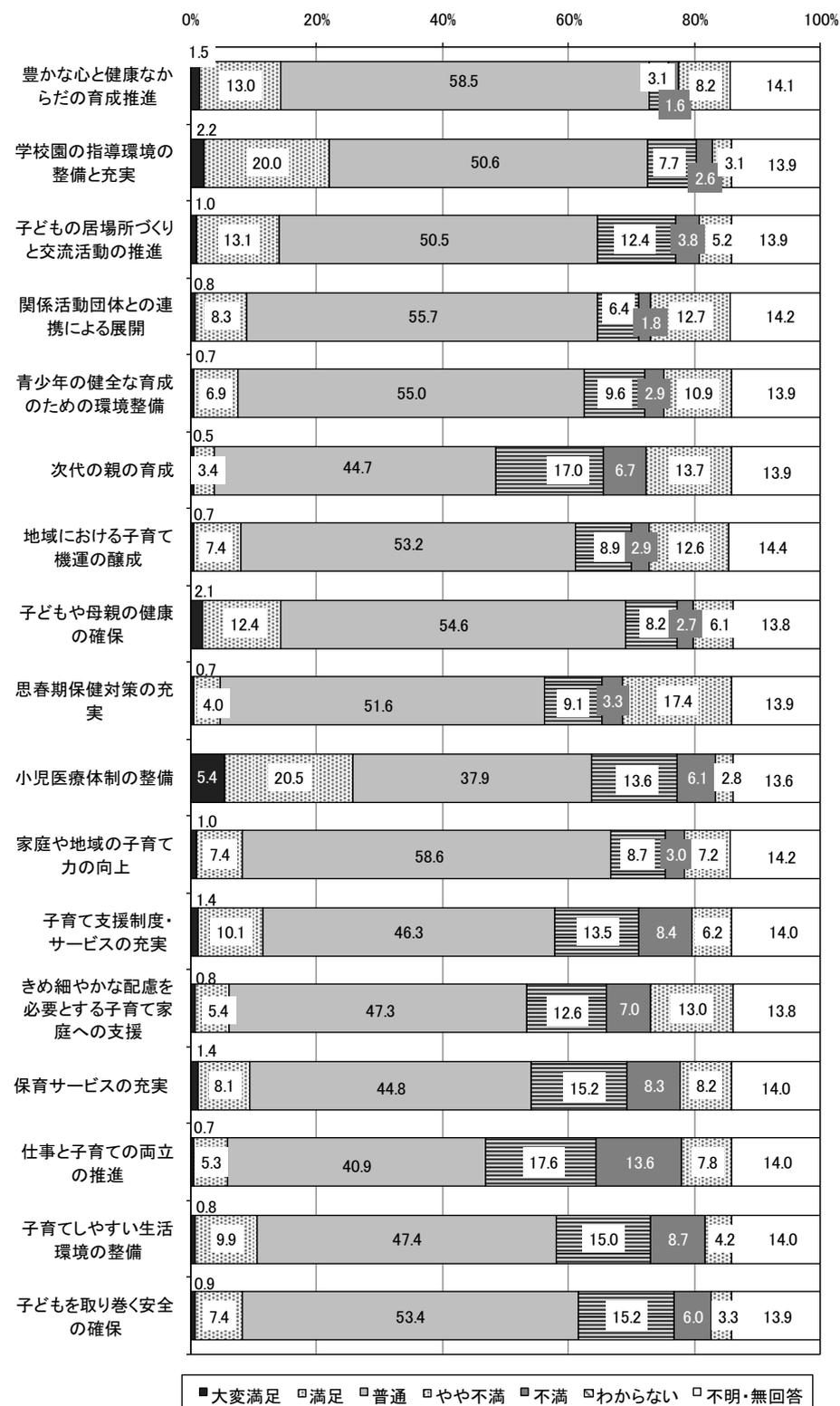
(2) 行政の取り組みに対する満足度〈単数回答〉〔就学前児童調査…問 33、小学生児童調査…問 24〕

行政の取り組みに対する満足度についてみると、『大変満足』『満足』を合わせた『満足』で、就学前児童、小学生児童ともに「小児医療体制の整備」が最も高くなっています。次いで、「学校園の指導環境の整備と充実」が高くなっています。

就学前児童(N=1,199)



小学生児童(N=1468)



評価：行政の取り組みに対して感じること

行政の取り組みに対して感じることを点数化し、評価すると以下のようになります。

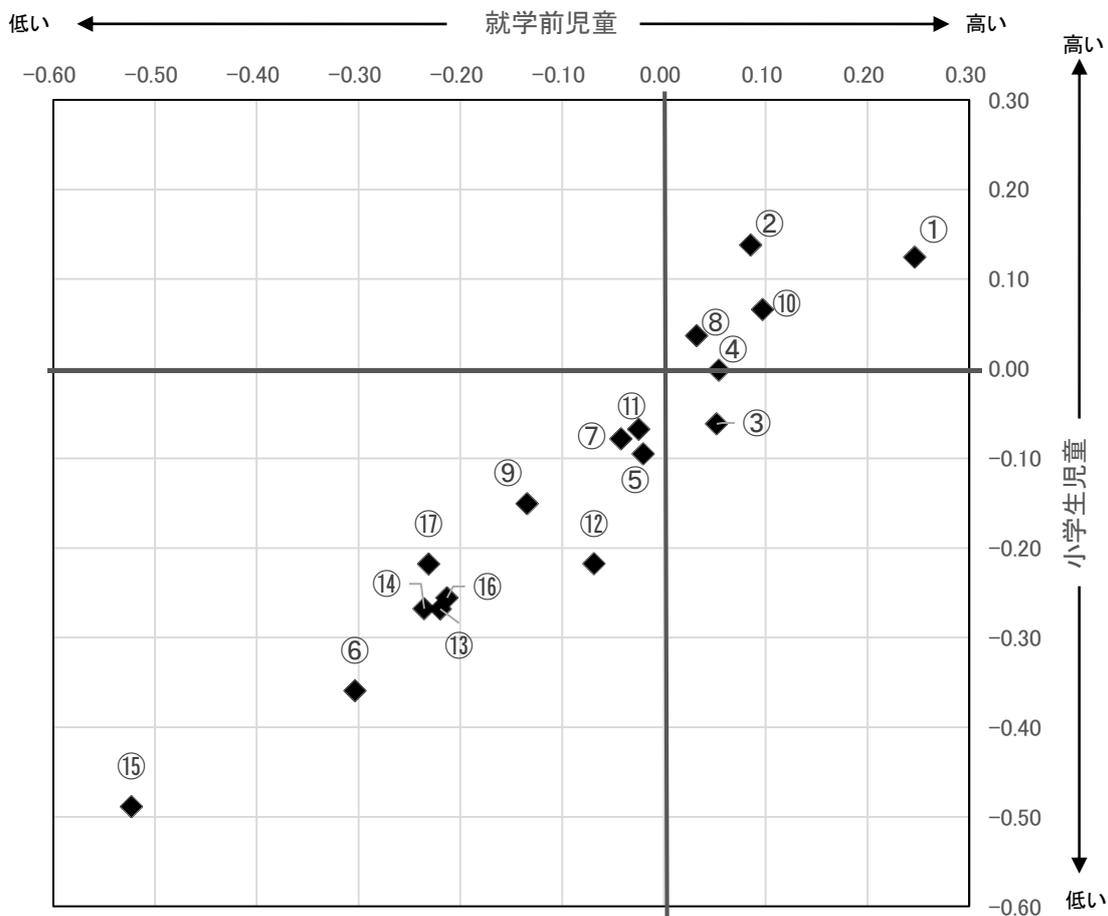
最も評価が高かったのは就学前児童では「①豊かな心と健康なからだの育成推進」、小学生児童では「②学校園の指導環境の整備と充実」であり、上位3位は同じ項目となっています。また、最も評価が低かったのは、就学前児童、小学生児童ともに「⑮仕事と子育ての両立の推進」となっています。

就学前児童、小学生児童の評価の状況を総合的にみると、保健や医療に関する項目の満足度が高くなっていますが、子育てと仕事の両立に関する項目の満足度は低くなっています。

※点数の算出方法：回答結果に対して「大変満足」+2、「満足」+1、「やや不満」-1、「不満」-2とし、平均得点を算出しました。（「普通」「わからない」「不明・無回答」は除く）

行政の取り組み (次世代後期計画の体系)	就学前調査		小学生調査		
	点数	順位	点数	順位	
子どもたちの生きる力と豊かな心を育みます	①豊かな心と健康なからだの育成推進	0.25	1	0.12	2
	②学校園の指導環境の整備と充実	0.09	3	0.14	1
	③子どもの居場所づくりと交流活動の推進	0.05	5	-0.06	6
	④関係活動団体との連携による展開	0.05	4	0.00	5
	⑤青少年の健全な育成のための環境整備	-0.02	7	-0.10	9
次代の親づくりに取り組みます	⑥次代の親の育成	-0.30	16	-0.36	16
	⑦地域における子育て機運の醸成	-0.04	9	-0.08	8
子どもが健やかに生まれ育つ環境を充実します	⑧子どもや母親の健康の確保	0.03	6	0.04	4
	⑨思春期保健対策の充実	-0.13	11	-0.15	10
	⑩小児医療体制の整備	0.10	2	0.07	3
すべての家庭の子育てを応援します	⑪家庭や地域の子育て力の向上	-0.02	8	-0.07	7
	⑫子育て支援制度・サービスの充実	-0.07	10	-0.22	11
	⑬きめ細やかな配慮を必要とする子育て家庭への支援	-0.22	13	-0.27	15
子育てと仕事の両立が図れるよう支援します	⑭保育サービスの充実	-0.24	15	-0.27	14
	⑮仕事と子育ての両立の推進	-0.52	17	-0.49	17
子どもと子育て家庭にやさしい環境をつくります	⑯子育てしやすい生活環境の整備	-0.21	12	-0.26	13
	⑰子どもを取り巻く安全の確保	-0.23	14	-0.22	12

■就学前児童、小学生児童の評価の状況

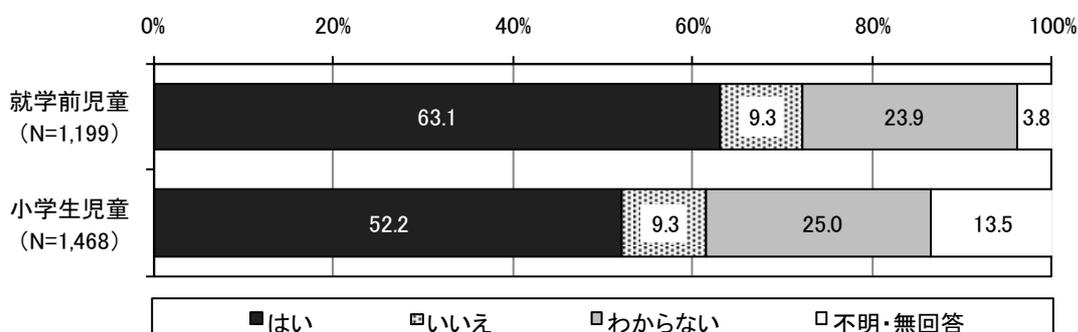


- ①豊かな心と健康なからだの育成推進
- ②学校園の指導環境の整備と充実
- ③子どもの居場所づくりと交流活動の推進
- ④関係活動団体との連携による展開
- ⑤青少年の健全な育成のための環境整備
- ⑥次代の親の育成
- ⑦地域における子育て機運の醸成
- ⑧子どもや母親の健康の確保
- ⑨思春期保健対策の充実
- ⑩小児医療体制の整備
- ⑪家庭や地域の子育て力の向上
- ⑫子育て支援制度・サービスの充実
- ⑬きめ細やかな配慮を必要とする子育て家庭への支援
- ⑭保育サービスの充実
- ⑮仕事と子育ての両立の推進
- ⑯子育てしやすい生活環境の整備
- ⑰子どもを取り巻く安全の確保

(3) 赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思うか〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 34、小学生児童調査…問 25〕

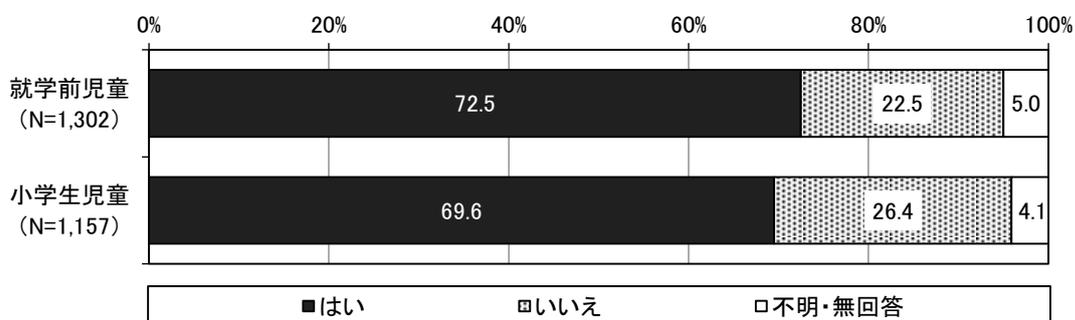
赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思うかについてみると、就学前児童、小学生児童ともに「はい」が最も高く、それぞれ 63.1 %、52.2 %となっています。



前回調査比較：赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思うか

前回調査と比較すると、今回調査では「わからない」という選択肢が増えているため、「はい」「いいえ」の割合に変化が生じており、就学前児童、小学生児童ともに「はい」「いいえ」の割合が今回調査のほうが低くなっています。

【前回調査結果（平成 21 年）】

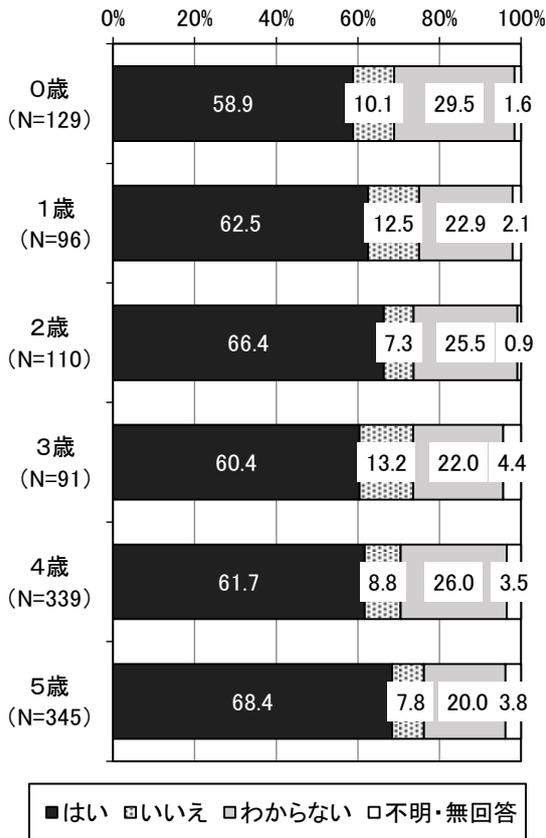


年齢別×赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思うか

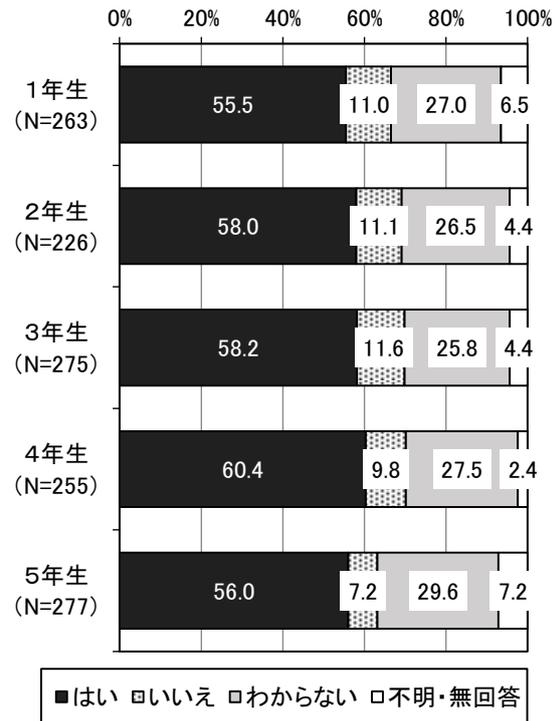
就学前児童について年齢別にみると、[0歳]では「はい」が58.9%と他の年齢に比べて低くなっていますが、「わからない」との回答も3割おり、市の子育て施策の認識がまだあまりないことがうかがえます。

小学生児童について年齢別にみると、すべての学年で「ある」が5割後半から6割程度となっています。

就学前児童



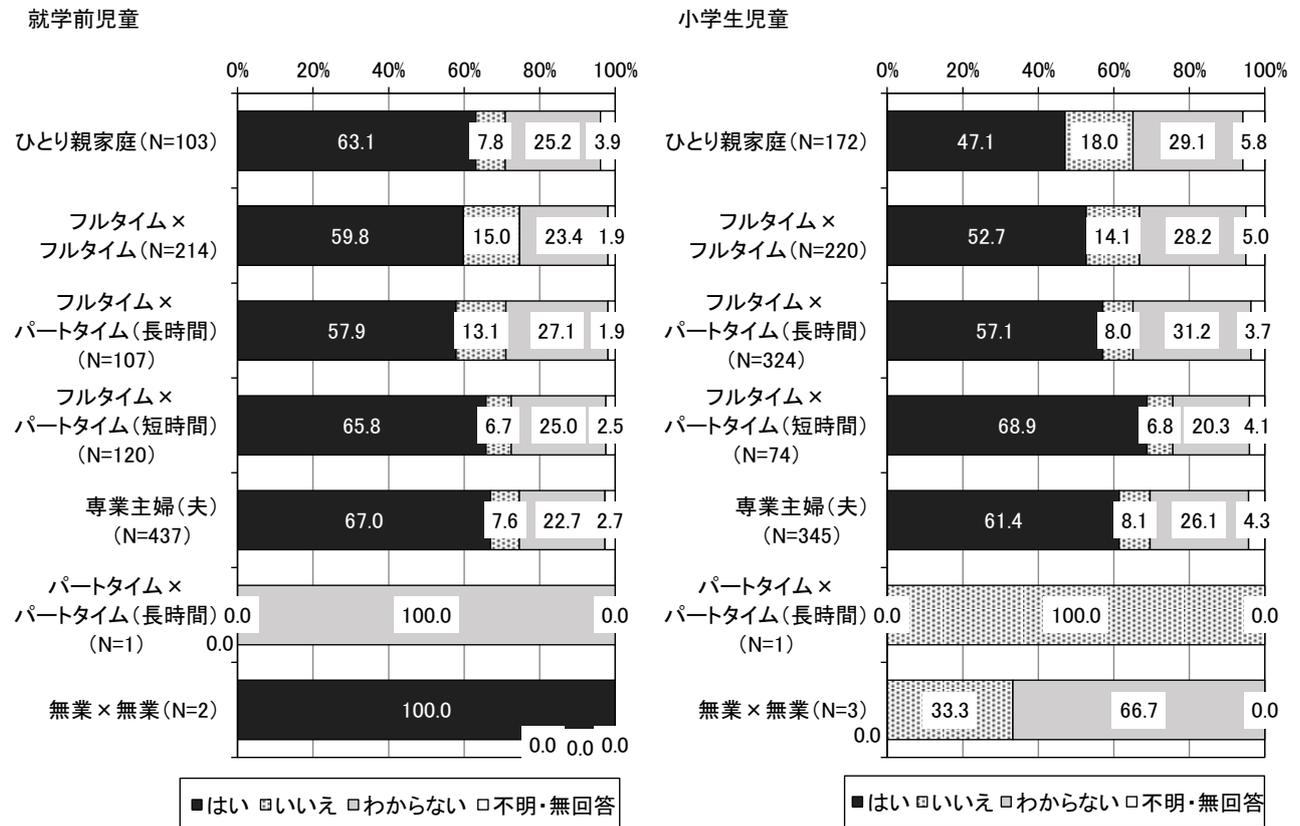
小学生児童



家庭類型別×赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思うか

家庭類型別に就学前児童をみると、[フルタイム×フルタイム][フルタイム×パートタイム(長時間)]では「はい」の割合がやや低く6割以下となっており、「いいえ」が他の家庭類型に比べてやや高くなっています。

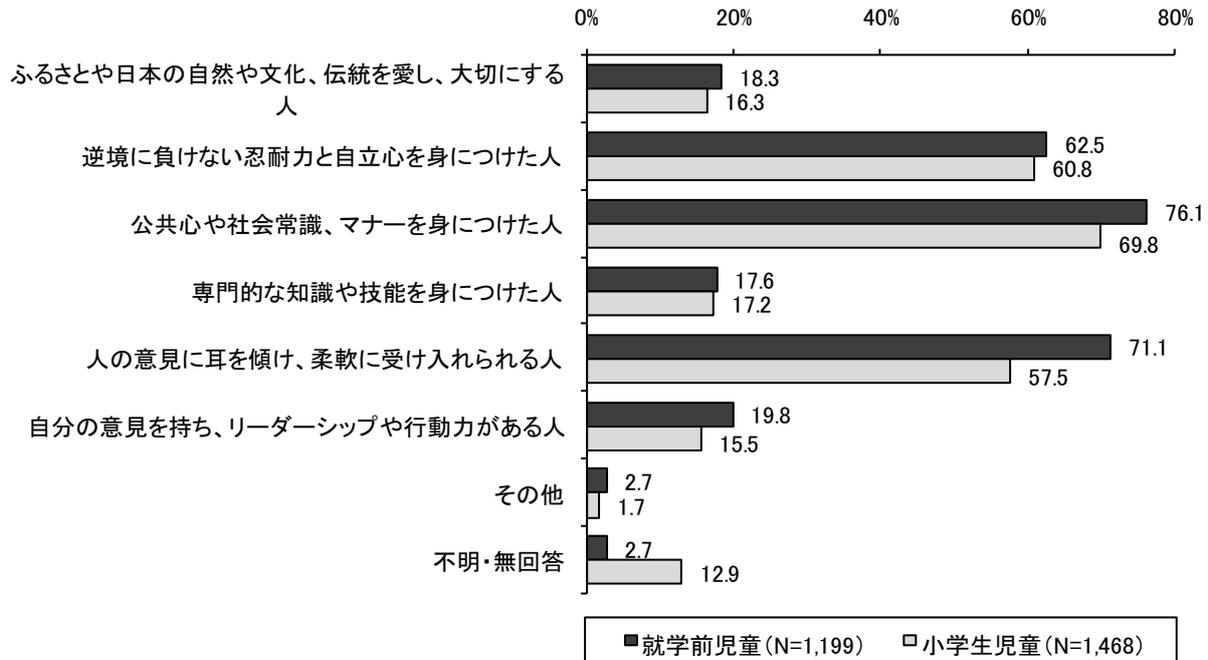
小学生児童をみると、[ひとり親家庭]で「はい」の割合が47.1%と低くなっています。



(4) 将来、お子さんにどのような人に育ってほしいと思うか〈複数回答〉

〔就学前児童調査…問 35、小学生児童調査…問 26〕

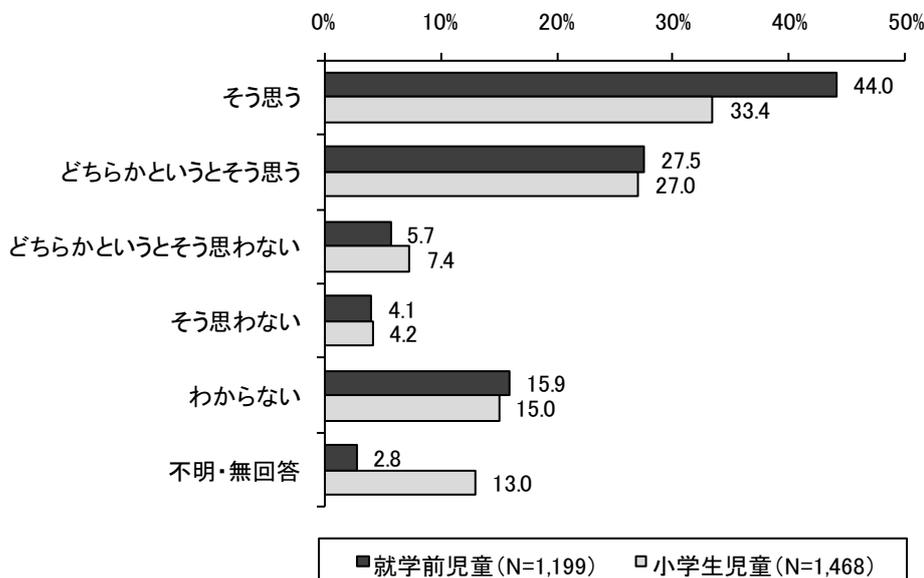
将来、お子さんにどのような人に育ってほしいと思うかについてみると、就学前児童、小学生児童ともに「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」が最も高く、それぞれ76.1%、69.8%となっています。次いで就学前児童では「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が71.1%、小学生児童では「逆境に負けない忍耐力と自立心を身につけた人」が60.8%となっています。



(5) これからもお子さんに赤穂市で育ってほしいと思うか〈単数回答〉

〔就学前児童調査…問 36、小学生児童調査…問 27〕

これからもお子さんに赤穂市で育ってほしいと思うかについてみると、就学前児童、小学生児童ともに「そう思う」が最も高く、44.0%、33.4%となっています。



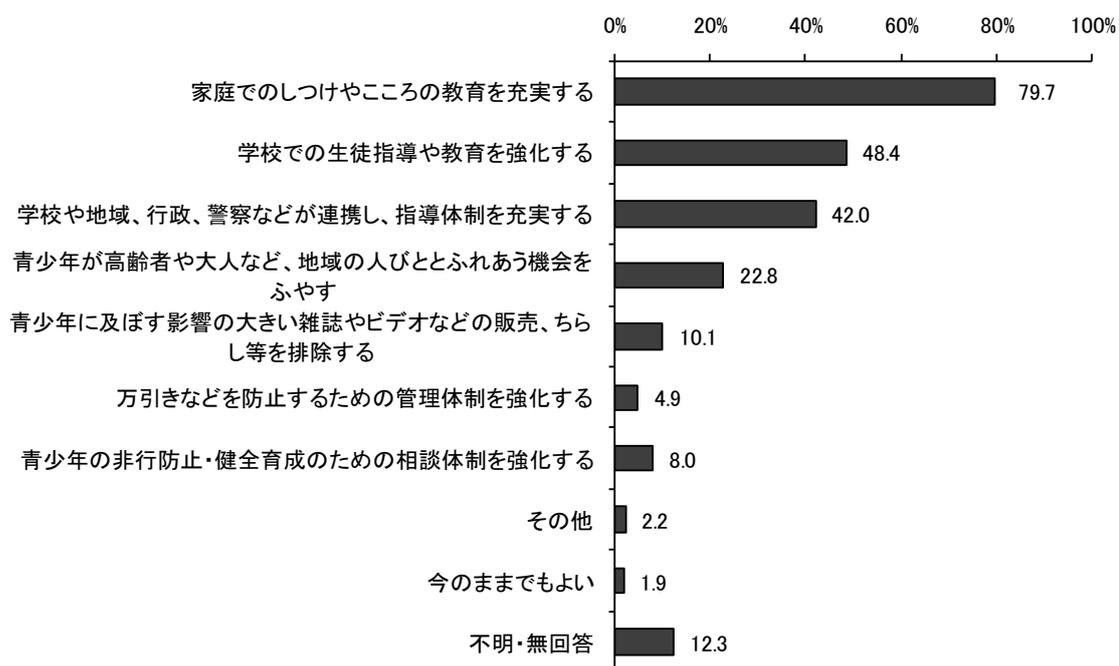
子どもの安全の確保について（小学生児童）

（１）子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思われること

〈複数回答〉〔小学生児童調査…問 22〕

子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思われることについてみると、「家庭でのしつけやこころの教育を充実する」が 79.7%と最も高く、次いで「学校での生徒指導や教育を強化する」が 48.4%となっています。

小学生児童 (N=1,468)

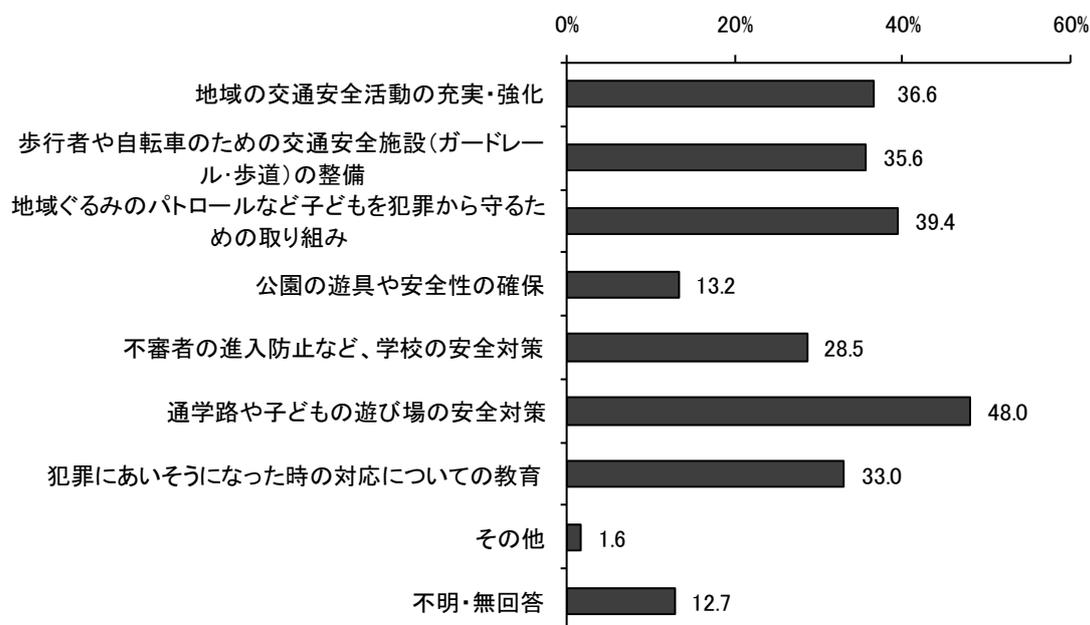


(2) 子どもの安全を守るために、特に重要と思われること〈複数回答〉

〔小学生児童調査…問 23〕

子どもの健全育成や非行防止のために、力をいれるべきと思われることについてみると、「通学路や子どもの遊び場の安全対策」が48.0%と最も高く、次いで「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み」が39.4%となっています。

小学生児童(N=1,468)



小学校区別×子どもの安全を守るために、特に重要と思われること

小学校区別にみると、[赤穂西小学校区][有年小学校区]を除くすべての小学校区で「通学路や子供の遊び場の安全対策」が最も高くなっています。[赤穂西小学校区]では「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み」が、[有年小学校区]では「地域の交通安全活動の充実・強化」が最も高くなっています。

【小学生児童】 年齢別	赤穂小学校区		城西小学校区		塩屋小学校区		赤穂西小学校区		尾崎小学校区		御崎小学校区		坂越小学校区		高雄小学校区		有年小学校区		原小学校区	
	N=217		N=159		N=224		N=40		N=276		N=173		N=102		N=54		N=28		N=37	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
地域の交通安全活動の充実・強化	97	44.7	53	33.3	96	42.9	12	30.0	106	38.4	67	38.7	39	38.2	25	46.3	15	53.6	13	35.1
歩行者や自転車のための交通安全施設(ガードレール・歩道)の整備	98	45.2	61	38.4	80	35.7	11	27.5	115	41.7	53	30.6	49	48.0	21	38.9	7	25.0	15	40.5
地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み	83	38.2	81	50.9	103	46.0	23	57.5	110	39.9	69	39.9	43	42.2	21	38.9	13	46.4	19	51.4
公園の遊具や安全性の確保	26	12.0	28	17.6	33	14.7	6	15.0	43	15.6	30	17.3	14	13.7	2	3.7	2	7.1	3	8.1
不審者の進入防止など、学校の安全対策	75	34.6	54	34.0	70	31.3	9	22.5	87	31.5	51	29.5	29	28.4	12	22.2	11	39.3	8	21.6
通学路や子どもの遊び場の安全対策	115	53.0	81	50.9	136	60.7	18	45.0	144	52.2	80	46.2	53	52.0	30	55.6	13	46.4	21	56.8
犯罪にあいそようになった時の対応についての教育	75	34.6	66	41.5	76	33.9	17	42.5	99	35.9	67	38.7	33	32.4	18	33.3	10	35.7	13	35.1
その他	4	1.8	5	3.1	2	0.9	1	2.5	5	1.8	2	1.2	1	1.0	0	0.0	1	3.6	0	0.0
不明・無回答	10	4.6	5	3.1	3	1.3	2	5.0	15	5.4	13	7.5	7	6.9	1	1.9	0	0.0	1	2.7